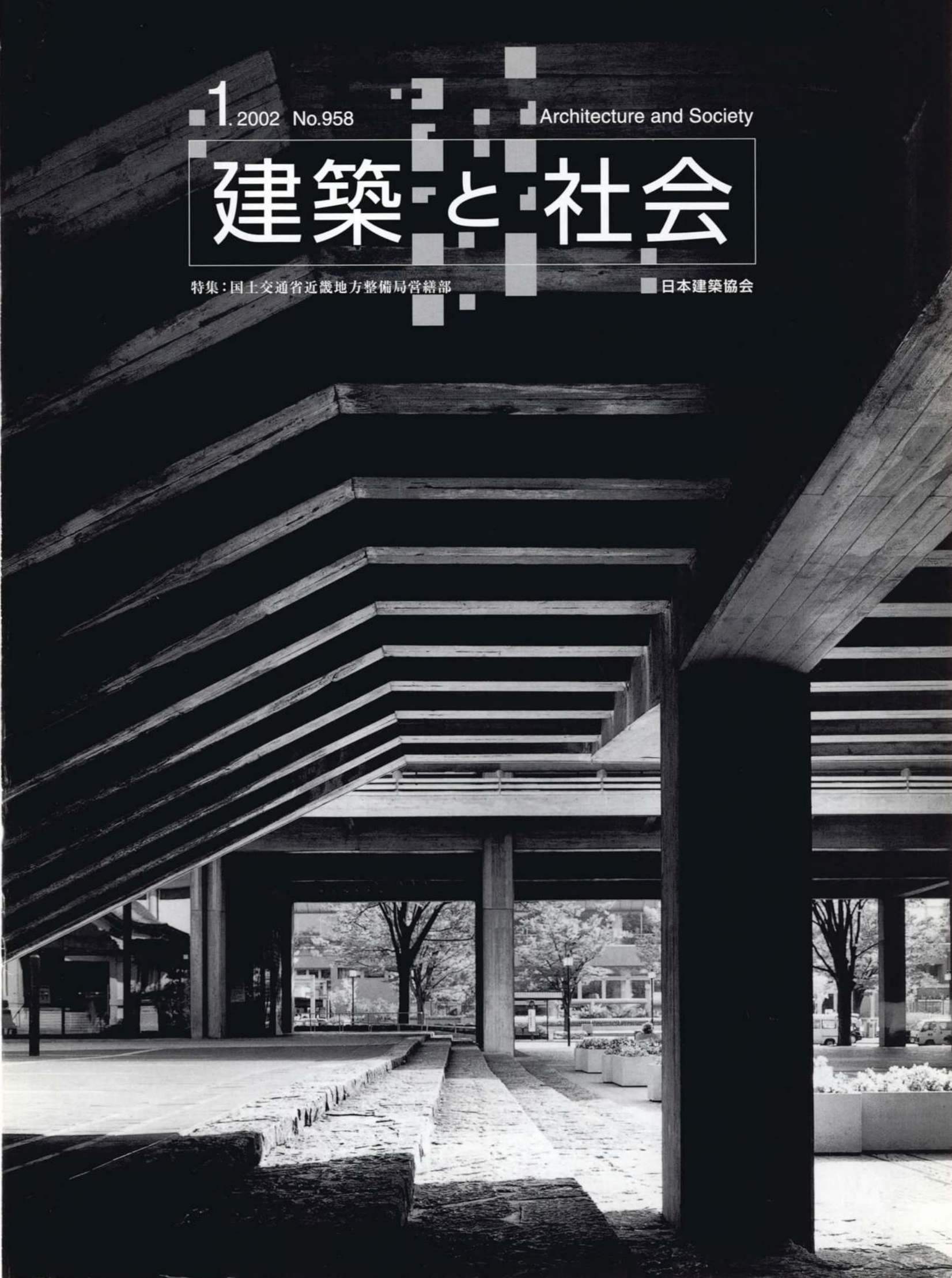
1. 2002 No.958

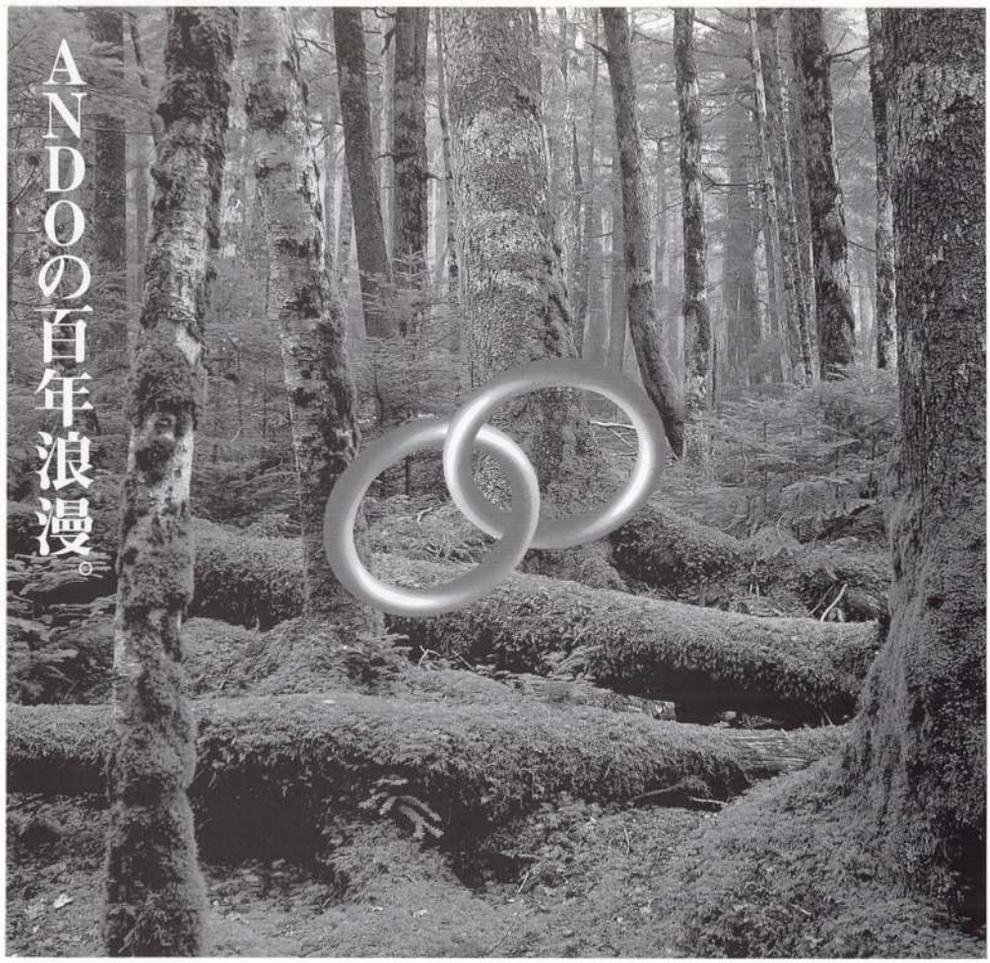
Architecture and Society

建築と社会

特集：国土交通省近畿地方整備局営繕部

日本建築協会





ANDO
安藤建設

人にとってこころやすらぐ環境づくりを目指して、
安藤建設はもうすぐ百三十年。
私たちの願いは、地球環境との優しい共存です。
自然と人の環境を信頼の輪で結びつける
ANDOのこれからの百年にご期待ください。

安藤建設株式会社
本　　社／東京都港区芝浦3-12-8
TEL. 03-3457-0111　〒108-8544
大阪支店／大阪市福島区福島6-3-21
TEL. 06-6453-2190　〒553-0003
ホームページ http://ando-corp.co.jp/

Safety
Handily
Industriously
Modestly
Accomplish

JAB
EMS Accreditation
TE001

ISO 9002
JIS Z 9902



「品質に対する全員の意識向上を図り、顧客の要求する高品質の建造物を確保し提供する。」これが、志眞建設の品質方針です。
私たちは、社訓に根ざした「信頼」、「和」、「満足」を基に品質を確保し向上させるため、本社・大阪本店・東京支店の全部門を対象として、品質システムの国際規格である「ISO 9002」の品質マネジメントを導入し、2000年1月に認証登録を行いました。
目まぐるしく変わる時代のニーズに対応し、国際標準の品質マネジメントシステムを導入することで、お客様の信頼に応えることのできるよう、さらなる「顧客満足」を追求してまいります。

志眞建設株式会社
E-mail : honsya@shima-ken.co.jp
URL : http://www.shima-ken.co.jp

本　　社／〒599-0301　大阪府泉南郡岬町淡輪5746-27
☎0724-92-0315㈹　FAX0724-92-5654
大阪本店／〒538-0052　大阪市鶴見区横堤1-11-46
☎06-6912-2211㈹　FAX06-6912-2221
東京支店／〒104-0061　東京都中央区銀座1-14-5
☎03-3562-1588㈹　FAX03-3562-1577
営 業 所／堺・茨城・和歌山・岸和田・門真・横浜

2002年を迎えて

社団法人 日本建築協会 会長 金多 潔

明けましておめでとうございます。新春を迎え、皆様のご多幸と建築界の繁栄を心からお祈り申し上げます。

21世紀は科学技術のさらなる進歩発展の世紀と言われながら、前世紀末10年間の経済的・社会的混迷をそのまま持ち越した上に、昨年秋にアメリカで発生した同時多発テロ事件とアフガニスタンでの戦火の影響で、不況から立ち上がれない状態が続いています。

20世紀後半に見られた右肩上がりの経済成長もバブルと化して消滅した現在、私たちは今までの経済繁栄を物差しとする視点を改め、新たな価値観を持って21世紀の社会を築いていかねばなりません。それは、「文化」の大切さの再認識でもありましょう。「IT革命」で情報が全世界を隈なく駆けめぐる今日、わが国のそれぞれの地域が固有の「文化」とアイデンティティを備えて、個性を発揮できる社会を目指したいものです。半世紀以上も前の第二次大戦後、日本人がゼロから出発し、貧しさに耐え、今日までの繁栄をもたらした過程を思い起こせば、私たちが今一度の苦労をいとわずに努力することによって、道はおのずと開かれるのではないでしょうか。

本協会では、新世紀の到来を機に、目下の経済情勢をふまえて、昨年度、市川宏前会長が「協会21世紀を考える委員会」を設置され、委員の方々に鋭意検討して頂きました。その結果、協会が今後進むべき方向を示すとともに早急に解決すべき諸問題について具体的な答申がなされ、その内容については会員の皆様のご理解が得られたように思います。

本年度は新たに「21世紀の協会検討委員会」を組織して、協会の理念・会勢、常設委員会、機関誌、ならびに協会の機構・運営に関する四つの分科会を設置し、昨年度の答申を具体化するための討議を重ねております。実効案がまとまりましたら、理事会等の審議を経て速やかに実行に移したいと考えております。

日本建築協会は建築界各分野を包含して成り立っており、各分野にわたる問題に柔軟に対応できる特性を持つものです。その積極的な活動を通じて、建築界を覆っている状況の打開と建築界の発展のために役立ちたいと考えております。新年にあたり、改めて本協会のための一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

日本建築協会・常設委員会

本年の抱負

編集委員会

21世紀の「建築と社会」

編集委員長
宮田　照久

本誌昨年発行分を重ねると6㎝弱の厚みとなります。書棚に並べると、例年より約1㎝薄く、目立ちます。主因は、経費削減のための紙質の軽量化によるもので、総ページ数はほぼ変わらず、内容は確保できたと自負していますが、皆さんのご感想はいかかでしょうか。
ご存知の通り、本誌は広告収入のみを財源に発行してきましたが、今年度の収支予測は大変きびしく、いまのところ次年度も改善の見通しは立っていません。編集子一同、一層の努力を続ける所存ですが、現在の方針のままでは費用削減策にも限界があり、抜本的な改善策が必要であると考えます。
特別委員会「21世紀の協会検討委員会」においては、協会の今後とともに、本誌のあり方についても議論されていると聞きます。1917年創刊の本誌にとっても、2002年は大きな節目になりそうな予感がします。会員諸氏のご理解が本誌の発展、継続の唯一の道であります。ご支援よろしくお願いいたします。

出版委員会

若人よ、自分の夢を果たせる当会に来たれ

出版委員長
山田　修

建築界は大不況、出版界もしかり。何か元気の出る仕事はないものか、と委員一同、話しあっています。が、これという決め手がありません。若手人口の低下、活字ばなれ、情報化のスピードの速さなど、出版界をとりまく情況は、ほんとうに厳しいです。
でも、単行本の出版企画は何としても続けねばなりません。当協会の財政維持の一端を担っているのですから……。委員一同、力を合わせて頑張っていますよ。
若い人の当委員会に入られることを切望します。将来は、自分の本を世に出したい、と思われる方は、ぜひご入会ください。自分の夢が果たせる会ですから……。会の雰囲気も楽しいですよ。

教育委員会

何が求められているのか

教育委員長
片倉　健雄

国際教育到達度評価学会(IEA)の調査結果が昨年12月に公表された。これはOECD加盟の32か国の15歳の生徒を対象にして、"覚えた知識や技能を実生活にどれだけ生かせるか"を国際調査で比較したもので、近い将来大学へ進み、あるいは社会へ出て来る人々の傾向をみる点で興味深かった。
日本は、「数学的応用力」「科学的応用力」の平均点が高いという点では安心し、「読解力」はまずまずだが、これと一見矛盾するような「趣味で読書をしない」が著しく多かったということには大きな不安を持った。
今社会全般がリストラやIT化に揺さぶられて、何をしたいか、何をしなければならないかという目標が不鮮明になっているように思う。私どもの委員会でも、建築とその周辺分野の変化を見守りながら、そこで学びそこで仕事をする人たちへ、どのように働きかけ、どのような支援ができるかを改めて考えなければならないと思う。会員の皆様からもぜひご意見を寄せていただいて、新しい企画につないでいきたいと考えている。

事業委員会

変革への対応を計る

事業委員長
川村　眞次

日本経済の現状は極めて厳しく、その影響は建設業界全般に波及、当協会にも及んでおり、政府と同様、大きな構造改革が求められています。したがって、事業委員会の催し等についても、当協会の活性化の一助となるよう①これまで以上に採算性を配慮する、②工夫を凝らした新しい企画を立案する、③協会員や一般の方々が参加しやすい催しを行う、等々に配慮した運営を行います。
そこで見学小委員会では、これまで蓄積した茶室見学会等のノウハウに更なる磨きをかけながら、多様な見学会を実施いたします。
また、情報小委員会においては従来の企画「話題建築を聞く」に加えて、新しく始めた「これからの建築と社会」や、協会員にとって役立つ講習会等も発展させていきます。
さらに、若い会員の集い小委員会では若い人たちらしい切り口の対談や講演会、見学会、展覧会等を行うほか、「30's eye」の出版に向けて最大限努力いたします。
皆様のご協力、特に参加をお願いいたします。

建材委員会

情報提供のあり方を探る

建材委員長
和田　克朗

景気の不況感はますます強く、「建築と社会」の誌面を通じて紹介してきた新建材の頁も、提案する企業が少なくなり、平成13年の当委員会の活動は低調に推移した。建築協会全体としても、会員や広告収入の減少などが協会運営に影響し、見直す必要に迫られている。このため当委員会も一層の合理化を図るべく、組織・制度を見直し、発展的解消も含めての検討を進めているところである。
一方、メディアが多様化し、建築関係団体の会誌や、一般建築商業誌が建材についての諸データを、CD-ROM等で提供することが多くなっている。IT化が進みつつある現在、大量のデータを検索しやすい形で提供するには、到底CD-ROMには適わない。新建材の頁も、例えば読み物としてのページ構成にするなど、更なる工夫が必要だと考えている。

建築と社会 1 2002
ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN
1917年創刊　第83集／通巻958号

今月の表紙

表紙デザイン／田村昭彦
コーディネータ／倉渕奈千子
建築写真／河合止揚

●京都会館
設　計／前川國男
施　工／大成建設
竣　工／昭和35年
所在地／京都市左京区岡崎最勝寺町

●近代建築シリーズ３年目の今年は、戦後の1950年、60年代を中心に12回を綴ります。建築作品は建てられた時代の気分、感性をいつまでも漂わせているものです。それが今の時代にどのように映り込んでいるかを12枚の写真で表現できればと思います。
京都会館のピロティのコンクリート打放しは、年月を経てなお、作られた当時の意気込みを伝えています。骨太の打放しの柱と、擦り減ったビンコロ石の床ごしに見る賑やかな色彩あふれる街路の風景は、寡黙なコンクリートとの対比で心地よく見えます。
（倉渕奈千子）

■特集予告
２月号／循環型社会をめざして
　　ー再生…リサイクル
３月号／東海支部

編集委員会（平成13年度）
■副会長
佐野　吉彦
奥謝野　久
■編集理事
井上　豊
内田　直樹
岡田　聿之
小島　雄
竹中　統一
畠山　祐治
広原　盛明
松村　慶三
◎宮田　照久
山田　修
■特集小委員会
□計画分科会
★計画系
伊縫　憲幸
梅田　善愛
小浦　久子
鈴木　克彦
田中　直人
紅谷　昇平
細田　浩史
松田奈緒子
松本　正行
吉村　英祐
★建築計画系
江副　敏史
※菅野　忠司
小林　優子
児玉　敬志
佐藤不二男
迫　淳海
桜井　則雄
笹村　欽也
塚本　史郎
所　千夏
野田　隆史
服部　光宏
★インテリア・住宅系
石川　佳子
加藤　力
北浦かほる
小梶　吉隆
佐藤　勝紀
田中　浩介
髙野　直樹
※西田　和子
ペリー史子
本山　仁
□構造分科会
大氏　正嗣
大住　和正
金田　興熙
※木下　隆嗣
白沢　吉衛
住田　隆二
田中　剛
田渕　勝道
竹内　秀紀
松村　和夫
向井　洋一
吉川　真次
□設備分科会
梶井　宏修
河井　康人
河津　隆之
※近藤　国夫
近藤　正一
田ノ畑好幸
西岡　道雄
桝井　貴廣
村上幸三郎
谷津　和久
山根　敏和
□施工材料分科会
植田　実
小椎八重猛
竹中　秀文
※太刀川丈爾
能美　敏男
増田　信久
吉田　正友
□法令分科会
伊勢　照男
薄木　三男
衣笠　春幸
黒木　省二
※中島　和也
森下　嘉弘
■作品作風小委員会
△赤木　隆
淺尾　宏
朝倉　一晃
居内　章夫
井上　雅祐
川上比奈子
倉渕奈千子
寺岡　宏治
中村　文紀
林　孝司
前川　治彦
増田　敏彦
増田　俊哉
山田　俊紀
■会員企画小委員会
稲木　裕子
大谷由紀子
河崎　敦子
清水　麗子
△髙岡　伸一
髙田　光雄
辰巳　清一
塚口　明洋
辻川ひとみ
福田　瑞穂
■広告企画小委員会
大迎　敏樹
小幡　義明
小山　昭
斉藤　治久
田渕　博昭
千葉　耕作
△林　一彦
平松　勉
古畑　健一
前田　衛
渡邊　浩文
◎委員長　△副委員長　※幹事

印　刷　２００１年12月25日
発　行　２００２年１月１日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　話　06-6348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本データネット株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

CONTENTS

特集● 国土交通省近畿地方整備局営繕部

［巻頭言］ 21世紀の官庁営繕行政●藤田伊織 — 19
［はじめに］ 近畿地方整備局営繕部　営繕ビジョン — 20
［作品］ 国立京都国際会館アネックス棟／ビッグ・アイ／神戸防災合同庁舎／敦賀駅前合同庁舎／奈良国立博物館東新館／奈良国立博物館文化財保存修理所／京都国立博物館 南門施設／産業技術総合研究所関西センター／通信総合研究所第2研究棟／京都大学防災研究所宇治川水理実験所／神戸税関本関／神戸税関摩耶埠頭出張所／大阪税関大阪航空貨物出張所／大阪海上警備隊／姫路自動車検査事務所／三国海上保安署／海技大学校本館／大阪労災介護施設／大阪地家裁岸和田支部／動物検疫所関西空港支所特殊動物舎・霊長類舎／三国税務署／吉野税務署／旭税務署／下市公共職業安定所／柏原公共職業安定所／福知山公共職業安定所／茨木公共職業安定所／京都七条公共職業安定所／武生公共職業安定所朝日出張所／神戸公共職業安定所
［プロジェクト］ 灘公共職業安定所・障害者センター／姫路食糧支所／茨木法務出張所／明石法務支局／京都労働局／大阪府警察学校分館 — 35

年頭のことば　2002年を迎えて●金多　潔　1
本年の抱負　常設委員会●宮田照久・山田　修・片倉健雄・川村眞次・和田克朗　2
作品作風　「伝国の杜」置賜文化ホール・米沢市上杉博物館　4
京都市右京ふれあい文化会館　8
帝塚山大学７号館　10
ニッセイ新大阪ビル　12
クラヤ三星堂西日本物流センター　14
gallery　SCENE・変容する空間（田熊利哉）●林　孝司　16
建築の眼　イメージと感性●亀谷義浩　21世紀、都市のどこに住むのか（1）ーはじめに●阪倉嘉一　雑感・ものづくりと素材ー１●八杉政一　御堂筋の変貌●門川清行　18
素材と技術が生み出すデザイン　「フェイク考」●池上　陽×植田道則　40
法令コーナー　航空障害灯設置基準の緩和●池田哲郎　42
構造の頁　国会図書館関西館（仮称）の構造設計●長尾直治／土田伸二／小林秀雄／中川　崇　43
設備の頁　階段室型共同住宅用エレベーターの開発●田邉豪二　45
くでんー口伝ーを活かす　「愚図の慌て！」からの発信●上原正行　46
研究最前線を追う　大阪の暑さを追う●大阪市立大学地域環境計画研究室〈三木信博研究室〉　47
REPORT　「文化遺産としてのモダニズム建築関西展」を企画して●松隈　章　48
「関西のモダニズム建築を語る」●米井　寛　50
一体化した住まいと生活の風景●松隈　洋　51
REPORT　まちなみ見学会・第６回ー近江商人発祥のまち・五個荘町ー●小笹光彦　52
デザインコンクール　第47回工高生デザインコンクールー設計課題：ライブハウス　54
information　BOX ART KYUSHU開催.「建築100人×100冊展」Vol.2開催.JAM:Tokyo-London展.「アール・デコ展ーソナベンド・コレクション」.www.glass-fiber.net/.建築業界初の環境仕様書策定.プロポーザル・ガイドライン策定.「フローリング騒音の解決法」刊行　58
月間の動き　平成13年11月分　59





作品風作

設計・監理■
山形県土木部建築住宅課営繕室
関・空間設計

施工■
建　　築：戸田建設・黒金建設工事共同企業体
電気設備：弘電社
空調設備：弘栄設備工業
衛生設備：情野冷熱機工
展示工事：乃村工藝社

「伝国の杜」置賜文化ホール・米沢市上杉博物館

米沢城跡の一角旧米沢工業高等学校跡地に計画された、500席のホール（山形県が整備）と博物館（米沢市が整備）とから構成された複合施設です。
計画地と上杉神社、上杉記念館周辺の樹木と古い建物で構成される景観は、日本でも余り見られない素晴らしいもので、米沢市の財産となっています。

私たちはここには「広域性：南東北の拠点・米沢」「拠点性・置賜地方及び米沢市の回遊拠点・歴史・文化シンボルゾーン」の２つの特性があると考え、この「歴史・文化シンボルゾーン」の景観を守り更に向上させることをテーマに建物の空間配置とひろば・緑地の構成を考えました。

また私たちは「継承と創造」をテーマに古いもの、歴史あるものと、新しいものとの確かな連携と、シンボル性の高い建物の実現を目指しました。
具体的には、施設の北正面に上杉神社をはじめとする景観を楽しみながら各種イベント等に利用できる広いひろばをとり、南東北の新拠点にふさわしい「にぎわい」の創出を目指しました。
また施設内部は、複合施設の基軸としてひろばに平行した“モール”を提案し、博物館、ホール、体験学習室等、様々な施設機能に有機的な繋がりを持たせるプランとしています。
ホールを私たちは①能楽堂②劇場③コンサートホールの３つの機能を合わせ持たせた多機能ホールとして計画しました。

この建物の特色の一つは空気浮上式移動能舞台で、普段はエントランスホールに展示して一般の人々に見てもらうことで、建物のイメージアップと有効利用を図っています。

形態的には「新しい和風」＝伝統的な建築形態に現代的感性を加えた表現を目指し、①周辺環境との調和②勾配屋根と柱・梁による軸組構成③深い軒庇空間④自然な素材の使用等を要点に計画を進めました。

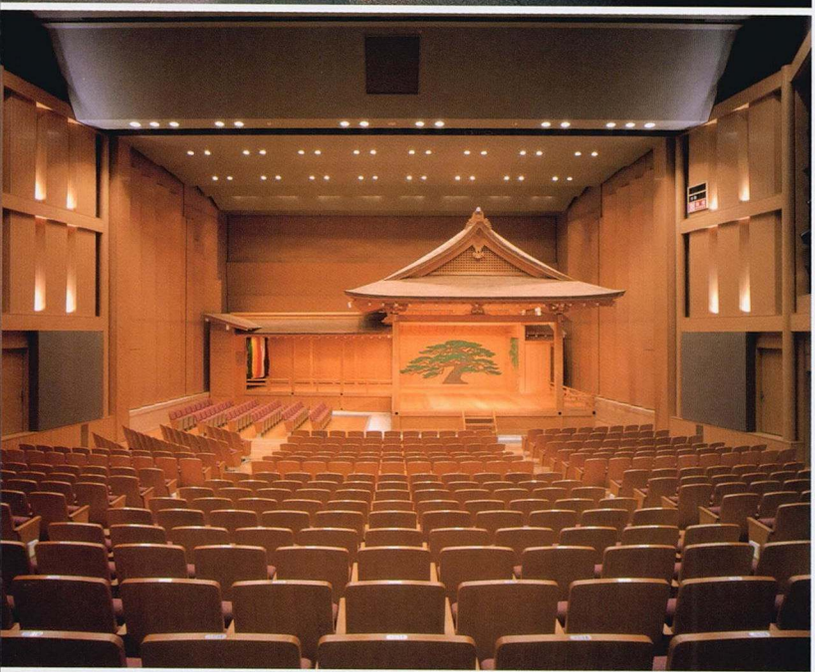
（渡辺　宏・浅野忠信・木皿　泉／関・空間設計）





左頁上より：北側ひろばより望む夕景／エントランスポーチ・右奥に松ヶ岬公園を望む
右頁上より：ホールホワイエ前ポーチ／ラウンジから松ヶ岬公園を望む

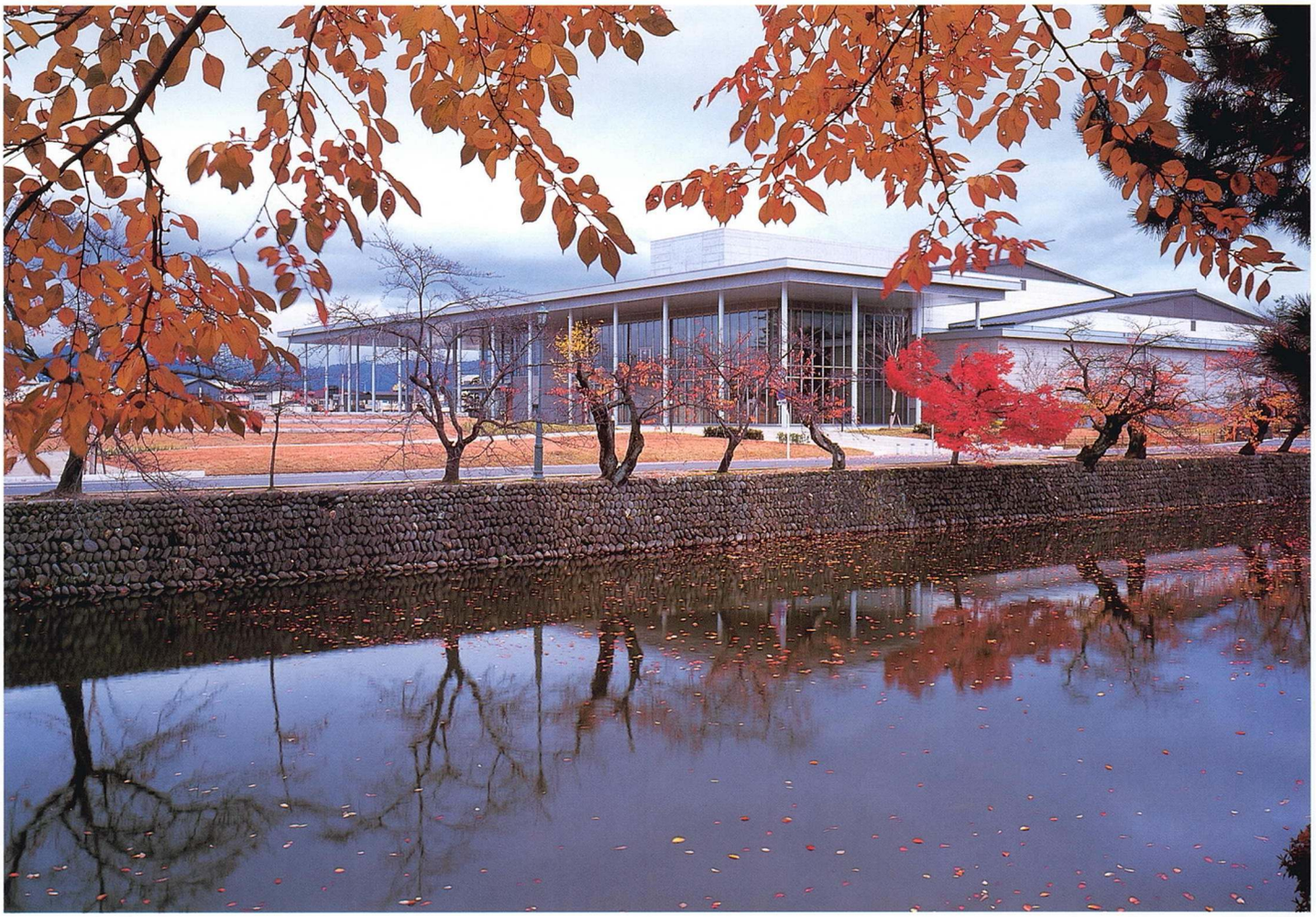




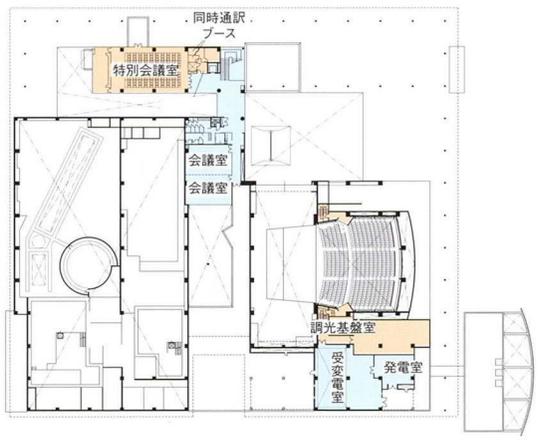

置賜歴史街道







上杉神社より「伝国の杜」を望む

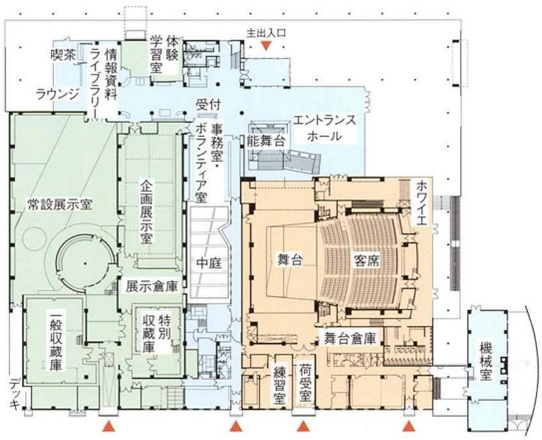


2階平面図



配置図

「伝国の杜」
置賜広域文化施設
米沢市新博物館



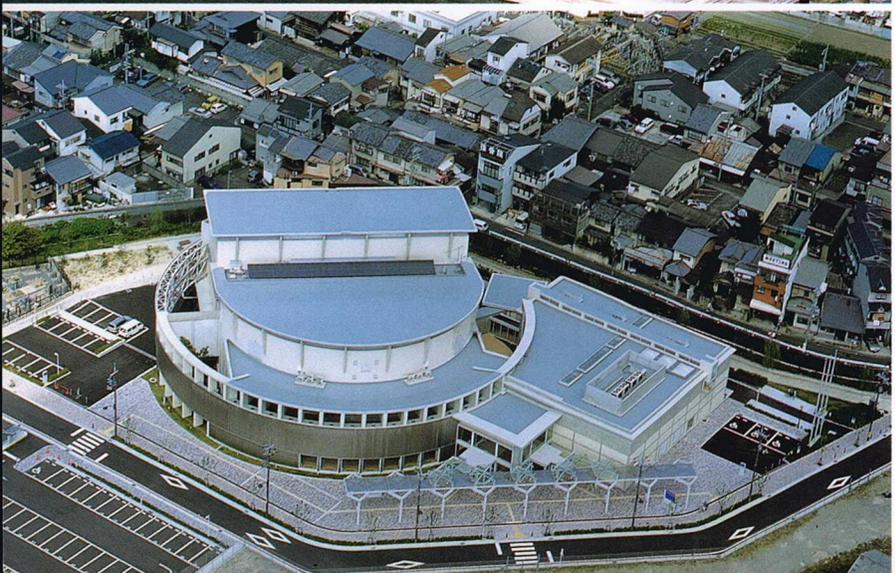
1階平面図

所 在 地 —— 山形県米沢市丸の内1丁目2-1
敷地面積 —— 33,892㎡
建築面積 —— 9,484.56㎡
延床面積 —— 9,047.39㎡
構造規模 —— RC一部SRC・S、2F
工　　期 —— 1999年10月～2001年7月
最 寄 駅 —— JR奥羽本線山形線・米沢駅
撮　　影 —— 福澤昭嘉
　　松本正光（ホール内部写真のみ）

◀左頁　左側上より：能舞台を展示したエントランスホール／能舞台を設置したホール／常設展示室
　　右側上より：ホールホワイエ／（エントランスホール側より）ホールホワイエを望む

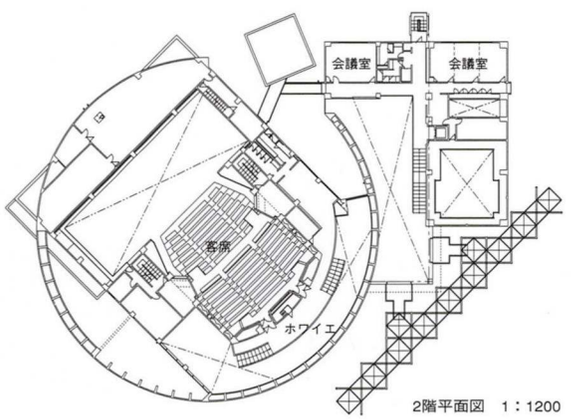




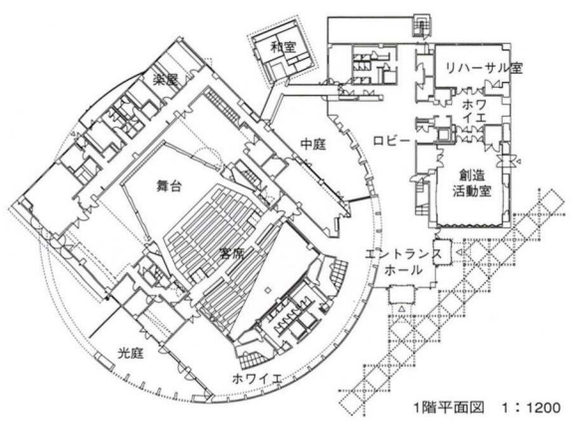


左頁上段：南側外観
左頁中段：東側外観
左頁下段：全景

右頁上段より：エントランスまわり夜景
2階廊下、中庭
ホールホワイエ
ホール内観



2階平面図　1：1200



1階平面図　1：1200

作品風

設計・監理■
京都市都市計画局営繕部営繕課・設備課
安井建築設計事務所

施工■
建築：藤井・山下建設共同企業体
電気：富士・昭和共同企業体
機械：京栄水道
舞台音響：松下電器産業

京都市
右京ふれあい文化会館

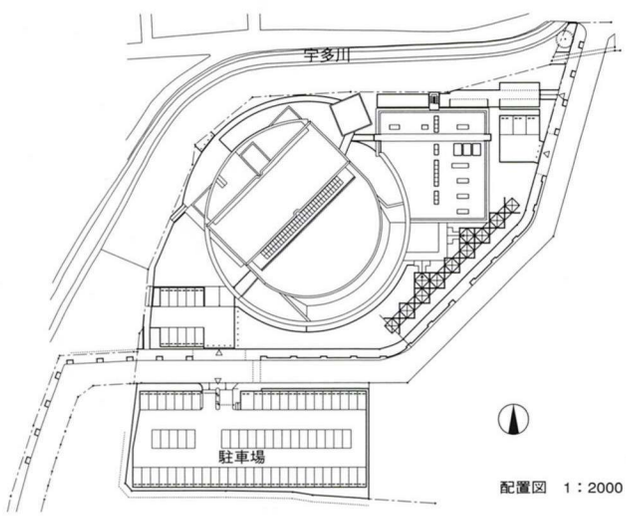
448席の多目的ホール、小規模な演奏会や演劇・講演会等に利用可能な創造活動室、多目的な会合に利用できる会議室、華道・茶道・日舞等の練習を想定した和室などで構成される複合文化施設です。地域住民が気軽に利用できる、京都市北西部地域における地域文化活動の拠点として整備されました。

京の北の山並みや小高い「双ヶ丘」を背後にして広がる周辺景観を、高層となるホールの曲面屋根と低層部の陸屋根という構成に反映することで、スカイラインと周辺環境の馴染みを意図しています。

配置計画においては、南北軸から45度傾けたホールを円形にアルミスパンドレルの壁で大きく取り囲む構成とすることで、ホールという非日常的な建物用途を表現し、来館者への視認性を高めています。また、映画文化発祥の地“太秦”のある右京区に立地することから、映写機のリールあるいはフイルムのモチーフを建物の外観デザインの要素に取り入れました。

建物内部では、ホワイエやエントランス・廊下などの共用部分に、空間の形状や人の動線に配慮したハイサイドライトやトップライトなどから多くの自然光を取り入れ、豊かな空間づくりを行っています。夜にはこれらの開口から内部の明りとにぎやかさがあふれ出し、ホールにふさわしい華やいだ雰囲気をつくり出しています。

（川原村勝幸・前田慶太郎・長崎大典／安井建築設計事務所）



配置図　1：2000

所 在 地 ——京都市右京区太秦安井西裏町11-6
敷地面積 ——6,010.88㎡
建築面積 ——2,884.81㎡
延床面積 ——4,288.18㎡
構造規模 ——RC、一部SRC＋S、4F
工　　期 ——1999年12月～2001年5月
最 寄 駅 ——JR嵯峨野線・花園駅
撮　　影 ——奥田興作／フォトアクティブ















作品風作

設計・監理■
東畑建築事務所

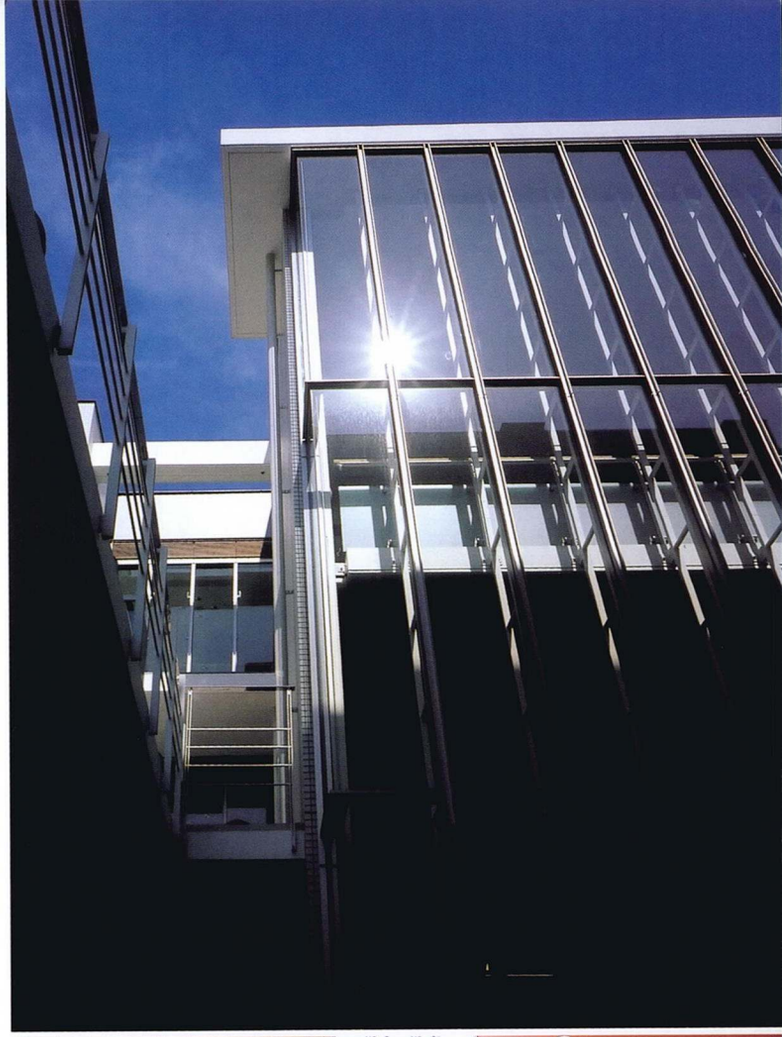
施工■
大林組・住金興産共同企業体

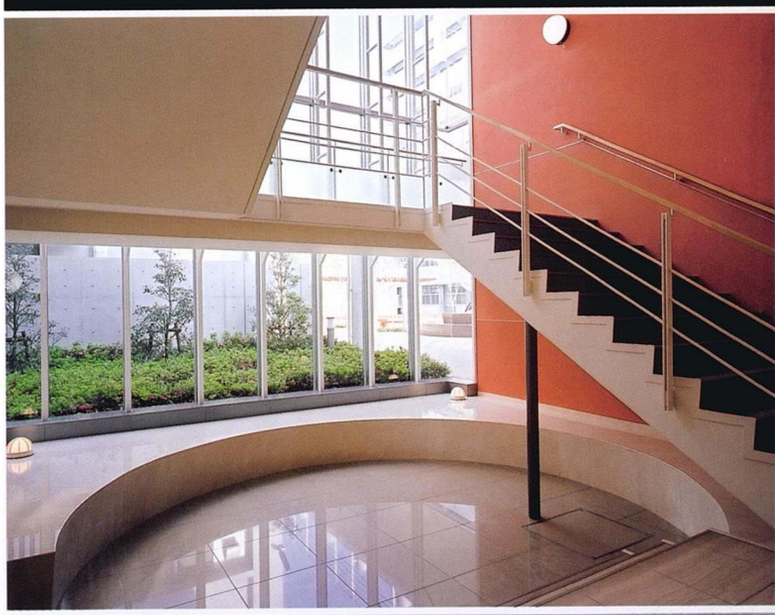
帝塚山大学7号館

21世紀を迎えた帝塚山大学におけるコミュニケーションネットワークの中心施設として、東生駒キャンパスの中央部分に、コンピュータ関連施設に特化した７号館を建設し、同時に受変電設備や設備幹線等のインフラ施設と、学生が憩い交流するための広場を整備した。現在、大学を取巻く社会環境はめまぐるしく変化し続けていて、校舎施設もその変化に対応する機能と、フレキシビリティが不可欠である。一方大学の資産としては、高耐久で維持管理も容易であり、将来に渡って満足度の高い施設であることが要求される。７号館はこの条件をもとに、21世紀の大学キャンパスの核として、既設校舎との調和を図りながら、立体的に再整備された中庭と共に次世代の記憶に残るような新しいキャンパスの景観を創り出している。
外観は時代の流れに耐えうるシンプルな形態、モノトーンの色調。内部のホールや中庭には、温かみのある自然素材を採用し優しい色調としている。またホールは中庭に対して開放的なガラス張りとし、コンピュータで疲れた目を休めたり、中庭やデッキにいる友人と視線を交わすことができる。３階の北側にも、奈良盆地を一望する小さな展望室を設け、機能的な目的空間（教室・事務室）に対して、アメニティ（快適性）を重視した共用空間となっている。

（西田裕亮／東畑建築事務所）









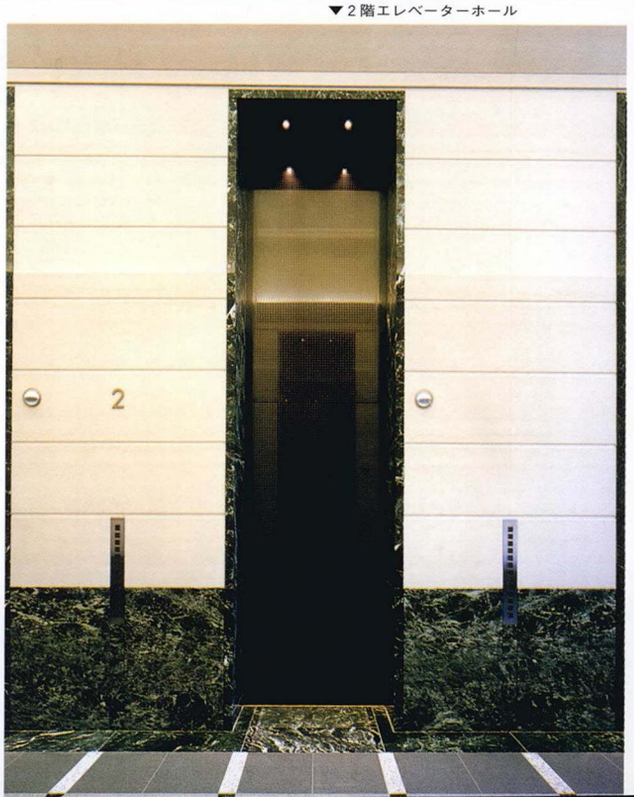
所 在 地 —— 奈良市帝塚山7-1-1
敷地面積 —— 174,406.39㎡
建築面積 ——　741.24㎡
延床面積 ——　1,643.11㎡
構造規模 —— RC、3F
工　　期 —— 2000年２月～2001年５月
最 寄 駅 —— 近鉄・東生駒駅
撮　　影 —— 藤　義則／エスエス大阪

東側外観

▼2階エントランスホール



▼2階エレベーターホール



作品風作

設計・監理■
日建設計

施工■
ニッセイ新大阪建設共同企業体
大林組・大成建設・竹中工務店・戸田建設・フジタ・
西松建設・奥村組・不動建設・東洋建設・鴻池組・
藤木工務店・東亜建設工業

ニッセイ新大阪ビル

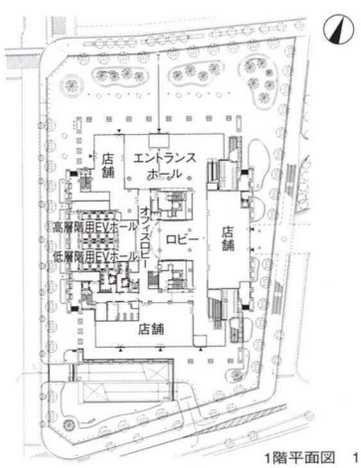
設計にあたっては「新大阪駅前の新しい顔づくり」と「豊かなオフィスライフが営めるクオリティの高いオフィス環境づくり」の二つを主なテーマとして取り組んだ。

一つめは、敷地周囲に駅前広場と一体化させた憩いの緑地空間をつくり、建物は暖かみがあり落ち着いた風合いの花崗岩とグリーン系のガラスで外装を構成し、頂部と低層部に彫りの深い表情を持つ「品格と存在感」を備えた外観とすることにより、既存の街並との調和を図りながら新鮮な息吹を与える都市景観づくりをめざした。

二つめは、高い信頼性、機能性を確保することは勿論のこと、真にクオリティの高いオフィスビルの実現をめざし様々な工夫をしている。その代表的な一つはオフィス階の中央に設けた多機能ライトウェルと呼ぶ二つの外部吹抜け空間である。共用部への採光によるアメニティ性・非常時の安全性の向上、そして設備配管・ダクトスペース、屋上設備機器の搬出入ルート、空調の給排気スペース、さらに外気冷房、ナイトパージにと、多様な用途に活用している。

建物を長期間にわたって生き生きと使い続けるためには改修・更新のし易さが必須条件ととらえ、主要設備室を設備機器の搬出入が容易な地上3階に、主要な設備縦配管を多機能ライトウェル内に設けるとともに、夫々にリプレイススペースを確保し、ビル機能を維持しながら工事が行える計画とした。また、様々な省エネルギー手法を積極的に採り入れることにより標準的な建物と比較してライフサイクルにおける環境負荷の大幅低減を可能にした。

（猪子　順・藤田　稔／日建設計　大阪）



1階平面図　1：2400



低層基準階平面図

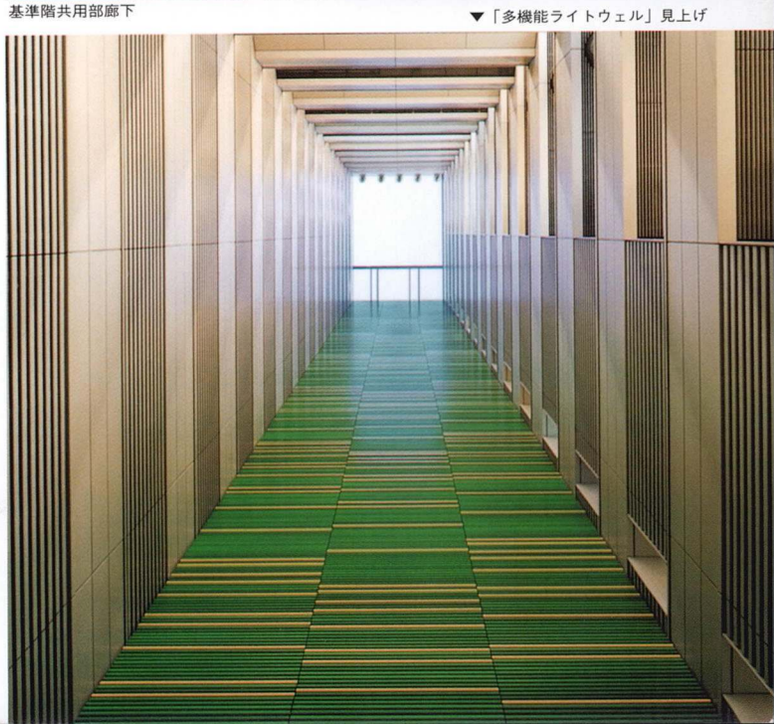
所 在 地 ―― 大阪市淀川区宮原3-4-30
敷地面積 ―― 8,579.66㎡
建築面積 ―― 4,491.11㎡
延床面積 ――97,970.73㎡
構造規模 ――S、一部RC・SRC、B2F、21F、P1
工　　期 ――1999年2月～2001年9月
最 寄 駅 ――大阪市営地下鉄御堂筋線・新大阪駅
撮　　影 ――エスエス大阪・末廣久詔／黒田青巌


1階エントランスホール


基準階事務室


基準階共用部廊下

▼「多機能ライトウェル」見上げ





作品風作

設計・監理■
大林組本店一級建築士事務所

施工■
大林組

クラヤ三星堂
西日本物流センター

医薬品卸業界大手の建築主が掲げる「全国物流ネットワーク構想」のモデルメガセンターである当施設は、西日本エリアを効率よくカバーする中国道ひょうご・東条ICの正面に立地している。
空に向かって上昇する、事務棟の透明なカーテンウォールには新しい時代に向けた企業姿勢を象徴すると共に、今後発展するインターパークのランドマークとなることを期待している。
シャープな表情の事務棟と対比する矩形の倉庫棟は、高度に集約された最先端の物流システムを柔軟に包み込み、その性能を十分に引き出す為の工夫を随所に織り込んでいる。
外壁は清潔で落着きのある色彩として周辺の風景との調和を図り、逆に内部は爽やかで躍動感のある色彩で「快適さ」を演出し、広い倉庫内での位置識別、作業環境の向上を目指した。

（中川原正平・熊倉昌志・近藤友佳子／大林組）

所 在 地 ―― 兵庫県加東郡東条町南山6-6-2
敷地面積 ――30,981.12㎡
建築面積 ――14,808.35㎡
延床面積 ――44,220.82㎡
構造規模 ――S・SRC、4F
工　　期 ――2000年2月～2001年10月
最 寄 駅 ―― 中国道ハイウェイバス東条
撮　　影 ――上諸尚美







左頁：北東カーテンウォール
右頁：左上　プラットホーム／右上　小出し品エリア
　　中　2階倉庫
　　下　北東側外観（ひょうご・東条IC側より望む）



断面図　1：2000



gallery

SCENE・変容する空間

設計

田熊利哉

この写真は60㎡のマンションの一室に造られた茶室である。しかし、常に存在する茶室ではない。ここで試みたのは、かつての日本の空間が持っていた形式（同じ座敷をハレとケの場と使い分けてきたシステム）の現代生活に合わせたリ・デザインである。つまり、室礼（しつらい）と称した家具を組み合わせることで、茶室が出現する。そして、この室礼の組合わせで空間は居間に、寝室に、そして時にはギャラリー・ミニシアターへと変容する。（次ページ写真参照）

21世紀、世界はサスティナブルな循環型社会へ移行しつつある。そんな中で建築の果たす役割は大きい。ここで紹介した「SCENE」は、その命題に対する解答のひとつである。

それは築20年のマンションにおいて、いかに快適に豊かに暮らすことができるかという「空間の再創造」への挑戦なのである。

（※）

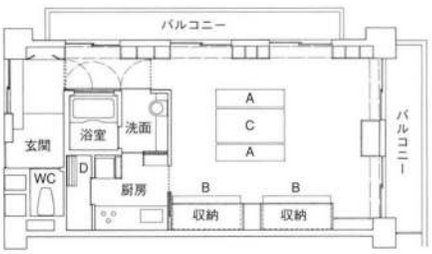


田熊利哉（たくまとしや）

1959　東京都生まれ
1985　東京理科大学理工学部大学院修了
1985　清水建設設計部
1989　「すし久」
　　中部建築賞
1996　「お抜町おかげ横丁」
　　日本建築学会業績賞
1997　「信濃町煉瓦館」
　　日本建築士事務所全国大会優秀賞
2001　TAKUMA建築設計事務所設立
2001　「SCENE」
　　住まいのインテリアコーディネーションコンテスト2002 経済産業大臣賞

撮　影—新建築社写真部（※）、
　　ナカサ＆パートナーズ
企画編集—林　孝司（作品作風小委員会）





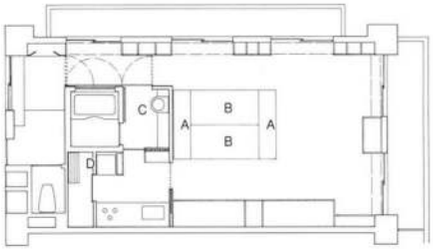
AとCにより大テーブルとベンチのセットを設え、日常の食卓のシーン、応接のシーン、読書等の学習のシーン、陶芸等の創作のシーンを創りだしている。Bは押入れの下部に、Dは納戸の中に収納されている。





A,B,Dにより茶の湯のシーンを創り出している。この時、空間３は外露地における客待ち、バルコニーは露地、高さ1200㎜に設定されたロールスクリーンは中潜りに、そして空間１は内露地又は坪の内に見立てられ、茶室への距離を演出する。Dにより囲われた茶室は草庵以前に用いられた「書院における囲い」にヒントを得て考案された。半透明のスクリーンを透して柔らかい光が溢れる茶室は、織部・有楽・遠州といった利休の弟子達が目指した綺麗寂びに対する現代的解釈の試みである。

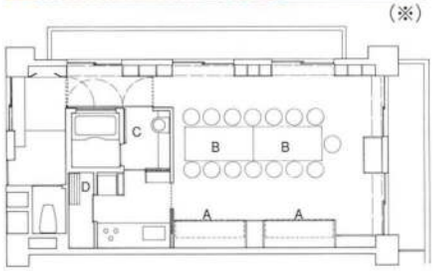




A,Bを組合わせて休息の場（寝床）を創りだしている。A,Bのすべてを組合わせるとオットマン付きのダブルベットサイズの寝床となる。寝具は使わない時はBの中に収納されている。また、A,Bそれぞれ1台づつ組合わせるとセミダブルサイズの１人用寝床となる。

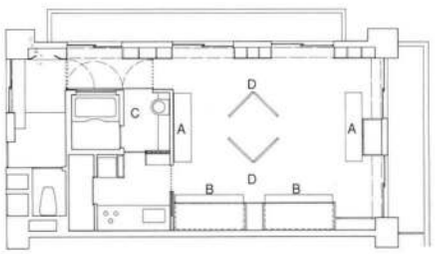


(※)



友人がよく集まる施主のライフスタイルに対応した、宴・集いのシーンである。Bを２台連結すると４ｍ×２ｍの座卓となる。この時AはSCENE1でBが収納されていた押入れ下部に収納される。この廻りにキリム等の敷物を敷いて座ると、約20名が同時に卓を囲むことができる。キリムなどの長物は使わない時はAの中に収納されている。

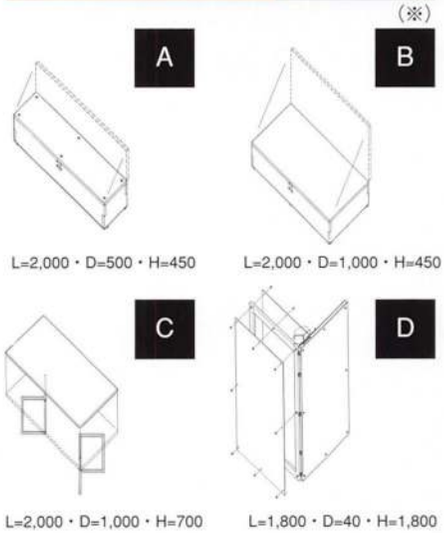




陶芸・写真・絵画等の趣味を持つ施主の創作発表の場としてギャラリーを想定したシーンである。平面作品はDを展示壁に、陶器などの小品の立体作品はA,B,Cを展示台として用いることを想定している。



(※)



イメージと感性

亀谷　義浩

イメージという言葉は日常よく使う言葉である。たとえば、イメージ写真、イメージガール、イメージチェンジ、カラーイメージ、企業イメージといったようにだ。しかし、そこで使われているイメージの意味はそれぞれ異なっている。いったいイメージとは何だろうか。ケビン・リンチの著書『都市のイメージ』において使われるイメージは、イメージの概念的な意味にもとづく心象風景であり、印象的風景といってもよい。一方、イメージには感性的な意味があり、五感や体感を通して得られるイメージがある。

このようにイメージは、多義的にそして曖昧に使われているようにも見えるが、人々の行動を左右し、決定付けるという側面をもっている。まだ、完成もしていないマンションや建売住宅を購入するときなどは、まさにイメージによる判断なのである。しかし、これは、透視図やモデルルームなどによる想像や連想からのイメージによるものであって、感性的なイメージによるものではない。また、現実や完成の予想をイメージするというより理想や夢をイメージしているようにも思われる。思い描いていたイメージと実際のイメージが異なることでトラブルも多くあるようだ。もっと人間のすべての感覚モダリティから得られる感性的なイメージというものを大切にし、評価、判断したいものである。

関西大学工学部建築学科助手

21世紀、都市のどこに住むのか(1)
はじめに

阪倉　嘉一

戦後50数年、人々は、経済の成長に伴い、豊かさを、職を求め、都市へ都市へと移り住んできた。これらの人々を受け入れるため、都市は、既成市街地を再開発し、周辺の農地や丘陵を宅地に変え、上に外へと拡大させてきた。

その結果が、マンション等の建設による高層化した市街地、インナーエリアに広がる木造密集市街地、スプロールしたミニ開発の住宅地であり、さらに、郊外に広がる団地、ニュータウンである。

しかし、バブル経済の崩壊による経済の停滞と、この時期に顕在化してきた急激な少子高齢化の進展が、都市への人口圧力を減少させ、これまでの都市の拡大に終焉をもたらそうとしている。

これまでの成長を基調とした、都市化社会から、成熟化した都市型社会に向かうといわれている。経済の成長、人口の増大、地価の上昇等、従来の前提条件が大きく変わり、新しい都市の枠組みやあり方を見直す必要に迫られている。

このような状況のなかで、従来からの都市住民、この50数年間に地方から移り住んだ人、将来の新しい都市住民（生まれる人、移り住んでくる人等）、様々な人々が、都市のどこで、どのように暮らすのか、どんなまちづくりが求められるのか。

今回の執筆依頼を契機に、都心居住・都市居住や郊外居住といった視点で、現在、感じ、考えていることを書いてみたい。

大阪府建築都市部副理事

雑感・ものづくりと素材－1

八杉　政一

今回から登場することとなったが、およそ執筆業など門外漢である。あれこれ考えた揚げ句、やっぱり仕事絡みの話しかないのかと、些か寂しい思いもするが、気を取り直して建築との関わりのなかで感じたことなど思いつくまま書いてみたいと思う。題して「ものづくりと素材」。

１回目は「化学物質」である。建築素材としての化学物質は床材・壁材に多く使われているが、今回のテーマはVOC（揮発性有機化合物）である。化学物質が我々の生活に急速に入り込んできたのは1950年代後半からであり、日常生活に役立つ有益なものとして開発されたのであるが、ここにきて建築材料による「シックハウス症候群」としての有害性が取り沙汰されている。健康住宅研究会が優先的に取り組むべき６種の物質を指定し、建材については業界においても既に対応が進んでいるようであるが、注意が必要なのは施工材（主として接着剤）である。

目的により、強度・施工性を充分検討したうえで選択する必要があり、肌理の細かい監理が望まれる。化学物質も元々自然界に存在するものであるが、遺伝子組み替えや狂牛病など自然の摂理に逆らってまで、合理性や効率を追求しすぎた結果なのであろうか。建築屋として化学物質なる素材、有益・有害の両面を併せ持つことを、肝に銘じておきたいところである。

東畑建築事務所設計部長

御堂筋の変貌

門川　清行

最近、御堂筋を歩いたことがあるでしょうか。金融店舗が軒を連ねていたビルの１階周りが急速に様変わりしています。本町４丁目に２年程前に開店したセルフサービスのカフェに類する店舗が急速に増え続けています。またコンビニ、パソコン店、そして心斎橋に近い南部では高級ブランドのアパレル店舗が増殖中です。バブル崩壊後の金融機関の再編などで現在御堂筋に面するオフィスビルの空室率は大阪市内平均より高い状況です。特に金融機関の集中していた土佐堀通りから本町通りまでについては１階の空室率が15.9%にもなっています（2001年８月）。

この空室を埋める形で急速に業種変更が進んでいるわけですが、これは街の賑わいや、アメニティの向上という意味で市民にとって望ましい変貌といえるでしょう。土曜日の本町４丁目の街角が若者たちで賑わっているなどということは５年前には考えられないことでした。また昨年に続いて今年も御堂筋オープンテラスとして大丸前の側道部分を日曜日に車をシャットアウトし、カフェテラスとして市民に開放されたことなども大きな変化といえます。放置自転車の解消などハード面での改善も必要ですが、御堂筋を“歩いて楽しい街”にすることが大阪市の都心居住を進める大きな第一歩ではないでしょうか。

竹中工務店専門役プリンシパルアーキテクト

特集

国土交通省近畿地方整備局営繕部

21世紀の官庁営繕行政

近畿は、古代から現代に至るまで様々な文化・文明の影響を受け、これを咀嚼しながら、我が国でも比類のない文化集積圏を築いてきた地域です。

今後、国際化という流れが近畿地方にさらなる発展を促すとともに、文化的創造力が21世紀の近畿のポテンシャルを高めていくことになります。さらにダイナミズムを与えるのが「地域間の融和と連携」であり、官庁施設整備における重要な課題の一つであると思われます。

地域との積極的な関わりを通じて、社会に貢献していくための官庁施設整備計画を進める必要があります。

近畿地方整備局営繕部では、昨年、21世紀に向けて官庁営繕が果たすべき役割を謳った「近畿営繕ビジョン」をまとめました。この中で、官庁施設の真のクライアントは国民であるとし、営繕業務と施設整備における基本的な方向性を示しています。特に施設整備のあり方では、以下の６つの目標―①国民サービスの向上を図る施設づくり、②安全・安心な暮らしを実現する施設づくり、③環境と調和し共生する施設づくり、④地域・街づくりへ貢献する施設づくり、⑤文化性・歴史性に配慮した施設づくり、⑥近畿の夢づくりを支援する施設づくり―の目標を掲げています。

また、施設整備の実現に向けては、府県などを越えた広域的な連携や施設のあり方、官と公と民との役割分担、施設間のネットワーク化、施設の効率的利用、施設の複合化・合築化などが重要であるとし、近畿の歴史文化資産を活用しつつ、地域・街づくりに直接・間接に関わっていくことを明確にしています。

具体的には、シビックコア地区整備制度の活用による合同庁舎整備の推進や、官庁施設の顧客満足度調査システムの構築により、さらなる行政サービスの向上を図るなど、地域と連携した事業の展開をしています。民間技術力の活用では、設計・工事監理のアウトソーシングの促進、PFI手法による施設整備の検討、新技術の活用など、民間との連携による効率的業務を進めています。

また、環境配慮型庁舎（グリーン化庁舎）、建設リサイクル、バリアフリー化などの一層の推進による、人と環境にやさしい施設づくり、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた災害に強く、地方公共団体などと連携した防災拠点整備、既存官庁施設の耐震改修の早急な実施など、安全・安心な施設づくりを実施していきます。

最後になりますが、近畿地方整備局営繕部は、これからの施設整備に対して、「新しい時代の地域の夢づくりと国民のために、誇りをもって次世代へ引き継ぐ施設づくり」を基本方針とし、21世紀の官庁営繕行政を推進していきます。

近畿地方整備局営繕部 部長　藤田伊織

近畿地方整備局営繕部 営繕ビジョン

平成13年１月省庁再編が実施され、国土交通省近畿地方整備局へ移行しました。また21世紀を迎え、今後、営繕部が果たすべき役割と、その具体的業務や施設整備の考え方を体系的に捉え、日常業務の中で実践するための指針となる長期的ビジョンを作成しましたので、その概要を紹介します。

施設整備の基本方針

○新しい時代の地域の
夢づくりと国民のために

○誇りをもって次世代へ
引き継ぐ施設づくり

上記の基本方針を踏まえて、近畿地方における官庁の施設整備のあり方について、次の６つの整備目標を掲げています。

① 国民サービスの向上を図る施設づくり

② 安全・安心な暮らしを実現する施設づくり

③ 環境と調和し共生する施設づくり

④ 地域・街づくりへ貢献する施設づくり

⑤ 文化性・歴史性を活用した施設づくり

⑥ 近畿の夢づくりを支援する施設づくり



大阪中之島合同庁舎



ビッグ・アイ（国連・障害者の十年記念施設）

①国民サービスの向上を図る施設づくり

●施設の集約・合同化による行政サービスの向上

福井市の行政施設の核として８官署を集約し利便性を図る



福井春山合同庁舎　（外観）



（内部）

●高度情報化による国民サービスの向上

電子図書館として世界に情報発信する施設



国立国会図書館関西館（仮称）

②安全・安心な暮らしを実現する施設づくり

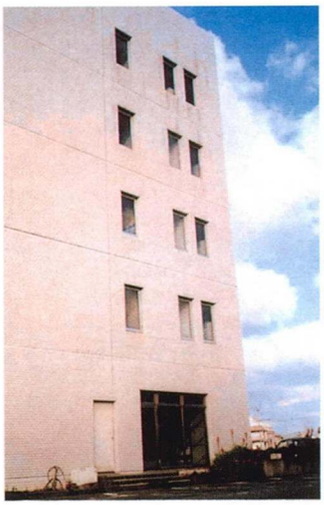
●安全・安心生活への貢献

安全な生活の支援・防災拠点



関西航空基地（仮称）

●バリアフリー化の実施



既存庁舎にエレベーターを設置

（施工前）



田辺港湾合同庁舎　（施工後）

③環境と調和し共生する施設づくり

●環境配慮型庁舎（グリーン庁舎）推進

太陽光発電、日射遮蔽ルーバー等環境負荷の低減に配慮



敦賀駅前合同庁舎　（外観）



（太陽光発電設備）

屋上緑化による環境対策



関西空港地方合同庁舎　（外観）



（屋上）

④地域・街づくりへ貢献する施設づくり

●街並みに配慮した施設



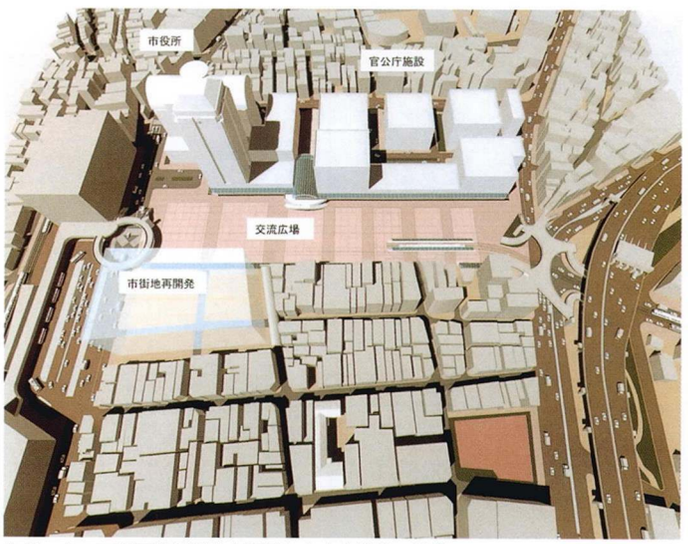
京都第２地方合同庁舎　（外観）



（内部）

●中心市街地活性化への寄与

地方公共団体や民間と連携し、
地域の特色・個性を生かした整備

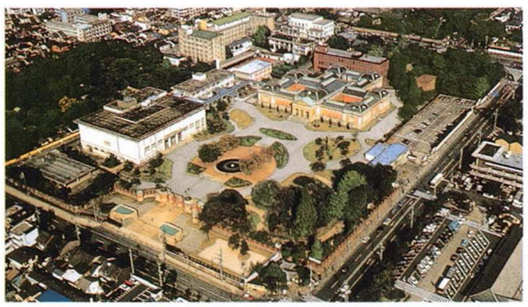


シビックコア地区整備制度を活用した官庁施設の整備　（イメージ図）

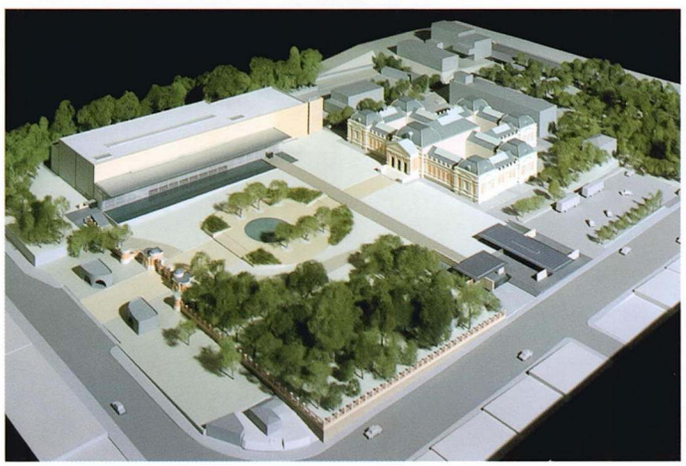
⑤文化性・歴史性を活用した施設づくり

●歴史文化を育む施設設備

良好な景観に配慮して整備



（現状）



京都国立博物館百年記念館（仮称）整備

●歴史的建造物・街並みの保存

シンボル建物を活用して増築



神戸税関本関

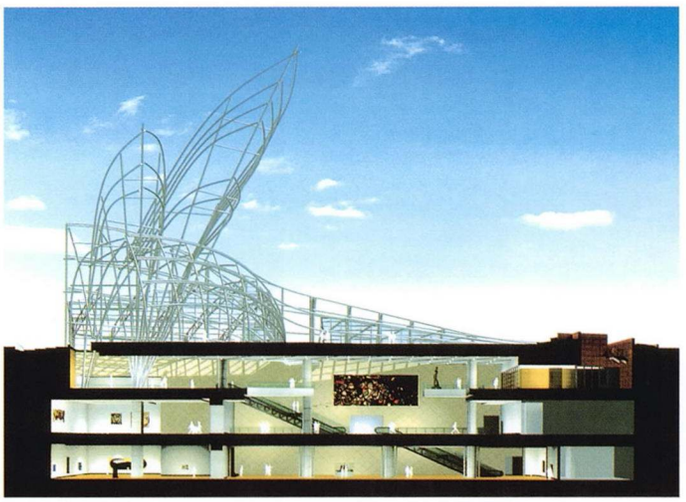
歴史的ファサードを残して新築



神戸地方・簡易裁判所

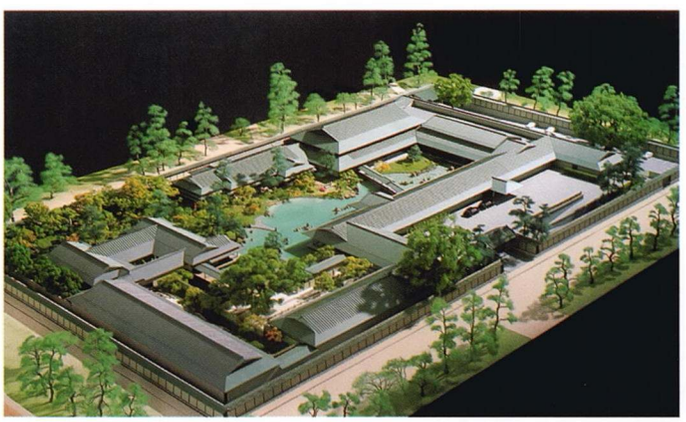
⑥近畿の夢づくりを支援する施設づくり

●新文化創造への貢献



国立国際美術館

●国際交流への貢献

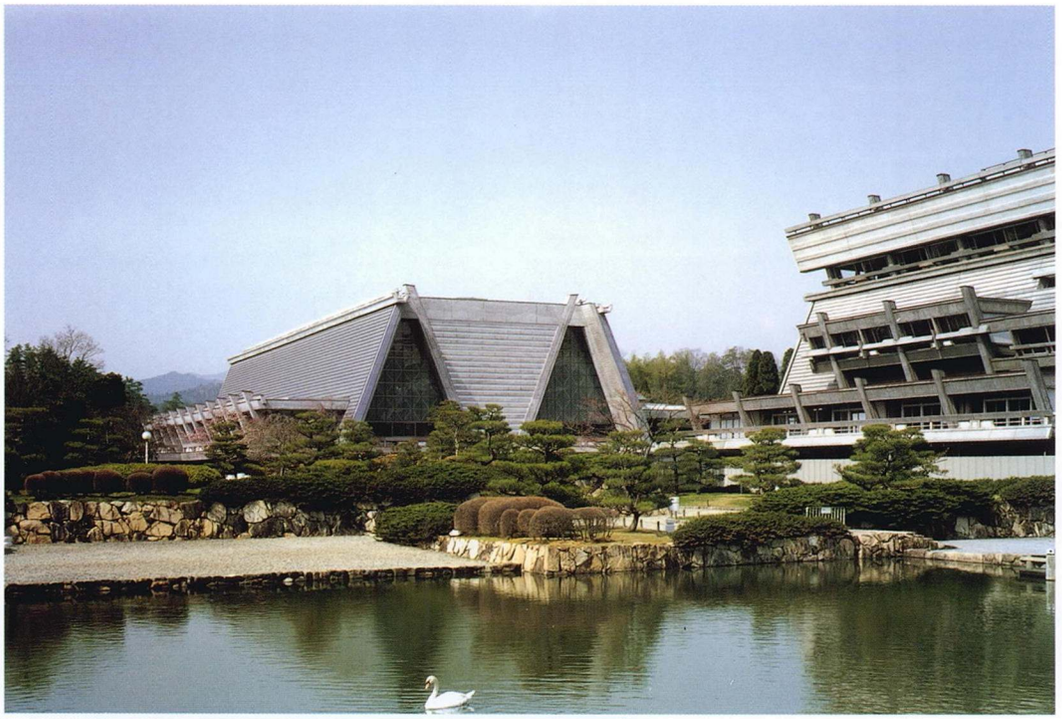


京都迎賓館（仮称）

●先端学術研究への貢献



医薬基盤技術研究施設（仮称）







国立京都国際会館 アネックス棟
ビッグ・アイ（国連・障害者の十年記念施設）





神戸防災合同庁舎
敦賀駅前合同庁舎





奈良国立博物館東新館



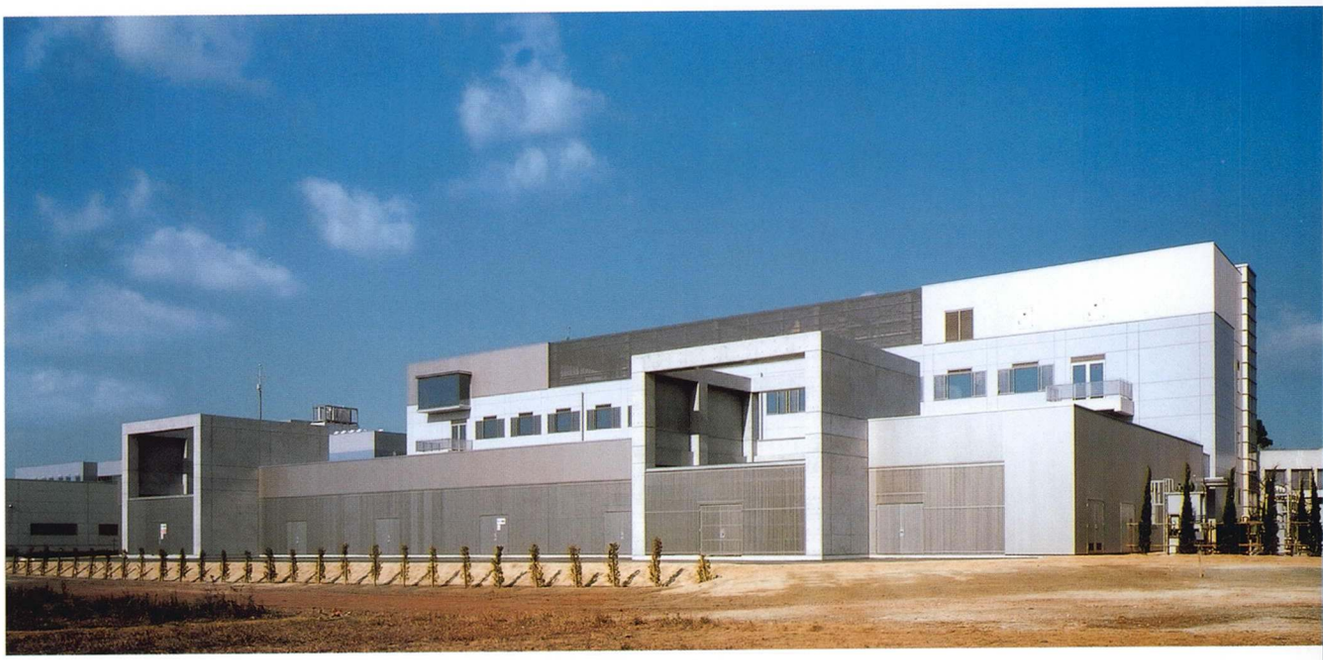


奈良国立博物館文化財保存修理所
京都国立博物館　南門施設





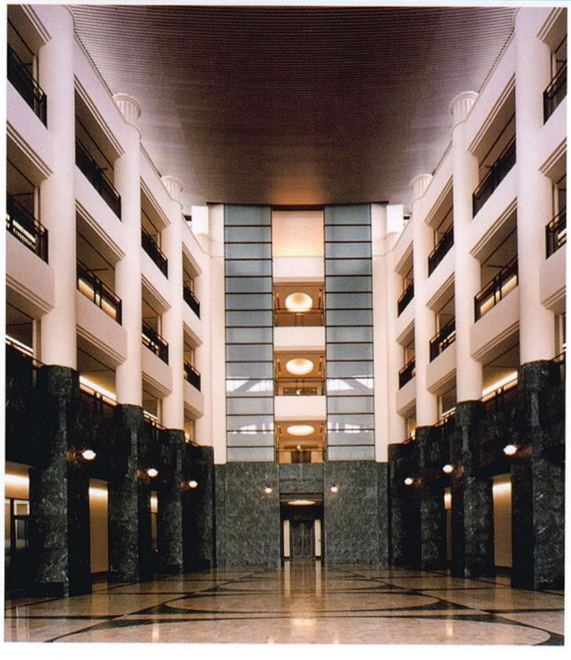

産業技術総合研究所関西センター
光機能研究棟 産学官共同研究棟
人間計測研究棟 先端材料実験棟





通信総合研究所第2研究棟
京都大学防災研究所宇治川水理実験所





神戸税関本関





神戸税関摩耶埠頭出張所
大阪税関大阪航空貨物出張所





大阪海上警備隊
姫路自動車検査事務所





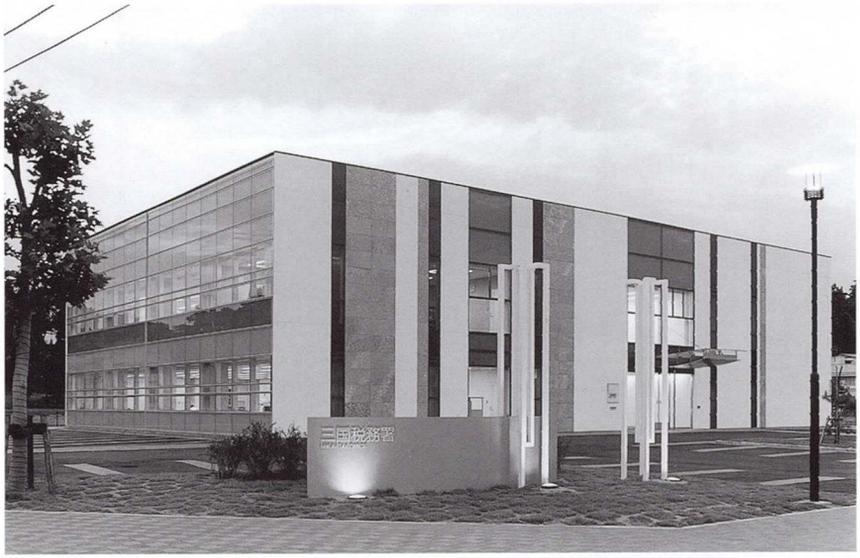
三国海上保安署
海技大学校本館







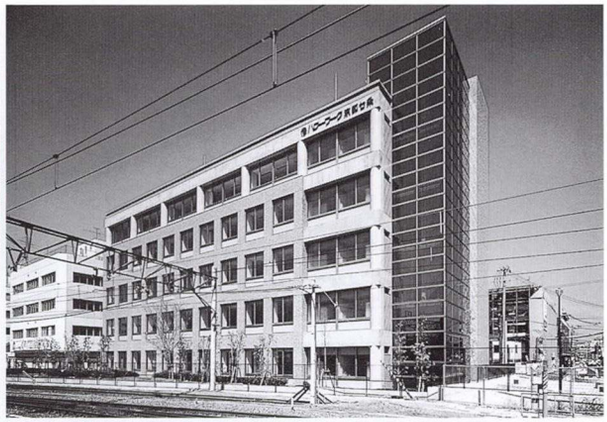
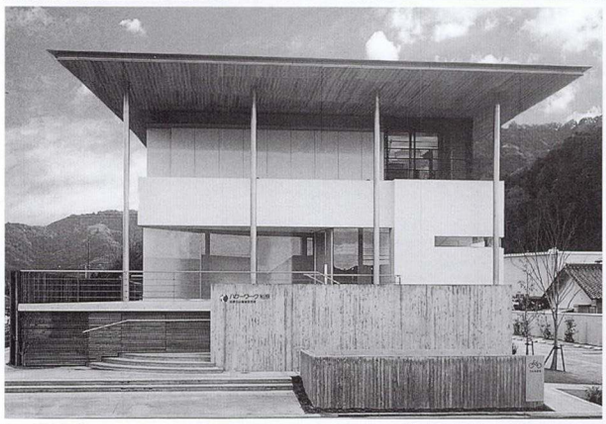
大阪労災介護施設
大阪地家裁岸和田支部
動物検疫所関西空港支所特殊動物舎・霊長類舎







三国税務署
吉野税務署
旭税務署

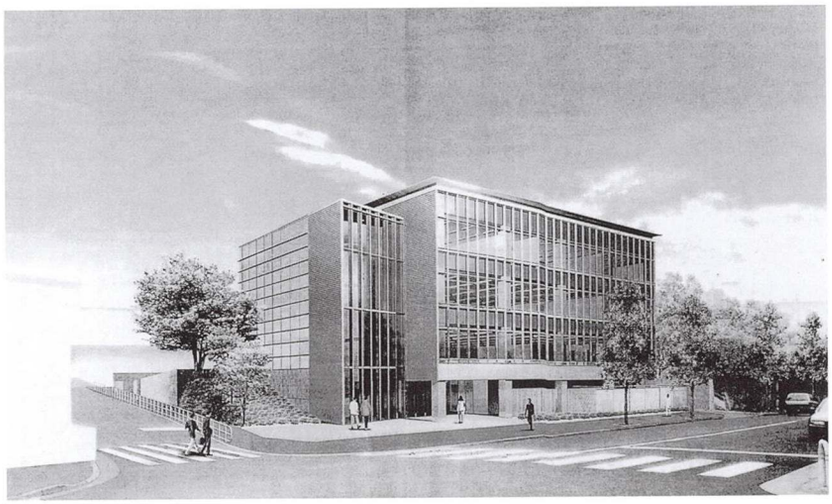




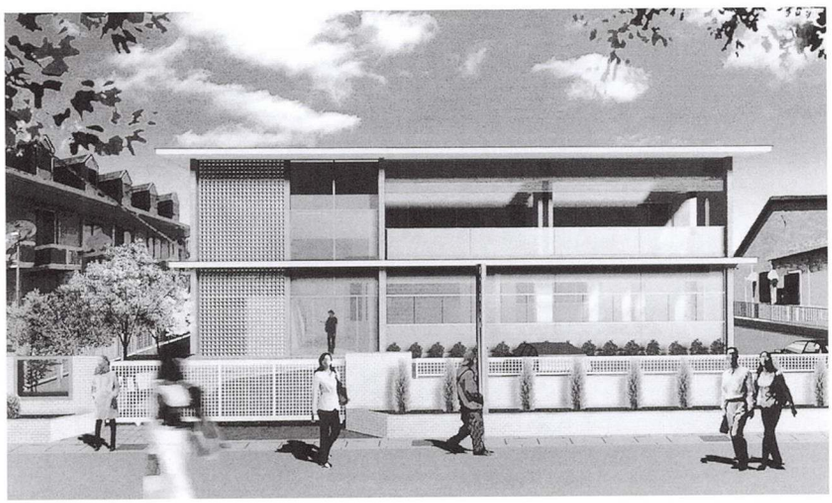


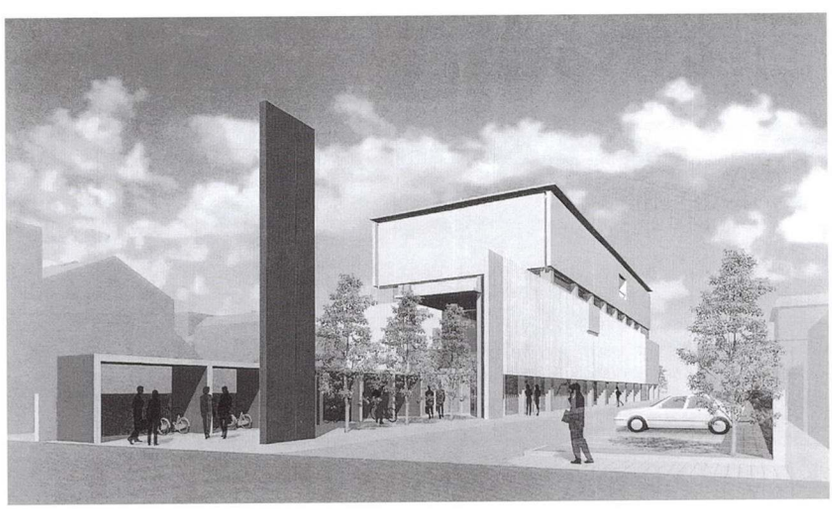


下市公共職業安定所　京都七条公共職業安定所
柏原公共職業安定所　武生公共職業安定所朝日出張所
福知山公共職業安定所　神戸公共職業安定所
茨木公共職業安定所

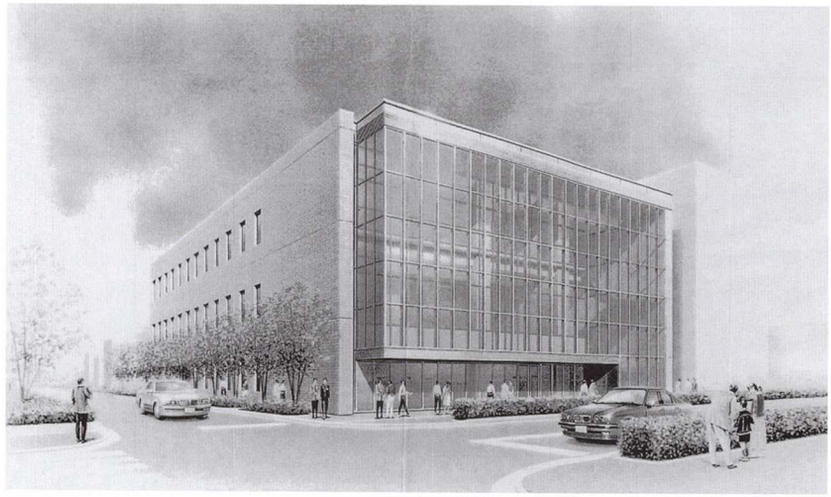
撮影　上田出日児、 SS大阪、 岡林利幸、 写トリエ・時空、 伸和、 砂川敏夫
芹野信人、名執一雄、東出清彦、樋口尚俊、藤田修一、森元建三郎、山田和夫



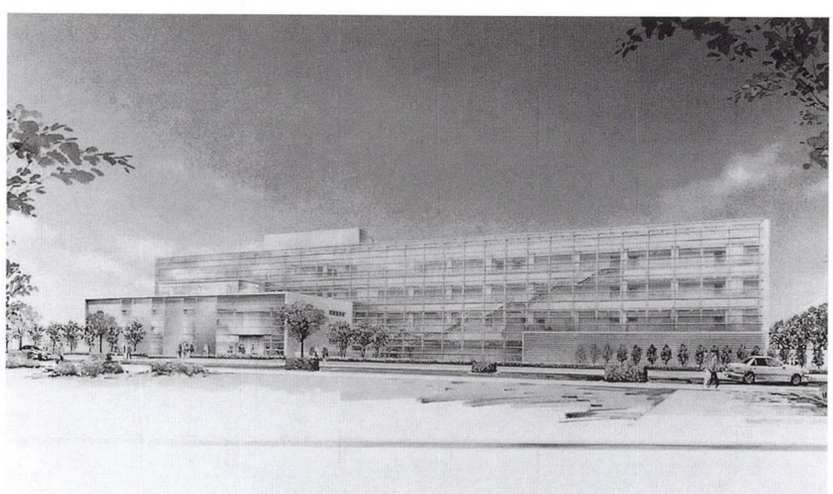




灘公共職業安定所・障害者センター
姫路食糧支所
茨木法務出張所







明石法務支局
京都労働局
大阪府警察学校分館

「建築と社会」誌

特集一覧●1979~2000

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6348-0635、FAX 06-6348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1979 vol.60	●転換期の再開発＊	●大阪南港ポートタウン＊	●商業空間＊	●コンクリートのひびわれ	●日影規則＊	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌＊	●建築の終局強度の検討	●住内のまちづくり＊	●80年代のインテリア＊	●第26回青年技術者＊	●建設業の労務事情＊
1980 vol.61	●80年代の都市と建築―まちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	●住宅の耐久性＊	●建築行政と法規＊	●最近の防水工法	●都市景観とアメニティ＊	●屋内体育施設の設備＊	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材＊	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	●これからの建築設計と新耐震設計法＊
1981 vol.62	●職能論＊	●中国の論文―北京の都市計画＊	●ポートピア'81＊	●台所まわりの計画と設備＊	●シーリング材の知識＊	●災害と法―安全な環境をめざして＊	●都市住宅―住まい手からの発想＊	●建築物と風―デザイナーのために ●日建設計作品集＊	●住宅・都市整備公団―関西における都市整備を中心とした新公団の役割＊	●間仕切壁の性能評価＊	●第28回青年技術者＊	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 vol.63	●新たな商業空間の展開＊	●省エネルギーと開口部＊	●医療施設―地域医療と設備計画＊	●近畿の地盤と地質＊	●都市景観―まちなみ美観への誘い＊	●大阪市庁舎（第1期）＊	●ホール建築と音＊	●大スパン構造＊	●昭和設計作品集＊	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築＊	●風土・空気と人間＊
1983 vol.64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設＊	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール＊	●集合住宅と生活音
1984 vol.65	●21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル＊	●ビルのリフレッシュ―内外装補修技術の現状と展望―＊	●建設産業とロボット開発＊	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル＊	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々＊	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 vol.66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール―それが生みだす文化―	●建物の表情―最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合―人体と建築にみる― ●日建設計作品＊	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 vol.67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザイン―ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて― ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 vol.68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり＊	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 vol.69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明＊	●制振＊	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営善	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 vol.70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 vol.71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館＊	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざして―＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 vol.72	●新しい都市空間づくり―I―	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり―II― ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号＊	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界― ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 vol.73	●夢物語―人がかわる、まちがかわる―	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―＊	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム―	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―＊	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」＊	●屋台一仮設の魅力に学ぶ― ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 vol.74	●第38回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割― ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境―人にやさしい空間創造をめざして
1994 vol.75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈＊	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって―会員作品＊	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美―建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 vol.76	●光がつくる風合の世界＊	●音―騒音から操音/創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化＊	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法―会員作品	●新しい「都市・建築」の視点＊	●建築構造と社会の接点 ●日建設計＊	●ライフラインと建築設備＊	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 vol.77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念＊	●遠江―その地方振興と文化＊	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 vol.78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり＊	●東海支部会員作品 ●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築＊	●創立80周年記念／建築と私と社会―80人の眼―＊	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へ― ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA＊	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 vol.79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州―訳詩とその周辺―	●街並みの演出―最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備―ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98―21世紀に向けて	●ゆれをとめる―たえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 vol.80	●“らしさ”のデザイン ●建築を綾どる小枠なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 ●北信濃―街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法―まちづくり・すまいづくりへの展開―	●私の目でみた環境問題	●アーバンインテリア―都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者
2000 vol.81	●21世紀のデザインの動向を見る ●安井建築設計事務所創業75周年	●中国支部―しまなみ海道と中国地方の街づくり―	●東海支部会員作品2000 ●越中・富山―地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ	●こころを癒す環境デザイン	●測る―測定方法と測定結果が意味するもの―	●スケルトン&インフィル	●改正建築基準法―パートII―	●100年後へのメッセージ ●日建設計創業100周年	●来世紀に引き継ぐ―わざ、もの、こころ―＊	●時間	●私の空間作法―会員作品― ●21世紀の高齢者の居住環境	●第47回青年技術者

＊は欠号

フェイク考 about the Fake

Ikegami You
池上 陽 安井建築設計事務所

木



日常的なる非日常

街には豹柄や迷彩柄が溢れている。映画、ゲームやテーマパークなどの演出された非日常の世界は、世の不況にも関わらず盛況である。我々が何気なく接している日々の場面のなかにも、さりげなく仮面を被ったものが存在する。人はイメージを纏うことによって安心するのか。いや、動物たちが擬態化し背景に溶け込むことによって自らを守る本能に近いものなのか。

そこに在る理由

建築の分野においても、本物の材質感に迫りつつある新素材に触れる機会が多くなってきた。

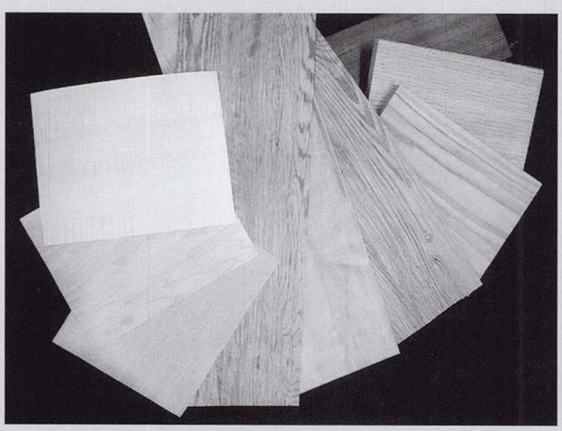
木はなぜ木として認識されるのか？　色、木肌、節等の織り成す文様を自らの記憶の底から呼び起こしているからなのか。遠い日の思い出、見て触れて感じたイメージの模索。

商品開発は日に日に進化を遂げつつある。そもそも、床柱でさえ集成材の表面に皮一枚を貼り付けたものが住宅産業の主流。一方には、不燃化を満足し水や衝撃にも朽ちない「疑似木」もある。俗に化粧板、化粧シートといわれるものの多くは、写真を印刷した表面に凹凸加工を施したもの。その整然としたリアルさは、逆に本物の存在感をも希薄にしてしまう。選りすぐりの素材のみが保っていた緻密さ繊細さは、いまや最新の技術をもって容易にクローン化される。吉野杉風の天井材が廉価に手に入り、バーズアイメープル風の壁が簡単に造られる時代。

夢見る素材

我々はそこに「夢」を見るのかもしれない。イメージを具現化する行為は、時に様式や形態をも巻き込んで我々を悩ませる。翻せば、この「夢」によってあるいは非現実的空間を実現化することもできるだろう。既成の概念を変えてしまうほどの、本来の素材では成し得ない世界を描くことによって。

近年、バーチャルな世界がリアリティーを持ち始め、現実なのかと戸惑う場面がある。儚いイメージを転写された素材たちは、果たして何を夢見るのであろうか。





「素材と技術が生み出すdesign」は、相対する具体的な事例や視点に光をあてることにより、異なるものの見方の可能性に挑戦する。今回は、社会の時流からデザインを俯瞰する意味で、フェイクについて考えてみた。今、そしてこれからの時代と共存する建築のあり方を探る意味で、成り立ちそのものに大きな役割を果たしてきた木や石を例とし、このテーマを考えてみる。

（素材と技術が生み出すdesign　幹事会）

石

竹中工務店　Ueda Michinori 植田 道則



時代のフェイク感

「こないだMORGANでフェイクの黒のパンツを買ったんですが、どうも違う・・・。シマロンではフェイクだしてないのでしょうか。」

先日、ホームページを見ているとこんな文章に出くわした。

建築に限らず、フェイクに対する捉え方は、随分変わってきたように思う。ここ数年、街でよく見かけるフェイクレザーのファッションも、本物の毛皮や皮のコートで身を纏うことがある種豊かさの証とする風潮とは違い、むしろ、むき出しのフェイク感を楽しんでいるといったものだ。

このフェイク感をコンセプトに、ブランド展開を図るファッションメーカーやデザイナーも多い。DKNYのロゴで知られるファッションデザイナー、ダナ・キャランもその一人。もちろん、欧米の動物愛護への意識の高まりもあったように思うが、そのデザインのきっかけとして、自身の娘に着せる服を創りたいという発想があったことも興味深い。20代の女性が、毛皮のコートを着ることが、ダナ・キャラン自身の“ふさわしい服”のイメージには結びつかなかったのだろう。

最も誰が見ても、似合ってるというなら別だと思うけれど。

今日のフェイク感

建築における石という素材も、毛皮と同じぐらい魅力的な素材である。

経済性や法規条件等を抜きにすれば、無垢の石を臥梁もなしに積み重ねて創る積石造の建築に一度は挑戦してみたい。そこには、素材である石そのものとそれを積み重ねて創るという構築のシステムが、まったく矛盾を含まず存在するかのように思えるからだ。

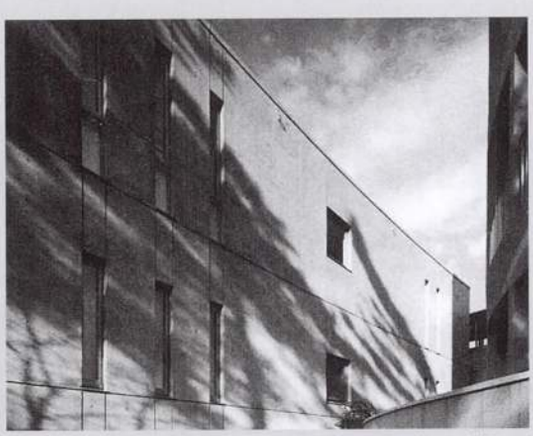
現代建築はどうだろう。

「機械びきし、磨き上げた薄い張り物の石より、芯まで同質のコンクリートの方が、事実立派なのかもしれない」（『安藤忠雄のディテール』西澤文隆さん、冒頭の文章より抜粋）という考え方もある。また、あくまでも、歴史の形象として、イメージの表現として、表面の仕上げ材に、肯定的に使うという考え方もある。今では、コンクリート表面に吹付を施し、石と寸分違わぬ表情を見せる技術や、テーマパークでよく見られたFRPの石が、再利用された二次製品の形で、日常的な建築に使われていくというケースも散見できるようになっている。

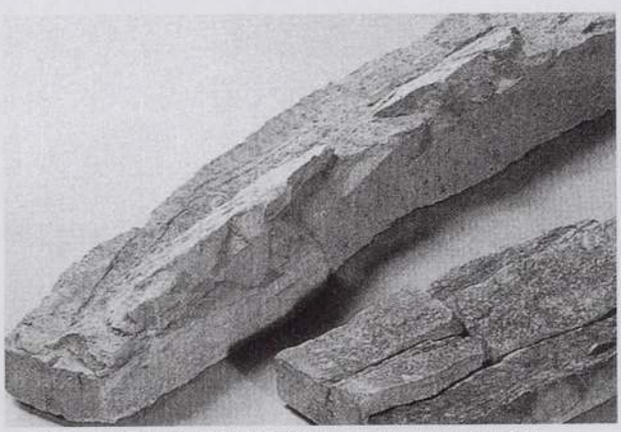
どこに向かうのか

今日の状況は、それを受け止める人々の考え方も、寛容になってきている。

もう、フェイクとは、単なる本物に対する偽物という扱いでは、語れないところまで来ているのではなかろうか。



補修なしのコンクリート打放しは、フェイク感とは逆の位置付けとも捉えられる。



エルドラード社のセメント系人造石（『素材・建材ハンドブック』より）

航空障害灯設置基準の緩和

池田哲郎
国土交通省航空局管制保安部保安企画課航行視覚援助業務室調査係長

平成13年７月27日付け官報（第3166号）にて航空法施行規則の一部を改正する省令（国土交通省令第113号）が公布され、同日施行となった。この省令は航空法施行規則第127条（航空障害灯の種類及び設置基準）の改正であり、概要は、高層ビル等に設置する航空障害灯の設置基準を大幅に緩和したものである。

航空障害灯は、航空機に対し航行の障害となる物件の存在を認識させるための施設である。航空法第51条の規定により、60ｍ以上の高さの物件の設置者は、航空障害灯を設置しなければならず、その具体的な設置基準は航空法施行規則で定めている。

現在、全国で60ｍ以上の高さの物件で航空障害灯を設置しているものは約7,500件あり、具体的には、高層ビル、煙突・鉄塔等がこれに該当する。これらのうち、高層ビルは、建築技術の発展・容積率の緩和等制度上の改正等により著しく増加しており、現在、60ｍ以上の高さの高層ビルで航空障害灯を設置しているものは約1,000件ある。このような状況下、①高層マンションの居住者及び周辺住民への配慮②都市部における夜間の景観への配慮③設置コスト及び維持コストの縮減④省エネルギー等への関心の高まり等の観点から、社会的ニーズに応えるために、航行の安全を確保しつつ、航空障害灯の設置基準について、以下のとおり緩和した。

高層ビル等に設置する航空障害灯の設置基準の緩和

旧規定では、高層ビル等には、煙突・鉄塔等昼間障害標識の設置を要する物件と同一の対象物件として、航空障害灯の設置基準を定めている。しかしながら、当該設置基準の制定当初に比し高層ビル等は昨今著しく増加している状況にあり、これに伴う様々な社会的ニーズが発生している。今般、高層ビル等に係る設置基準を昼間障害標識の設置を要する物件に係る設置基準と切り分け、新たに定めることとした。具体的には、高層ビル等の物件をその高さにより以下のとおり分類したうえで、航空障害灯の設置基準を緩和した。

なお、昼間障害標識の設置を要する物件は、夜間において当該物件を視認することが極めて困難であること、また、送電鉄塔間等の送電線へ航空障害灯を設置することは技術的に不可能であること等から、当該物件が煙突・鉄塔等であることを認識させる必要性が高い。よって、昼間障害標識の設置を要する物件は本改正の対象とはしないこととした。

(1)150ｍ未満の高さの物件

旧規定では、物件の頂上及び物件の側面（物件の頂上から地上までの間に、垂直距離で52.5ｍ以下の等間隔の位置）に設置することとしていたが、物件の側面への設置をやめ、物件の頂上にのみ設置することとした。

物件の頂上に設置する航空障害灯は、新たに規定した低光度航空障害灯または現行の中光度赤色航空障害灯とした。新たに規定した低光度航空障害灯の性能は、有視界飛行方式で飛行する航空機の航行の安全を確保するため、飛行可能な最低限の飛行視程（1500ｍ）において、十分回避可能な距離から視認可能とするに必要な100cd以上を基準とした。



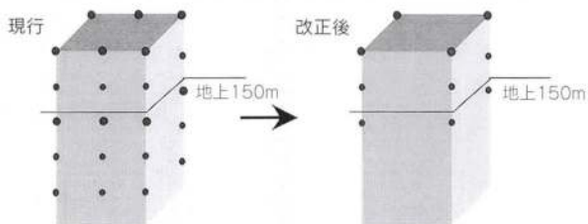
150m未満の高さの物件（例：140m）

(2)150ｍ以上の高さの物件

物件の頂上から順にほぼ等間隔で設置し、地上から150ｍ未満の高さに初めて設置することとなる高さまで設置することとした。

具体的には、物件の頂上に中光度赤色航空障害灯を設置し、当該物件の頂上から下方に順に52.5ｍ以下のほぼ等間隔で低光度航空障害灯及び中光度赤色航空障害灯を交互に、地上から150ｍ未満の高さに初めて設置することとなる高さまで、設置することとした。ただし、最も低い位置の航空障害灯が中光度赤色航空障害灯となる場合には、低光度航空障害灯を設置することとした。

また、中光度赤色航空障害灯の設置を要する物件の条件を、90ｍ以上の高さの物件から150ｍ以上の高さの物件へ緩和した。



150m以上の高さの物件（例：240m）

周囲の状況または物件の構造に応じた例外規定の追加

当該物件の航空障害灯が他の物件により遮へいされる場合、若しくは他の物件の航空障害灯により当該物件の存在を十分に認識させることができる場合等の周囲との関係または物件の構造上の理由により航空障害灯の設置が不適当である場合は、国土交通大臣が適当であると認めた位置に設置、または省略することができることとした。

航行の安全に資する適切な対応

本改正により、高層ビル等への航空障害灯設置が緩和され、赤い光による不快感の軽減、メンテナンスのための居住スペースへの出入りの軽減等、高層マンションの居住者や周辺住民の生活環境の改善、また、都市部においては夜間の景観の改善、さらに物件所有者のコスト縮減及び省エネルギー対策にも寄与することとなった。

今回の改正は、平成12年12月に改正した煙突・鉄塔等の昼間障害標識の設置を要する150ｍ以下の物件について、中光度白色航空障害灯を設置した場合、昼間障害標識（赤白の塗色）の設置を省略できる規制緩和に引き続いての改正である。

これら航空障害標識は航空機の航行の安全を確保するため必要な施設であるが、物件所有者または地域住民からは環境上の問題も含め様々な要望があることも事実である。今後も航空の安全を前提に調査・研究を行い、適切な対応を図っていくこととしている。

今回改正した設置基準は、７月27日（公布施行日）以降に完成する物件及び既存の物件にも適用されることとなっており、個々の物件についての問い合わせは、地方航空局までご相談願いたい。

東京航空局飛行場部電気課／TEL03－5275－9292（内7425）
大阪航空局飛行場部電気課／TEL06－6949－6211（内5176）

（いけだ　てつろう）

国会図書館関西館(仮称)の構造設計

長尾直治*・土田伸二・小林秀雄・中川　崇
㈱日本設計・構造設計部、*工博

1996年の国際コンペで、多数の案の中から、陶器二三雄氏が1等に選ばれた。その後、約2年の設計期間を経て、1999年10月から工事が始まった。主な躯体工事はすでに終わり、今は仕上げ工事が最盛期であり、2002年春に概成予定である。

ここでは、私たちが担当した構造設計について報告する。

建築概要

図1は完成予想図である。地上部にはガラス壁面で構成された建物と芝生で覆われた鋸屋根が見えるだけであるが、約6万㎡の延べ床面積のうち、80%が地下に埋められており、そのほとんどが書庫(固定書架約14,000連、集密書架約75,000連)である。

敷地は、北側道路とは滝で、西側道路とは斜面で区画されており、利用者は北側から、館員は西側からアプローチする。

図2および**図3**は地下1階の平面図と南北方向断面図である。大きく広がった深い地下室(南北約105m、東西約130mの長方形平面)の上に、中央の30m幅の中庭を挟んで、北側に45m幅の鋸屋根を有する1層の閲覧室、南側に幅35mの屋上庭園を有する事務室が配置

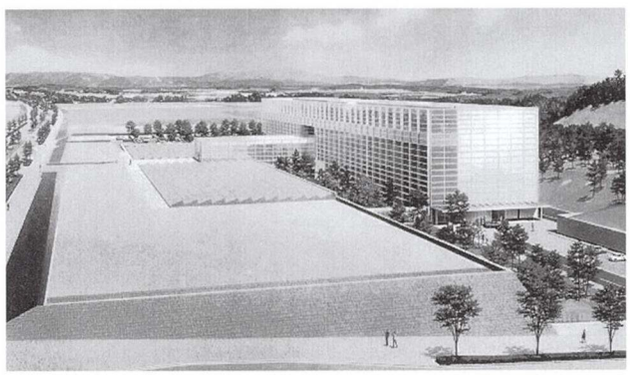


図1　完成予想図(西側道路より望む)

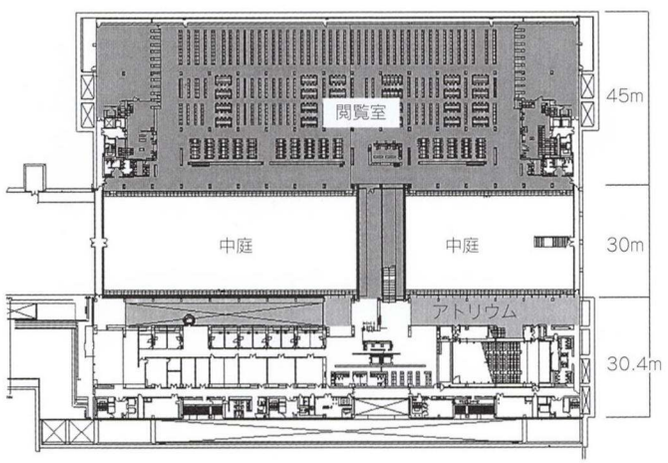


図2　地下1階平面図

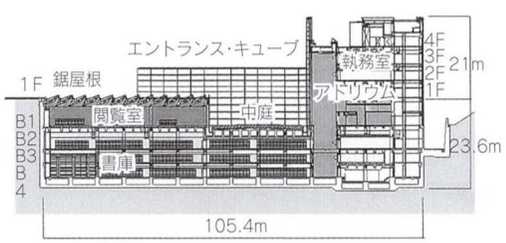


図3　南北方向断面図

表1　建築概要

発注・監理	国土交通省近畿地方整備局営繕部
設計・監理	陶器二三雄建築研究所 (構造・設備設計担当：株式会社日本設計)
建築工事	竹中・住友・五洋特定建設工事共同企業体
建築地	京都府相楽郡精華町精華台
建築面積	1万0500㎡
延べ床面積	5万9500㎡
階　数	地下4階　　地上4階
構　造	地下SRC造　地上S造
軒　高	GL+27.95m(1FL+21.0m)
掘削深さ	1FL−23.60m
工　期	平成10年10月～平成14年3月予定

されている。大きく三分割された施設を、エントランス・キューブ(主入り口)が結んでいる。

敷地には南側に緩やかに上る勾配があり、将来増築予定地である南側隣地とは擁壁で区画されている。

この建物は、書架の配置から定まった7,500㎜が基準寸法になっており、スパンは7.5mや15mである。また、7,500㎜の1/2、1/3などの寸法が、ガラスや柱あるいは梁の寸法を定めている。

構造概要

地下室は、剛強な土圧壁で取り囲まれたSRC造であり、地上部は、ガラス壁面の多い透明な外観を有するS造である。

耐震設計は「官庁施設の総合耐震計画規準(平成8年10月)」に準拠して行い、重要度係数I=1.25とした。

1)事務室架構

スパン15m(南北方向)×7.5m(東西方向)の事務室の北側に、天井の高い吹き抜け空間(北側アトリウム)を有し、地下1階を柱脚とする5層の架構である。柱はCFT(Concrete Filled Tube)であり、溶接組立角形鋼管にFC42の高流動コンクリートを圧入した。主な梁は成1,100㎜の溶接組み立てH形鋼である。耐震要素は座屈拘束ブレース(芯材はH-250×250㎜の狭YR鋼、被覆材は450×450㎜の鉄筋コンクリート)であり、各階で短辺方向に8枚、長辺方向に4枚設けている。

2)閲覧室架構

地下1階中庭の北側に配置された1層構造であり、トップライトと芝生からなる面積約5,000㎡の鋸屋根を載せた本建物の顔となる架構である。

南北方向に架けた15mスパンの溶接組み立てH形鋼梁、細長い長方形断面(750㎜×500㎜)のCFT柱、および鋸屋根(梁で補強された3.75m×7.5mの大型プレキャスト・プレストレスト・コンクリート版構造)で構成され、土圧を支持する東西および北の3面の剛強なRC造壁と南側のカーテンウォールで取り囲まれた構造である。

3)地盤・基礎

海抜約100mの京阪奈丘陵に位置し、地盤は大阪層群(粘性土と砂質土および砂礫土質の規則的な互層)から構成されており、GL−10m以深で地盤のN値は50を超える。工学的に安定した地盤であるが、緩い褶曲構造を有しており、粘性土の上面に地下水が集まりやすい構造を有している。

基礎は地盤面下約25mの粘性土または砂礫土質を支持層とする直接基礎（7.5mグリッドの格子状の基礎梁で補強されたベタ基礎）であり、長期地耐力を75t／㎡としている。

4）地下室架構

厚さ800㎜～1,300㎜の剛強な土圧壁で取り囲まれた構造である。

ところで、地下壁からの漏水は、コンクリートの打継ぎ部や型枠保持のための貫通セパレータの下端の隙間から発生することが多い。第1級の止水性能（書庫では重要である）を得るため、山止め壁に防水材を塗布するとともに、セパレータを用いない工法とし、さらに空調付き二重壁としている。

地下室のスパンは、両方向とも7.5mを基本とするRC造耐震壁付ラーメン構造（柱・梁はSRC造）である。書庫部の柱寸法は、書架の寸法に合わせて、850㎜×750㎜（打ち放し仕上げ）が基本であり、梁成は900㎜が基本である。急速施工のため、床や梁部材をプレキャスト（PCa）化した。

5）エントランス・キューブ架構

ガラス・カーテンウォールと露出型鉄骨造（火災時解析により無耐火被覆とした）の透明な架構であり、本建物の主入り口である。**図4**のように、極厚のFR鋼板（85㎜×600㎜）の柱とH形鋼屋根梁で構成されたスパン14mの門形ラーメン構造が3.75m間隔で配置されている。階高は、7.5mおよび15mである。極厚のFR鋼板柱は、ガラスの方立てを兼ねる仕上げ材であり、横繋ぎ材（75㎜×100㎜の極厚FR鋼角材）を座屈止めとしたスレンダーな構造である。変形能力や耐力が十分であるかを確認するために、1/3モデルを作成し、水平加力実験を行って検証した。

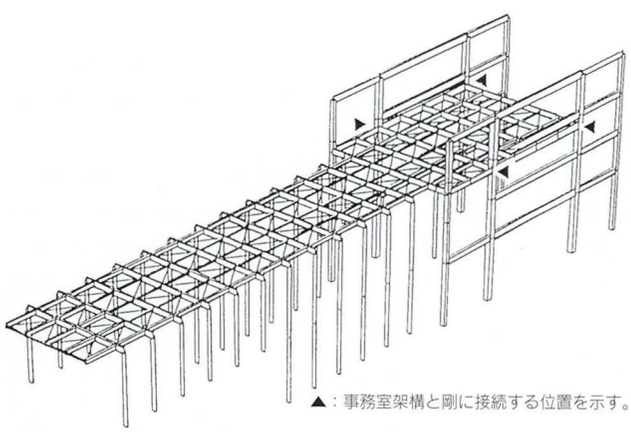


図4　エントランスキャノピー架構図

なお、本建物は閲覧室架構と事務室架構の2棟が地下室の上に載ったツインタワー形式とみなせるが、エントランス・キューブ架構は、両棟を構造的に連結している。地震時に両棟の異なる動きを許容するため、エントランス・キューブ構造は、面内剛性の高い屋根構造を介して事務室架構と剛に接合し、閲覧室構造とは、剛性の低い鋼板で構成された柱を介して柔らかく接合している。

6）北側アトリウム

高さ約28m・幅約130mのガラス壁面の方立てとなるフィーレンディール形式の格子構造（主に75㎜×100㎜の極厚角鋼材と継手部の鋳鋼で構成）は、500㎜角のCFT長柱（本体鉄骨）で支持されている。これらの極厚角鋼材は工場および現場で溶接（部分溶け込み溶接）接合されたが、**図5**のように、溶接ビードを削り仕上げするなど、露出型鉄骨を美しく見せるための方策がとられた。

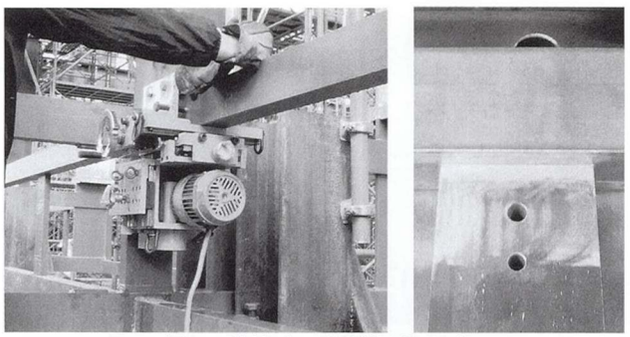


図5　溶接ビードの削り仕上げ

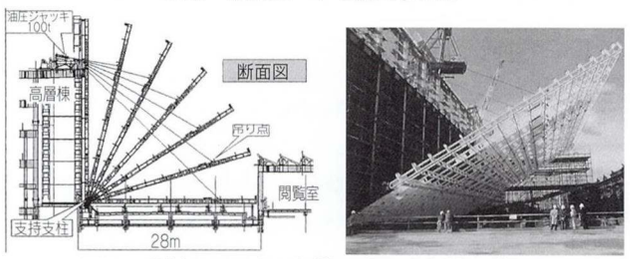


図6　北側アトリウム架構のウェイクアップ施工

また、精度向上、安全性向上、仮設材削減などを目的として、**図6**のように、西ブロック（面積1900㎡、重量267t）と東ブロック（面積1270㎡、重量209t）に二分して、地組みした鉄骨のウェイクアップ（引き起こし）施工が行われた。

施工

図7は、PCa化された地下室の上部に見えてきた大型タワークレーンを用いた鉄骨建方工事の様子である。建設CALS推進作業所としてITを利用した情報システムの開発が行われ、ほとんどの事柄がコンピュータで管理されている。また、ISOに基づく品質管理やゼロエミッションを目指した環境対策などが積極的に導入されている。

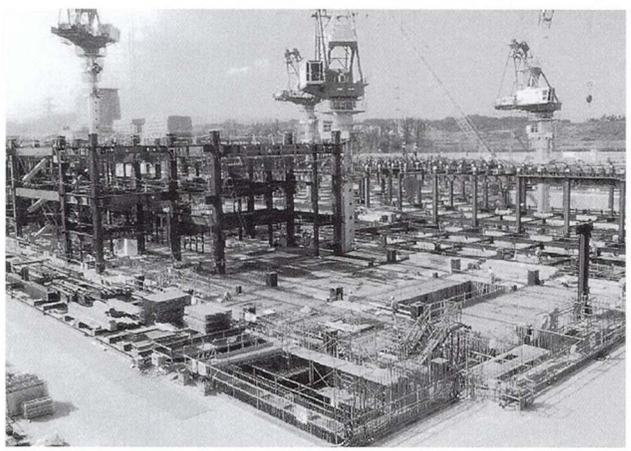


図7　鉄骨建て方工事

おわりに

京阪奈丘陵は新しい街造りの最中である。今はまだ緑が少ないが、10年、20年とたつうちに木が育ち、うるおいを増して、この学研都市は豊かな自然を回復する。

この建物は超寿命であることを、当然ではあるが意識しており、そのような対応を随所で行っている。高度情報化された学研都市の中核施設は時を経るごとに、環境とも社会ともますます調和していくものと考える。

（ながお　ただはる、つちだ　しんじ、こばやし　ひでお、なかがわ　たかし）

階段室型共同住宅用エレベーターの開発

田邉豪二
国土交通省住宅局住宅総合整備課指導係

開発に至る背景等

公営住宅の全国ストックは平成11年度末時点において約217万戸あり（**表1**）、なかでも昭和40年代に建設されたものが約80万戸と、全体の約4割を占めている。

表1　公営住宅ストック数（年代別／平成11年度末）

年代	S20年代	S30年代	S40年代	S50年代	S60～H6	H7～H11	合計
戸数	4.0	19.2	79.3	59.1	40.8	14.1	216.7
割合	2%	9%	37%	27%	19%	7%	100%

このストックは新規建設戸数に比して膨大な量であり、これを活用して、住み替えの促進を行うほか、建設時以降の居住水準の向上、構造・設備の老朽化への対応、近年の適正立地における用地取得難下での有効な土地資源としての利用等、ストックの活用が重要な施策となっている。

昭和30年代の公営住宅は、木造、簡易耐火構造等の低層住宅が中心であり、耐久性の問題や、現在では市街化された地域に立地しているにもかかわらず土地の低密度利用しかなされていないケースが多く、建て替え事業によりストックの更新を図ってきているところである。

昭和40年代の公営住宅は、中高層耐火構造の住宅が大半を占めており、耐久上支障のないものが多く、特に耐震上においても支障のない壁構造で建設されているものが多い。しかしながら、居住性について言えば、40㎡程度の2DKが主であり、間取りの狭さ、設備の老朽化、さらには居住者の高齢化が問題となっている。

このような課題を抱えるなか、第八期住宅建設五箇年計画においても、ストックの重視（良質な住宅ストックの再生、既存ストックの活用）、高齢社会への対応（住宅のバリアフリー化の推進等）等が、住宅施策の重点的に取り組む基本的課題とされているところである。

階段室型共同住宅用エレベーターの技術開発

昭和40年代から50年代の公営住宅の課題である居住性の向上という点においては、個別の改善事業を実施し、その向上を図ってきているところである。しかしながら共用部分の高齢化対応（バリアフリー化）ついては、昭和40年代に限らず、これまで供給されてきた公営住宅ストックの約半数がエレベーターのない中層階段室型共同住宅であり（**表2**）、改善が困難であった。それは、1棟に数箇所ある階段室ごとにエレベーターを設置しなければならず、そのためのスペースの問題、1住戸あたりの費用負担の問題などが支障となっていた。

このため、低コストで、コンパクトなエレベーター及びエレベーターシャフトを開発することを目的とする「階段室型共同住宅用エレベーター開発提案募集」を実施したところである。その開発提案募集概要は、以下のとおりである。

①設置対象として想定する建築物
・階段室型共同住宅（既存の公共賃貸住宅）
・エレベーターは階段室ごとに1基設置

②エレベーターの性能
・階段室単位に設置することを前提とした性能（コストダウンとの関係も含めて多様な提案を可能とするため、幅を持たせた要求性能を設定）

③コスト（踊り場に着床させることとした場合）
・イニシャルコスト（昇降路構築、昇降機設置に係る費用）を1基あたり600万円以下
・ランニングコスト（フルメンテナンス費用）を1基1月あたり1万5千円以下

④その他
・居住者が居住している状態で施工
・平成12年度中に供給可能なもの
・エレベーター製造業者に限らず、建設業、住宅メーカー等に対し募集（複数企業による共同応募も可）

平成11年8月に募集を行った結果、32提案があり、事務局である㈱ベターリビングに設置した「階段室型共同住宅用エレベーター審査委員会」において審査し、募集結果に適合した提案として19提案を選定したところである。

表2　公営住宅に占める階段室型共同住宅の割合（平成10年度末時点）

低層住宅（1、2階）	中層住宅（3～5階）			高層住宅（6階～）EV設置	合　計
	階段室型	廊下型			
		EV設置	EV未設置		
53万戸	106万戸	5万戸	16万戸	35万戸	215万戸
24.7%	49.3%	2.3%	7.4%	16.3%	100%

エレベーターの供給開始

こうして開発された階段室型共同住宅用エレベーターの設置を行い（**写真1**）、公営住宅ストックの有効活用と高齢化対応の推進を図っていくものである。

なお、平成12年度においては、既設公営住宅に対し、14都府県下において約1,000戸分にあたる階段室型共同住宅用エレベーターの供給が開始されている。



写真1　階段室型共同住宅用エレベーターの設置例

（たなべ　ごうじ）

「愚図の慌て！」からの発信



出版委員会副委員長
上原　正行
（竹中工務店）

（うえはら　まさゆき）
1941年兵庫県生まれ。1964年神戸大学建築学科卒業。同年竹中工務店大阪本店設計部入社。1991年設計部長。1995年神戸大学建設学科非常勤講師。

1）はじめに

「愚図の慌て」は、設計部の大先輩が30数年前、わたしたちにいわれた言葉である。計画性がなく、ぐずぐずしているうち締め切りが迫って、バタバタしている連中を「愚図の慌てん（坊）」（グズノアワテンボウ）と的確に表現された。踏ん切りがつかないまま ズルズルと時を過ごしている様子を思い浮かべて欲しい。一般的にいって、ひとはだいたい面倒なことを先送りしたがる。楽しいことはさっさと実行しても、いやなことはぎりぎりまでほっておく。

小学校時代の夏休み……海水浴、昆虫採集、全国高校野球の実況放送、盆踊り……と続き、地蔵盆が過ぎるころから、宿題のことが気になり始める。同じことを50年近く繰り返しているような気がする。そのたび去来する自己反省、自己嫌悪。もう少し早めにスタートしていたらもっとよいものが出来たかも…と。ふりかえってみれば締め切り前24時間をきってやっと頭が回転し始めていたようだ。

周囲を見渡すと、いわゆる「計画性の無い」デザイン系の連中は同じような 行動パターンをとっていたことを思い出す。

「デザイン決まらんときは時間が決めてくれよる。」とうそぶいていた輩である。そんな面々がいよいよ還暦を迎える時期になった。私など工学部の建築科を卒業してすぐに建設業の設計部門に就職、38年が過ぎる。この間、近畿と四国四県を仕事場とする職場に在籍、幸か不幸か一部署を離れること無く今日に至った。

「何と単調」「他支店も経験せんと楽してたんとちゃうか？」「井の中の蛙は俺のこと！」と心ざわめく。「しかし、いろんなことやらしてもろたやないか。会社には感謝……とちがうか？」

したがって、これから少しでも若い人たちのお役に立てたら…と、まことに殊勝な気持ちになっている。乞う！ご期待！

2）ふりかえって

ところで、口伝とは「師から弟子に、直接口頭で伝え授けること。またはその秘伝（書）」である。それは「こっそり、ひそやかな」という、イメージが残る。漫画の忍者が くわえていた巻き物？には、きっと「忍術の極意」が記されていたのだろう。京阪神の旧家で百年をこえ商いの続く老舗では、家訓なるものが活きている。建築主のお一人、Y社長は毎年年賀式で当主としての「戒め（社長の責務）＝家訓」を幹部社員に読み聞かせをされている。普通、企業では 社是・社訓があって企業を興された人々の哲学、思想が語られ、社員教育の骨格をなす。他の例では各部署の「長」が会議や研修会を通じ、その部署の人材育成に努めている。

入社当時の設計部は第一国立劇場のコンペに当選、前述の大先輩「故・岩本博行」さんが部長になられたときであり、当時、設計課は「計画」と「制作」チームに別れてまもない時期だった。わたしは竹中工務店を希望、入社面接を受けるに当たり、直近の先輩を訪問した。柔道部の先輩―森さんと、狩野さんである。「詳細図が描けるように、最初は制作で勉強したら…」の助言をいただき、面接時に希望したが逆だった。

そして1年間の「見習い」研修がスタートし、美濃紙に鉛筆で図面を描く毎日が始まった。間違えて消しゴムを使うとよく破れセロテープで裏から補修、汚ない。セロテープは1月もすると黄変。したがって書き直すことも多かった。1年ぐらいして、スコッチテープ出現。この素材は上から字が書けたので便利であった。まもなくトレーシング・ペーパーの出番。それに、ポリカラー鉛筆で線を引く。紙面への「ノリ」が良く、黒や茶のカラー鉛筆をくるくる回しながら引くと均一な細い線が描ける。当時、「課長」のもとに「担当」（係長）と呼ばれる補佐役がおり、新人の教育指導も行っていた。

2年生のとき隣の課には、出江さんがおられた。図面の中に記される「文字」へのこだわりもすごく、定規を使って、不揃いの無い文字書きを指導する鬼軍曹であった。このように私たち新人は、線の引き方、パースの描き方など先輩の上手な技を見よう見真似で習得にこれ努めていたのである。

3）伝えたい言葉



さて、ここに2冊の小さなブックがある。いずれも80×130のサイズでともに5ミリ厚のポケット版。1冊は1993年、私の上司でもあった山中孔さんと当時の情報センターの皆さんが編集された「言葉集」である。設計部長時代、「設計に緑」を提唱されたため、グリーンカバーで80のコメントが収まっている。

元部下や若い人々に伝えたい言葉を選ばれ関係者にサインをして配られた。因みに、表題は「noblesse oblige」＝貴族たるものはそれにふさわしいふるまいをすべきである。＝能力のあるものはやらねばならない義務がある。と説いて部員のとるべき道を示された。

「魅力ある設計」「明るくのびのびへこたれず」「設計に緑を」…特にこの5文字「設計に緑を」は1971以来、設計部の原図に印字されている。「建築に緑を」「都市に緑を」「心に緑を」という指針になったのである。翌1974年、毛利さんもKOTOBA集を出された。この二葉の冊子に岩本大先輩の名言が多く収録されている。

◎「要求される機能や構造、法規などの条件を秩序立てて整理し、それをできるだけシンプルな形に表現することや！」
（＝へ理屈言うな、すっと自然に見えるのがええんや。）

◎「折り目正しいやり方、これが部の伝統や。普段は無茶苦茶やっても節目節目はきちっときめんとあかん！」
（＝建築する時は 礼儀がいる、秩序がいる、道徳もいる。）

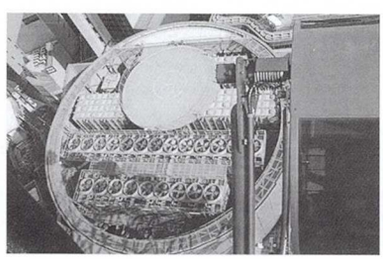
◎「見えへんとこやからいうて、手を抜いたらあかん。すずめやからすが見てるやんか！」
（＝裏の無い建物を建てるよう設計せえ。）

この項については、故竹中会長も1985年九州で、こう言われた。「建築はテーブルセンターと同じです。どの方向から、またどの高さから見られても、欠陥の無いものを創らなければなりません。」

その他いろいろ叱られ、指導いただいたけれど、最後にもう一言。

「できん、できんは、やる気が無いからや！」

（岩本 博行）



HEP FIVE
観覧車から見下ろす塔屋の中身
苦労して設備機器を納めている

研究を最線追う前

1 大阪の暑さを追う

地域環境計画研究室
大阪市立大学工学部環境都市工学科

環境都市工学科は、大阪市立大学大学院工学研究科の10番目の学科として平成11年に誕生した。この学科には、都市計画・地域環境計画・水域環境工学・リサイクル工学の４つの分野がある。われわれの地域環境計画分野では、建築環境工学の熱を中心とする研究蓄積をもとに、21世紀の都市や地域の環境を考えていくつもりであるが、３年目の学科でまだこれといった実績が少ないため、現在進めている研究テーマをご紹介したい。

大阪の熱帯夜

大阪の夏の暑さは驚異的で、大阪の熱帯夜の日数は関西では群を抜き、九州の都市でも大阪を凌ぐのは鹿児島のみである。その原因として、大阪周辺の地形やヒートアイランド現象が考えられ、現在「拡張アメダス気象データ」などにより日本各地の熱帯夜について調べている。今年は熱帯夜デグリデーや熱帯夜強度などの指標を提案した報告を行い、現在は、熱帯夜での風環境の分析を行っている。将来は、大阪の夏を涼しくする方法がないか探りたい。

保水性舗装材による都市環境改善

都市表面のほとんどが人工材料で被覆され、水分がないため砂漠に例えられるが、表面が土や植物・水で覆われて潤いがあれば、日射は水分蒸発に費やされ、表面から内部に蓄熱されるものは少ないと思われる。都市の温暖化の特徴は明け方の日最低温度の上昇であるし、ヒートアイランド現象は都市表面の温度が郊外より高くなるためである。最近、開発が進んでいる透水性舗装材や保水性舗装材は水分蒸発により表面温度の上昇が抑えられる可能性があり、その効果について実測を行っているところである。

GISによる都市熱環境シミュレーション

都市表面の建造物による凹凸は、都市表面に入射する日射量や都市表面から外部への放射に、独特の効果を与えている。すなわち、都市表面の凹凸が入射する日射の一部を遮蔽し、天空の一部を隠し、都市表面での相互反射を生じている。これらを考慮した熱環境シミュレーションのためにGIS（地理情報システム）などを利用して、都市特有の日射環境の解明を続けている。これを建築の学界で培われた伝熱シミュレーションの手法と大量の気象データとを組み合わせて、この熱環境シミュレーションを実現したいと考えている。

太陽光利用のための最適傾斜角

地球温暖化や化石エネルギー枯渇への対策として、新エネルギーに注目が集まっているが、これは都市環境の改善にも役立ち、とりわけ太陽光発電の実現がもっとも早いと期待されている。

工学研究科では平成７年度よりオセアニアからの研修生（毎年５名程度）を受け入れて、３カ月のJICA研修「大洋州地域・太陽エネルギーの発電技術及び利用技術」を実施している。電気系・化学系・機械系の学科の10名程度の教員と協力して講義・演習、企業での見学と演習で実施されるが、当研究室では各地の日射環境と太陽電池パネルに入射する日射量予測に関する講義・演習を担当している。研修生の基礎的な理解のための教材づくりから始めたが、太陽の動きに関するCGアニメやEXCELによる「日影図」、「日の出・日の入り時刻」、「快晴時の各面の日射受熱量」を知るツールを開発し、さらにWEADAC（鹿児島大学開発）を利用して「世界各地での太陽光利用のための最適傾斜角」を知ることもできるようにした。これらの成果を日本にも適用して全国842地点での系統連係型と独立型のための最適傾斜角を求め、ホームページ上で公開しているが、日本では山梨県と長野県が太陽光利用にもっとも向いていることがわかり、思わぬ結果に驚かされた。



最適傾斜角での年平均日射受熱量

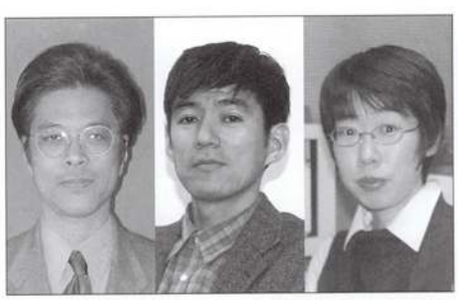
拡張アメダス気象データの開発

建築や都市の熱環境解析には、多くの地点での大量の気象データが不可欠である。気象台での地上気象観測では、様々な気象要素が観測されているが、地点数が少ない。アメダス観測網による気象要素は気温・日照時間・風向風速・降水量に限られるが、全国842地点で20km四方に１地点の割合で配置されている。このアメダスデータをもとに、他大学の研究者と協力して欠測値を補充し、不足する気象要素を推定して、15年分をCD-ROM４枚に整備し出版したが、現在は５年ごとのデータ追加のための作業に入っている。この「拡張アメダス気象データ」を利用すれば、これまでになく多地点で統一された品質の気象データを用いることができ、建築や都市の熱環境解析にとどまらず、様々な分野での利用が期待される。

●研究室のひととき

・百人一首に関しては趣味のレベルを超えている三木先生、PCの画面を見つめる先生の目は輝いています。西岡先生はメカに強く、トラブルを解決してくれる頼もしい先生です。鍋島先生がたまに入れてくれるコーヒーはおいしいです。(学生談)

連絡先
大阪市住吉区杉本3-3-138
Phone：06-6605-2718～9
http://www.urban.eng.osaka-cu.ac.jp/~area/


三木信博教授　西岡真稔講師　鍋島美奈子助手

●研究スタッフ

三木信博／1950年生まれ
・専攻／地域環境と気象
・著書／共著に「拡張アメダス気象データ」「住宅のパッシブクーリング」

西岡真稔／1961年生まれ
・専攻／都市のヒートアイランド
・博士論文／都市キャノピーにおける建築からの放散熱とその影響に関する研究

鍋島美奈子／1971年生まれ
・専攻／都市のエネルギー消費
・博士論文／設計用基礎資料策定に関わる統計解析手法の研究

～現代そして近未来の建築・環境を考えるために～

「文化遺産としてのモダニズム建築関西展」を企画して

松隈　章
同展実行委員・本会事業委員／竹中工務店

9月8日から10月14日まで約1ヶ月間、芦屋市立美術博物館において、「文化遺産としてのモダニズム建築展in芦屋」関西のモダニズム建築20選が開催された。これは、近畿2府4県に1920年代から1960年代に建設され現存するモダニズム建築20作品について、その竣工当時の写真と図面・資料・模型でそれらの「過去」を、そしてこの展覧会に合せて2人の写真家によって撮りおろされた写真と新たに製作された模型でそれらの「現在」を提示することによって、歴史と地域性豊かな関西におけるモダニズム建築の拡がりを広く紹介することを意図するものだった。さらに展覧会にあわせて、藤森照信氏の講演会、大阪ガスビルでのシンポジウム、「浦邸」と「聴竹居」の見学会等も開催した。ここでは、これら一連の企画に最初から最後まで関わった実行委員のひとりとして、経過とその意味について述べてみたい。

関西展開催の気運と実行委員会の立上げ

そもそものきっかけは、昨年の1月から10月にかけて、鎌倉の神奈川県立近代美術館をかわきりに北九州市立美術館、高崎市立美術館と巡回された「文化遺産としてのモダニズム建築展DOCOMOMO20選」を、関西でも巡回しようというという発想だった。その動きは鎌倉展の実行委員会の中心をなした日本建築家協会（JIA）からの要請で動き出していた同近畿支部と日本建築協会からほぼ同時に始まり、それらを合体させた関西展実行委員会準備会という形で、昨年5月23日第1回目の会合を持ち、展覧会準備はスタートした。準備会では、当初からDOCOMOMO20選には関西からは「住友ビル」と「聴竹居」のふたつしか選定されていなく、関西で巡回するには物足りないので、いくつかの建物を追加して展示するべきとの意見が出ていた。その後、議論を深めるうちに、全国巡回展とは別に関西独自の展覧会を同時に開催しようという話に発展した。そして、関西展実行委員会は、委員長に安藤忠雄氏を起用、メンバーは日本建築学会と日本建築家協会各々の近畿支部と日本建築協会の3団体有志により構成され、事務局を日本建築協会内に置き昨年11月、発足した。

ふたつの関西展～神戸展と芦屋展～開催へ

展覧会の開催場所として各地の美術館に打診したところ、巡回展「DOCOMOMO20選展」を阪神大震災からの復興を記念して2001年春から秋にかけて開かれる神戸市主催の「神戸21世紀・復興記念事業　ひと・まち・みらい」の「すまいまちづくりフェアー」行事の一環として神戸市立博物館（今年の6月2日から7月8日まで開催）で、そして、関西独自の「関西のモダニズム建築展」を1997年に「阪神間モダニズム展」を開催し建築を含むモダニズム展の実績のある芦屋市立美術博物館で実施する事が決定した。

歴史家による関西のモダニズム建築20作品の選定

関西のモダニズム建築の選定は、実行委員会で検討し、あえて建築家をその選定メンバーに組み込まない事としたうえで、石田潤一郎主査をはじめとする日本建築学会近畿支部近代建築部会にお願いした。そのよしあしは色々と議論のある所ではあるが、結果として選定の公平性、独自性を保つ事が出来たのではないかと考えている。その選定は、近い将来ドコモモ・ジャパンの活動として予定されている20選を100選まで増やしていく作業に連動させることを念頭に、DOCOMOMO20選定方法にならった形で昨年末まで進められた。その経過については、展覧会開催と同時に発行された図録「関西のモダニズム建築20選」のために行われた座談会記事にくわしく報告されているのでそちらを参照されたい。

「モダニズム建築」の現在を切りとる～ふたりの写真家による撮りおろし～

長いもので約70余年、短いものでも約30余年生き続けてきたモダニズム建築。それらの現在を撮りおろすのにあたって実行委員会としてこだわったのは、そのまさに「生きざま」だった。それをとらえる写真家としては、あえて「建築写真家ではない」写真家にお願いした。公的な美術館という一般の方々に開かれた展覧会において、現代の様相としての建築のある風景を表現するにはその方が好ましいと考えたからである。そして、図録の出版社とキュレーターのネットワークによってふたりの写真家、築地仁、鈴木理策両氏が起用された。建物のディテールに迫りそのリアリティを鋭く抉る築地仁氏と、人物のスナップを撮るように、その場の明るくからっとした空気感が特徴的な鈴木理策氏。それぞれ10作品ずつ撮りおろされた写真には、モダニズム建築の放つ今までにない魅力が十二分にとらえられている。従来の「建築写真」とは異なったその表現に賛否はあるのは当然の事と思うが、「現在を切りとる」ということにおいては、新たな世界を開いてくれたと言える。





ふたつの関西展の風景

ふたつの関西展を２ヶ月間隔を空けて、神戸市と芦屋市で開催した。

神戸展は、「ドコモモ20選展」を目的に来場された方も多かったが、同時に開催された「北京故宮博物院　黄金の至宝展」への来場者数約５万人のうちのかなりの方が「ドコモモ20選展」へ流れた。その結果、期せずして多くの市民の方々が、日本各地にあるモダニズム建築の魅力をその写真と図面・模型から感じ取って頂ける機会となった。震災からの復興を記念する行事の一環として、一瞬にして歴史ある風景を失った経験をもつ市民が建築や環境の大切さをふたたび考えるきっかけを与える建築展を神戸で開いた。その意義は大きいと思う。

一方芦屋展は、芦屋市立美術博物館として初めての「建築展」となった。会期中、通常の企画展と遜色のない約4400名近くの入場者が訪れた。館関係者にうかがうと、建築を学ぶ多くの学生が初めてこの館を訪れ、美術展にくらべ滞在時間が長く、かつ、とても熱心に鑑賞、メモする姿が目につき好感をもったとのことである。芦屋展でのアンケートからいくつかを拾いだし分類・整理してみる。

＜20選の建物に関係のある人々＞

・建築20選で、亡夫が働いていた。懐かしく思い出した（60代主婦）。
・素晴らしい建物で働いている実感がわいた（20代京都国際会館勤務の女性）。

＜身近な建物を再認識した人々＞

・まだまだ見るべき建物が多いのはうれしい（30代主婦）。
・身近な阪神間の建物に共感（30代主婦）。
・知っている建物ばかりで身近に感じた。（50代主婦）。
・貿易センタービルへ行ってみたくなった（20代OL）。

＜今後の活動を期待する方々＞

・見学会をしてほしい（50代大学教師）。
・20選に漏れた建物の展覧会もやって欲しい。

＜その他＞

・建設当時のビデオと写真の対比がよかった。（20代女子大生）
・この建物自体おもしろい（高校２年）。
・「人間のための空間」を感じさせる（20代女子大生）。
・モダニズムの定義がわからない（60代男性）。
・生き生きした線の図面はとても良かった（50代建築家）。

現代・近未来の建築・環境を考えるための生きたテキスト

20世紀は「モダニズム建築」を生んだ世紀である。そして、21世紀を迎えた今年開催した「ドコモモ20選展」は世界的動きに通じる「“日本の”モダニズム建築の位置付け」を、そして「関西のモダニズム建築20選展」は、「“身近にある”モダニズム建築の素晴らしさ」を提示することができたのではないかと思う。モダニズム建築は、神社仏閣や町屋を中心とした古建築、そして赤レンガの建物をはじめとする明治以降昭和の初めまでに建てられた様式主義の建築とは異なり、現代建築とそれほど違わない形態とそのシンプルなデザインがゆえに、その良さが一般の方のみならず建築専門家にも理解されにくい。更にその成り立ちが機能重視の建物であるため、近年それが満たされなくなって次々と壊されていっている。

ドコモモの活動には選定という過程があるため、どうしても「選定基準の厳密な定義」の議論が噴出する。しかし、議論している間にも、どんどんモダニズム建築は失われていく。藤森照信氏の「定義も大切だがそれ以上に、今はどんどん選んでそれをそしてその魅力を提示し、安易に失われていくのを防いでいくことが先決」、東孝光氏の「和歌集のように選者をはっきりとした上で、色々な○○選を提示し議論することが重要」との言葉は我々に今後の行動の方向性を示唆してくれる。

建築専門家と一般の市民が「モダニズム建築の生き様」をテキストとしてそれらにじっくりと対峙していくことは、現代建築の数十年後のあり方、そして現代建築の作られかたやそれを生み出す社会や環境を考える重要な創造行為と言えるのではないだろうか。

今回の展覧会がきっかけとなって、日本の各地域で「関西のモダニズム建築20選」と同じような動きが始まり、市民の間で地域と建築・環境の論議が広がっていくことを期待したい。

最後に、ふたつの関西展開催にあたってご協力いただいた関係各位、そしてご後援・ご協賛いただいた企業や団体に心から御礼申し上げたい。　＊２つの行事について簡単に報告する。

藤森照信氏「関西のモダニズム建築探険」講演会

展覧会オープニングの９月８日の夜、芦屋市にあるルナ・ホールにおいて、「関西のモダニズム建築探険」をテーマに歴史家・藤森照信氏の講演会を約400名の聴衆を集め開催した。20作品についての「建築探険」を期待していたのだが、世界的に注目すべきということで、ライトの「旧山邑邸・ヨドコウ迎賓館」と本野精吾の「自邸」の２つについて、スライドとホワイトボードでのスケッチを交えた大変興味深いお話があり、あっという間の２時間あまりだった。要約すると前者はライトのゴツゴツ？スタイルの最初の例（日本でこの旧山邑邸にはじまって、アメリカ西海岸で同じスタイルの住宅を展開した）として貴重であり、後者は当時、社会に受け入れられなかったコンクリートの生の表現や幾何学的秩序による外観等の先進性に高い価値があるというお話だった。建築家の意図を越えたものを見つけ出すべく建物を見、それを越えられた時には勝った、そうでなかった時には負けたという姿勢を持ち続けている歴史家、そして建築家・藤森照信氏ならではの「建築探険」である。真摯に建築に対峙するその姿勢に見習うべきものを感じた。



藤井厚二「聴竹居」見学会

９月15日土曜日の午後、280名を越える全国の応募者の中から抽選で選ばれた45名の参加者を対象に藤井厚二「聴竹居」見学会を開催した。45名を15人ずつ３班に分け、現在の借主であるインテリアデザイナーの高橋功氏と実測を担当した竹中工務店のメンバーによる解説実施した。　（まつくま　あきら）

文化遺産としてのモダニズム建築関西展記念シンポジウム

「関西のモダニズム建築を語る」

米井　寛
同実行委員・本会事業委員／東畑建築事務所

芦屋市美術博物館で開催された「文化遺産としてのモダニズム建築展」in芦屋ー関西のモダニズム20選ーにあわせて、大阪ガスビルで記念シンポジウムが開催された。関西のモダニズム20選（以下、関西20選）の選定をとりまとめた建築史家・石田潤一郎氏、関西20選のひとつ「旧枚岡市庁舎」の設計を坂倉建築研究所時代に担当した建築家・東孝光氏を迎え、コーディネーターを安井建築設計事務所の佐野吉彦社長にお引き受けいただいた。

大阪ガスビルは、関西20選にも選ばれた建築家安井武雄の代表作のひとつであり、御堂筋の景観になくてはならない建物である。このガスビルに会場を設定することができたこともあってか、当日は、定員一杯の約250名の参加者を迎えることができた。

関西20選について

初めに、石田潤一郎氏が講演し、関西20選の選定の経緯と個々の作品の紹介があった。全国版のDOCOMOMO20選に選ばれた関西の建築は様式主義的な「住友ビルディング」と個人住宅である「聴竹居」の2件しかなく、一般的なモダニズム建築とは異なるであろうことから、関西独自の20選を選ぶ意義がある。また、地域性やクライアントの気質の違いを反映した関西のモダニズム建築の固有性を明らかにすると同時に、最近雑誌等でモダンデザインがとりあげられる機会も多く一般の人のモダニズム建築への関心が高まっているものの、その価値はまだまだ理解されておらず、20選の選定や展覧会等により認識の高まりを期待したといった主旨が述べられた。

続いて関西20選の解説が行われた。それぞれの多様な表現の中に、合理主義、抽象性、といったモダニズム建築として共有できる要素はあるものの、例えば、モダニズム黎明期の「旧山邑邸」の装飾的細部、「辰馬本家酒造白鹿館」の表現主義を思わせる内部空間、戦後にあっては、「京都会館」の京都らしさへの応答としての庇の表現、「大和文華館」の和風のなまこ壁とモダニズムの精神との折衷的表現などに、モダニズム建築の幅の広さを知るとともに、関西の風土に根ざした固有の表現を理解することができた。

モダニズムの現場から

次に東孝光氏の講演。東氏は、郵政省建築部を経て坂倉順三建築研究所に入所し、そこで担当したのがダイナミックな庇が特徴的な旧枚岡市庁舎（現東大阪市旭町庁舎）である。当時、坂倉順三から、コルビュジエ流の壁を柱から独立させて立てる平面構成のルールを指導されたことや、モデュロールに則って寸法体系が決定されたことなどが話された。

また、坂倉が市議会でのプレゼンテーションの場で、「私は枚岡市民になったつもりでこの計画をまとめました」と述べて満場の拍手を浴びたというエピソードは、ひとりのパトロンではなく市民レベルのコンセンサスによって建築が成立するというモダニズムのひとつの側面を示しているともいえよう。

この庁舎は、現在東大阪市の旭町庁舎として利用されているが、内部の機能は更新されながらも熱心な管理担当者によって良好な状態が保たれているという。これも、建築家の手を離れてから建築が生きつづけるためのひとつの条件を示唆している。

石田氏が関西のモダニズム建築を概観しつつその水平的な広がりを示し、一方、東氏がモダニズム建築の生成の現場を深く掘り下げるようなかたちで前半の講演が終了した。

関西らしさを巡って

後半の討論では、関西のモダニズム建築の特質、すなわち「関西らしさ」の分析を中心に議論が進められた。関西の建築家はよきパトロンに恵まれていたと言われるが、クライアントの文化的な素養や美意識に建築家が直接向き合って仕事をするような関係があったと同時に、実利的でお題目を信頼しないような風土があり、東京における前川國男やレーモンドのような理論的牽引者が現れず、むしろ「イズム」から距離を置いた村野藤吾氏などが評価されたという状況が生まれた。しかし、よきパトロンとの蜜月関係は、建築家の目を市民から遠ざけることにもなる。「一般市民に呼びかけてその反応をもとにものをつくりあげていく力が関西では弱い」という東氏の指摘は関西の今後を考える上で重要である。

クライアントがパトロンとしての個人から組織に移行するにつれて設計体制も組織化され、建設会社の設計部門や官庁の営繕部門などの活躍が目立つのも関西の特徴である。このことは関西20選の中にこれらの組織による作品が多いことからも理解される。

石田氏は、「関西20選はベスト20ではない、モダニズム建築の様々な表現や価値を知ってもらう機会になればいい」と述べ、選外となった小品なども紹介された。東氏は、「私の20選、なくなってほしい20選もあっていい」と言い、「このような機会を通して、専門家だけでなく一般の人々が建築を使いながら残していくことの価値を共有できる市民社会を目指したい」と締めくくった。

都市の中に埋没しがちであったモダニズム建築の価値を再認識し、また、市民ひとりひとりがどうすれば建築と親密に付き合うことができ、建築の価値を社会化することができるかといった課題が提起されたようなシンポジウムであった。

最後に、シンポジウム開催にご協力いただいた各位、特に会場を提供していただいた大阪ガス株式会社の関係者の方々に心からお礼を申し上げたい。

（よねい　ゆたか）



旧枚岡市庁舎

－「浦邸」見学会報告－

一体化した住まいと生活の風景

松隈　洋
京都工芸繊維大学助教授

「浦邸」の持つ求心力

「浦邸」は、20世紀を代表する建築家ル・コルビュジエに学んだ吉阪隆正が帰国後、自邸に続いて手がけた住宅であり、同じくフランス政府給付留学生として、フランスで吉阪に出会った浦太郎氏が設計を依頼し、戦後まもない1956年に兵庫県の夙川に完成した。以来、現在にいたるまでの45年間、大切に住まわれ続けている。この住宅は、吉阪の初期を代表する建築であり、彼の晩年に師事した齋藤祐子さんの著作『吉阪隆正の方法－浦邸1956』（住まいの図書館出版局）によって、すでによく知られた存在だった。

そうしたこともあってか、小さな案内を建築関係の雑誌に掲載しただけにもかかわらず、東京や千葉、金沢といった遠方から140を越えるたくさんの応募者があり、事務局はうれしい悲鳴をあげた。あらためてこの住宅もつ求心力を思い知らされつつ、心苦しくも、予定通り、抽選によって定員の20名に絞らざるを得なかった。

“吉阪建築”の原型

こうして、快晴に恵まれた中で行われた見学会の参加者は、ほぼメンバー全員が、吉阪建築や「浦邸」の熱烈なファンばかりであり、なかには清楚な和服姿の方もおられて、終始なごやかな雰囲気に包まれていた。

また、解説者として、この日のためにわざわざ東京からかけつけて下さった齋藤祐子さんも、ご自身が接した生前の吉阪の建築に対する姿勢を共感をもって語られ、この住宅に試みられた方法をわかりやすく説明して下さった。ことに、吉阪は、「住宅は都市と個人のプライベートな生活とをつなぐものである」と考え、浦邸の1階のピロティも、町へと提供されたパブリックなスペースとして提案した、とのお話は、その後の吉阪の建築へと続くテーマがすでに原型として表現されていると思えた。

そして、浦御夫妻も、吉阪との共同作業によってこの住宅をつくられたこと、完成後も長い時間をかけて住みこなし、吉阪亡き後も彼の精神を守り続けてこられたことを、貴重な資料や竣工当時の写真などを前に静かに話してくださった。拝見したアルバムの中には、1995年の阪神大震災直後の荒れた室内を写したものもあったが、きちんとした設計と施工によって、建物はほぼ無傷のまま御夫妻の命を守ったという。

現在の「浦邸」のみずみずしい姿は、こうしたエピソードに支えられてあることが実感できたひとときだった。

「住宅とは何か、生活とは何か」を問う存在

ところで、この見学会は、主催したわたしたち実行委員会の側にも深い印象と余韻を残した。それは、この催しだけでなく、展覧会に展示した浦邸の模型の製作など一連の企画は、住まい手である浦太郎、美輪子ご夫妻のホスピタリティ、人を気持ちよく迎え入れようとする心遣い、に支えられてはじめて実現できたものであり、そのこと自体が、ご夫妻の生きかたとこの住宅のかけがえのない歴史を伝えている、とあらためて思われたからだ。

「関西のモダニズム建築20選」に「浦邸」が選ばれたとき、実行委員会では、ぜひ模型を製作しようということになった。現に住まわれている住宅は、誰もが近づける公共的な施設や都市的な建物のように、なかなかその空間を味わうことはむずかしい。せめて模型によって再現しよう、という提案だった。

たまたま、その仕事がわたしの研究室の担当となったため、突然のご無理なお願いをして、模型の実地検分と称して学生たちを連れて訪問させていただいた。プライベートな空間にまったくの他人が足を踏み入れることの失礼を感じたのはいうまでもない。けれども、そのこと以上にあとから気づかされたのは、さりげなく見える住まい方の美しさ、そこここに漂う気持ちよい雰囲気が、実は、ご夫妻がかなりのエネルギーをかけて端正にしつらえられて生まれている、ということだった。

大袈裟かもしれないけれど、めまぐるしく動いてきた戦後の日本の中で、半世紀近くも、原型を保ちながらいきいきとした住まいであり続けていること、それは、稀有なできごとではないだろうか。そこには、自律した家族が生活を楽しむ、という風景があたり前のように展開されている。

「浦邸」は、現在のわたしたちにとって、住宅とは何か、生活とは何か、を深く問いかけてくる存在であり、そこから発信されているのは、建築と暮らしが一体となって年月を重ねることの喜びのメッセージなのだと思う。

（まつくま　ひろし）



「浦邸」見学会

まちなみ見学会・第6回

― 近江商人発祥のまち・五個荘町 ―

小笹光彦
ランテック計画事務所

ＪＲ能登川駅からバスに乗り、現地に向かう。駅前の閑静な能登川のまちなかを過ぎると、やがて湖東平野の田園風景が一面に広がる。その田園のかなたに低く甍を連ねた五個荘町が見えてきた。

平成13年11月17日（土）に開催された「まちなみ見学会」は、「京都・西陣」につぐ第6回であり、近江商人発祥の地として有名な五個荘町を訪れた。

当日は、午後1時半に「てんびんの里文化学習センター」に集合し、約30分余りの説明を受けた後、2時ごろから約2時間の予定でまちなかを見学、散策した。

五個荘町と金堂地区

「てんびんの里文化学習センター」のAVルームにて、近江商人博物館学芸員の林純氏（五個荘町教育委員会生涯学習課課長補佐）から、まちの概要やまちづくりへの取り組みについて解説を受けた。

五個荘町は琵琶湖の東、古くからの中山道に沿い、湖東平野のほぼ中央に位置する、古代条里制地割に基づいた穀倉地帯である。

集落発生の基礎は、江戸時代前期の元禄6年（1693年）に大和郡山藩の領地となり、柳沢吉保が金堂地区に藩の出先機関として陣屋を置いたのがその始まりである。その周辺に弘誓寺、勝徳寺、浄栄寺等の寺院が建立され、それを取り巻いて農家が集まり、集落の東端に大城神社がある湖東の典型的な農村集落が形成された。

幕末、明治、大正、昭和の戦前にかけて、幾多の近江商人を輩出したが、彼らはてんびん棒を担って全国津々浦々を渡り歩いた。成功すれば京都、大阪、東京に店を構えたが、彼らは決して郷里を離れず、金堂地区の中心部に意匠を凝らした和風建築の本宅をつくり、終生、百姓を自称し続けた。

地区内には琵琶湖が近いこともあって、水が豊富で、愛知川から取り入れた農業用水路が縦横に走り、周辺の水田景観と見事に調和している。この美しい歴史的景観が、平成10年に農村集落として、全国で50番目に伝建地区の選定を受けた。

保存地区内の建築は、幕末のものも若干残っているが、その多くは明治から昭和初期のものである。また、宅地の規模は商人本宅では500～2,000㎡という広大さで、立派な庭園を有しているものが多いこともその特徴である。

町の規模はほぼ4 km四方で、人口は一時減少気味であったが、近年は12,000人弱で安定している。まちづくりに対して「近江商人発祥のまち」をテーマに掲げ、家屋の保存とまちなみの整備に意欲的である。なお、将来的には安土町、能登川町などとの合併の話もあり、町名がなくなることもありうるというので、町のアイデンティティをより一層高めるための町行政に力を入れているとのことである。

金堂地区を中心としたまちづくり

伝建で選定を受けた金堂地区を中心としながらも、他にも川並、宮荘、竜田、小幡など個性ある地区があり、町全体が一体となりまちづくりに取り組んでいるとのこと。

金堂地区のまちなみは早くから注目されていた。明治40年、当時の内務省地方局が「田園都市と日本人」という冊子のなかで、「金堂」や「川並」などが「田園都市の理想」として、すでに報告されている。また、昭和46年ごろにこの地を訪れた司馬遼太郎氏が「街道をゆく（24）」のなかで、日野町と一緒に五個荘町を紹介したことにより、広く一般に知られるところとなった。

住民や町行政もようやく保存の意義を認識しはじめ、昭和56年に保存対策調査を開始した。その後、街路、水路などの整備事業は進展したが、バブル期の影響などもあり、建造物の保存活動は一時低迷した。

昭和60年代に入り、地区内に似つかわしくないプレハブ構造住宅への改築、改修が多くなり、また地区内の商人屋敷が次々と空き家化し、荒廃し始めた。これらのことに地区の有力者たちが大きな危機感を持ち、行政への働きかけが高まっていった。保存事業が再び軌道に乗るのは、住民側からの強い要請がその原動力となったのだ。この事業は“歴史的にすぐれた町をどのように活性化し、住みよい町に育てていくか”がその原点であり、いくら規制をかけたところで、そこに住民の声の一致や豊かな日常生活がなければ、ほとんど意味がない。

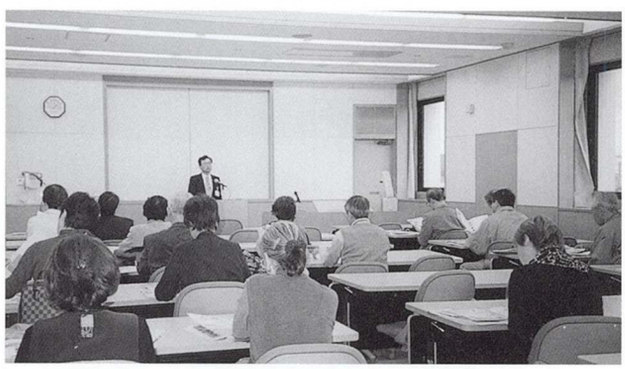
実際のところは、当初からすべての住民が賛成したわけではなかった。特に若い世代については「暗い、寒い、低い、不便、そして陰気臭い」と伝統家屋にかなり強い反発があった。ところが歳月をかけてじっくり議論を重ねていくうちに、彼らも40代、50代となり、プレハブより、落ち着きのある、人にも注目され、ちょっと自慢のできる和風建築を好むように、少しずつ変化してきた。

林氏は、「まちづくりとは家づくりではなく人づくりであり、まちなみを残すということは時間をかけて人を育てることである」ことが、最近ようやく分かり始めてきたとのことである。

金堂地区をゆく

「てんびんの里文化学習センター」を出て、金堂地区へと向かった。晩秋の近江路は曇天で、時折冷たい秋雨がパラつくあいにくの天気であったが、参加者の熱意のためか、まもなく雨もあがった。見学に際しては林氏が案内役となり、現地を見ながら懇切な解説があった。

地区内は基本的には条里制の影響が残っているためか、街路が格子状を構成していて、そのスパンは約1町（109 m）であるとのこと。道は狭いが、おのおのが水路に面しているところが多く、空間的にはかなりの広がりを感じる。特に車があまり通らないのは好ましい。このために、町では地区外に大きな駐車場を数カ所整備し、観光客の車の地区内進入を防ぐ施策をとっている。



林　純氏から五個荘町のまちづくりへの取り組みを聞く

水路には清冽な水が流れ、錦鯉が泳ぎ、水生植物をあしらっている。護岸は昔のままの切石積みや野面石積みが多く、落ち着いた雰囲気を醸し出している。所々に路面より一段低く切石の板石が据えられており、日常の生活に川水を利用しているとのことである。これを地元では、「川戸あるいは洗戸」と称している。

歴史的なまちなみといえば、一般に門前町や宿場町を思い浮かべ、同じタイプの家屋が整然と並ぶ景観を連想しがちであるが、ここでは違う。建てられた時代が異なることと建主の好みが違うためか、一見して様々である。個性豊かで、バリエーションに富んでいるのが、金堂地区の特徴でもある。しかし、よく見ると白壁と蔵屋敷と舟板壁などで統一されている。変化と統一の妙といえるのかもしれない。さらに面白いのは、広大な商人屋敷と、小ぢんまりとした農家住宅のアンバランスである。それだけに、条例などで同じ意匠、同じパターンでは縛りにくいむずかしさがあるらしい。

船板塀はこの地方特有のものである。琵琶湖などで使い古した和船の船板を利用したもので、独特の味わいがあるが、大変高くつくらしい。今でいうリサイクルというよりも、デザインの面白さを楽しむという贅沢な美意識の趣味の世界なのであろう。

ちょっとした町角や辻にも大正時代的なロマンを感じる素敵な町である。すでに失われてしまったまちなかの原風景が懐かしくよみがえり、住民の文化度の高さが伝わってくる。

●旧外村宇兵衛家

近江商人として活躍していた外村一族の一家。主に呉服類の販売を中心として商圏を広げ、明治時代には全国長者番付けに常連として名を連ねた。屋敷は主屋、書院、米蔵、雑蔵など十数棟があり、庭は作庭当時、神崎郡内随一の名庭であったとか。しかし、残念ながらその半分以上が取り壊され、往時の姿を損じていたが、町が明治期の姿に修復して伝統家屋博物館としたものである。

●旧外村繁家

外村宇兵衛の分家。外村繁文学館として公開。外村繁は三男として生まれたが、跡取りとなり、東京を中心に呉服木綿問屋として活躍。若くして弟に家業を譲り、文学の道に入る。昭和13年に東京に住まいを移し、太宰治、井伏鱒二ら文士仲間とともに精力的に作家活動を行った。近江商人の根源を赤裸々に綴った私小説作家として、近年特に評価が高まってきている。司馬遼太郎の五個荘町の紹介は、この旧外村繁家が中心に描かれている。

なお、ここで近江商人屋敷館長・廣瀬彌三郎氏より商人屋敷の普請やその知恵について、楽しい解説があった。

●旧中江正次郎邸

「あきんど大正館」として公開。明治38年に発足した三中井呉服店は昭和９年に三中井百貨店に発展。戦前の最盛期には海外も含めて、20余店舗を擁する大百貨店として隆盛を誇ったが、終戦とともに衰退。

本館では小幡人形を展示していた。小幡人形は伏見人形の流れをくむ滋賀県唯一の郷土民芸玩具。江戸時代から作り続けられている全国の土人形をあわせて展示。現在はわずか一人で、注文生産のみとのこと。



近江商人屋敷にて全員集合

「近江商人」輩出の背景

近江商人の郷里として、近江八幡、日野、五個荘が挙げられるが、その活躍時期やスタイルは少しずつ違う。

江戸時代の初期に発生した八幡商人。その100年後の享保のころに活躍した日野商人。さらに遅れること100年、江戸後期から戦前にかけては五個荘商人が多く輩出した。後発の五個荘商人の苦労は大きく、決して有利な立場ではなかったが、その活躍はめざましく、商人の数も多く、繊維販売を中心にあらゆる商品を扱い、全国に商圏を広げた。明治の産業界を絶えずリードし、企業家として時代を切り開き、戦後の企業の近代化の先鞭をつけた。

近江の国は古来恵まれた自然と立地条件に育まれ、独特の風土と文化を形成してきた。歴史の表舞台に立つことはあまりなかったが、絶えず奈良、京都という隣接する宮都の影響を強く受け、脇役としての位置を築きあげてきた。いってみれば、楽屋裏の役割を果たしてきたともいえる。それだけに歴史の表舞台で繰り広げられる華やかな政治、文化のエキスを培う土壌があったのであろう。文化人の往来や文化の情報に、近江商人は鋭く、敏感に反応したのであろう。

特に近江は水運の要、琵琶湖を擁し、東海道、中山道など東国や北陸に通ずる幹線道の分岐点にあり、京都、奈良、大坂の情報ばかりでなく、全国の動向がいち早く伝わったのであろう。また、古代において、とりわけ大化改新から白村江の戦にかけて、数多くの渡来人が近江に入ってきたという。近江人には、冒険好きの先祖の血が多く流れていることもあるのかもしれない。

さらにいえることは、近江人としての仲間意識の強さであろう。成功した先輩たちの事例にはこと欠かず、希望と夢を持ち続けられたこと。あるいは五個荘出身者ばかりでなく、広く近江人として人的交流、情報交換、資金援助など相互扶助の絆が強かったと思える。

教訓の一つに、「三方よし」という言葉がある。売り手によいのは当然ながら、買い手にとってもよいことが大切であり、さらに世間にもよいということを心掛けたらしい。社会的な意義を見出し、世の中に還元していくという精神が近江商人を育てあげてきたといえる。

現在の社会も、この精神に立ち帰らなければならないのではなかろうか。

（おざさ　みつひこ）

日　時／2001年11月17日（土）13：30～16：30
場　所／滋賀県神崎郡五個荘町金堂地区
説明者／林　　純（五個荘町教育委員会）
　　廣瀬彌三郎（近江商人屋敷館長）
司　会／松本　　剛（大阪府建築都市部・日本建築協会事業委員）
参加者／26人

第47回 工高生デザインコンクール

設計課題／ライブハウス

応募校数●30校　応募作品数●123点
締切日●平成13年９月28日　審査会●平成13年10月13日　表彰式●平成13年11月10日

審査総評

審査委員長　**吉羽逸郎**

場所の設定から、コンペの取り組みが始まる。
自分の住む街への熱い思いが審査員にも伝わってきた。それぞれの案に封じ込まれた場所への思いが建築を設計する上での基礎となる。
音楽、古典芸能、自然……さまざまなライブハウスへの夢が提案された。その中で、構想力、デザイン力、プレゼン力にすぐれた案が審査の過程で残ってゆく。結果的には三つ揃った案だけでなく、一つ飛び抜けた案も審査員の共感を得て選ばれた。
最優秀賞の**川村案**は、地域・社会との接点となるライブハウスの設定として、彼の住む四日市コンビナートに着目したこと、また透明性の高い空間の背景としてコンビナートを見せる構想は審査員一同に強くアピールした。光輝くプラントの中でのライブはきっと異次元の体験を与えてくれることだと思う。
優秀賞の**牧案**は、音を建築のデザインや空間造形にイメージ化することを試みていた案で、一定の成果を上げている。しかし、公園の中という設定であるので、壁に取りつけられた金・銀の棒はオーバーデザイン気味であり、もう少し空間としての開放性が欲しかった。
優秀賞の**田中案**は、総合的に完成度の高い案だった。ハツ橋状にプランされた建築とアプローチはすぐれているが、建築内部と川との関係が不足している点や、リベスキンド風の立面は少し気になるという意見もあった。
以下、入選案の**橘案**は、造形的なおもしろさと、らせん状のスロープを歩く浮遊する体験や、ステージを見おろすという発想が評価された。平面計画におけるデザイン的完成度がもう少し欲しかった。
山口案は、コンセプトと造形のユニークさで審査員にとって気にかかる作品であった。テントの羽化膜がコンセプトの意味を伝えうるのか、また、その内側の空間が生かされているのか等の疑問が残る。
深町・橋本案は、すぐに建ちそうな現実的な案である。建築としての仕上がりレベルは高く、よくまとまった案として評価された。目玉となるコンセプトが明確に出ていると、よりインパクトがあった。
石原案は、和と自然の共存により、地域性をコンセプトの中心にすえた案である。和風についてデザインや構造をもう少し研究して欲しい。
井上案は、大学病院にライブハウスを設けるという着眼点が審査員に評価された。また、建築計画もまとまっているが、ヒーリングの空間としては形、表現ともに堅すぎる感がいなめない。
城戸案は、ライブハウスに全く別の機能を付加した唯一の案であった。自然災害にまじめに取り組もうという姿勢は好感がもてる。しかし、水没しないように地盤を上げているが、レベル処理にもう一工夫欲しかった。
永戸案は、国道に沿ってリニアーに計画されたプランが魅力的である。舞台と客席を明解に思い切った案であるが、設計主旨の中でプランの考え方をキチッと述べて欲しかった。
敷地だけを取り出して図面化されている案が多かったが、建築は周辺を含めた環境と一体であるゆえに、建築の立つ場所をどう考えたのか、ということを伝えて欲しかった。
応募作品数123点の中から10作品が選ばれたわけであるが、一点一点見ていくと、チョットした違いが、結果として大きな違いになるのがコンペである。応募された皆さんの一層の精進を期待する。

●審査記録
10月１日　応募作品開封
10月９日　予備審査－応募作品について募集規定との検討
（工高生教育小委員会）
10月11日　事前審査－審査会欠席の審査委員１名による審査
10月12日　事前審査－審査会欠席の審査委員１名による審査
10月13日　審査会－審査委員12名（審査時間　13：50～18：10）

●審査経過
審査に先立ち、工高生教育小委員会より予備審査の結果、寸法、方位や図面等の記入漏れの作品が多いながら、失格となるような違反がみられなかった旨と、本年初めて、用紙が全く異なる作品が２点あり、取り扱いについては審査会に一任したいとの報告があった。続いて審査委員長より、審査方法・設計条件の内容などの確認を行い、審査に入る。

■１次審査（審査委員12名、事前審査２名）
全応募作品について、審査委員１名が10作品以内を選び、投票する。当日欠席の審査委員２名の事前審査の投票を加える。

得　票	10	8	7	6	5	4	3	2	1
作品数	2	2	1	2	3	5	6	5	21

＊得票２以上の26作品を１次審査通過とする。
また、得票１の作品について議論し、21作品中６作品を１次審査通過とする。　（審査時間　13：50～15：45）

■２次審査（審査委員12名）
１次審査通過の32作品について審査委員１名が６作品を選び、投票する。

得　票	12	9	8	6	4	3	2	1
作品数	1	1	1	2	2	3	2	10

＊得票２以上の12作品を２次審査通過とする。続いて得票１の10作品について議論し、３作品を２次審査通過とする。
＊２次審査通過の15作品について議論し、６得票以上を得た５作品を入選とした。　（審査時間　15：45～17：20）

■３次審査（審査委員12名）
２次審査通過の15作品のうち、先に入選とした５作品を除く10作品について審査委員１名が３作品を選び、投票する。

得　票	6	5	4	3	2	1
作品数	1	2	2	3	1	1

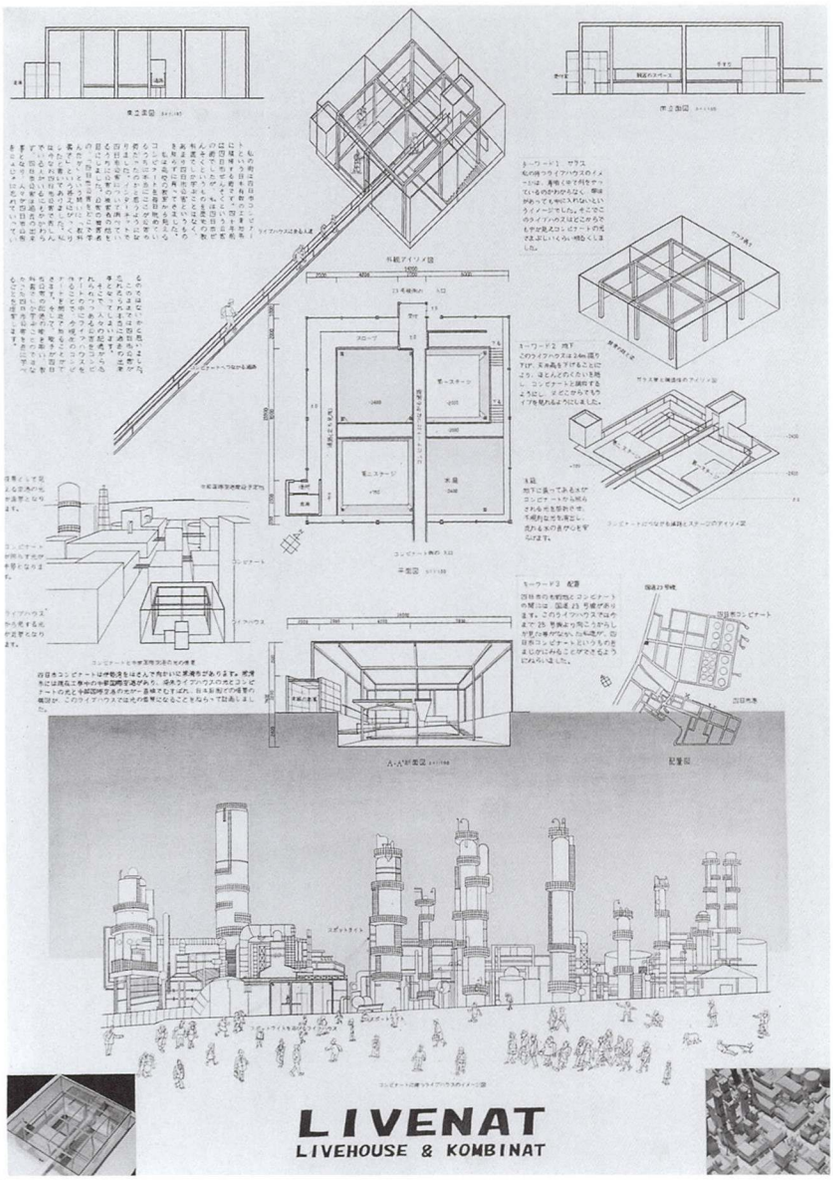
＊得票５以上の３作品を入選とする。
（審査時間　17：20～17：40）

■４次審査（審査委員12名）
残り２点の入選作品を選定するため、３次審査で３，４得票を得た５作品について議論を集中。その結果、審査委員１名が２作品を選び、挙手によって上位２作品を入選とした。
（審査時間　17：50～18：00）

■５次審査（審査委員12名）
入選10作品のうち、常に高得点を得てきた作品から、議論により最優秀１点、優秀２点を決定し、審査会を終了する。
（審査時間　18：00～18：10）

●審査員（50音順・敬称略）
委員長　吉羽　逸郎／㈱アイ・エフ建築設計研究所代表取締役
委　員　大井　昇二／㈱大林組本店建築設計部部長
岡本　隆／㈱日建設計大阪本社設計室設計室長
門川　清行／㈱竹中工務店大阪本店設計専門役
川原村勝幸／㈱安井建築設計事務所設計部副部長
久保　清一／大阪芸術大学芸術学部建築学科助教授
小林　正明／鹿島建設㈱関西支店建築設計部副部長
阪田　弘一／京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科助教授
鈴木　道子／エム・アイ・エー・アーキテクツ㈲代表取締役
瀬戸本　淳／㈱瀬戸本淳建築研究室代表取締役
田中　直人／摂南大学工学部建築学科教授
髙砂　正弘／㈱高砂建築事務所代表取締役
八杉　政一／㈱東畑建築事務所建築設計室設計部長
山本　光良／㈱昭和設計企画設計部企画室長
吉村　英祐／大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻助教授

●応募校
群馬県立長野原高等学校
群馬県立前橋工業高等学校
千葉県立市川工業高等学校
私立敬愛学園高等学校
東京都立田無工業高等学校
神奈川県立神奈川工業高等学校
長野県立池田工業高等学校
静岡県立静岡工業高等学校
静岡県立天竜林業高等学校
静岡県立浜松工業高等学校
私立名古屋工業高等学校
三重県立伊勢工業高等学校
三重県立四日市工業高等学校
福井県立武生工業高等学校
滋賀県立彦根工業高等学校
大阪府立西野田工業高等学校
大阪市立工芸高等学校
大阪市立都島工業高等学校
堺市立第二工業高等学校
京都市立伏見工業高等学校
兵庫県立龍野実業高等学校
兵庫県立豊岡実業高等学校
兵庫県立兵庫工業高等学校
鳥取県立鳥取工業高等学校
高知県立高知工業高等学校
愛媛県立松山工業高等学校
福岡県立福岡工業高等学校
大分県立鶴崎工業高等学校
大分県立日田林工高等学校
宮崎県立都城工業高等学校

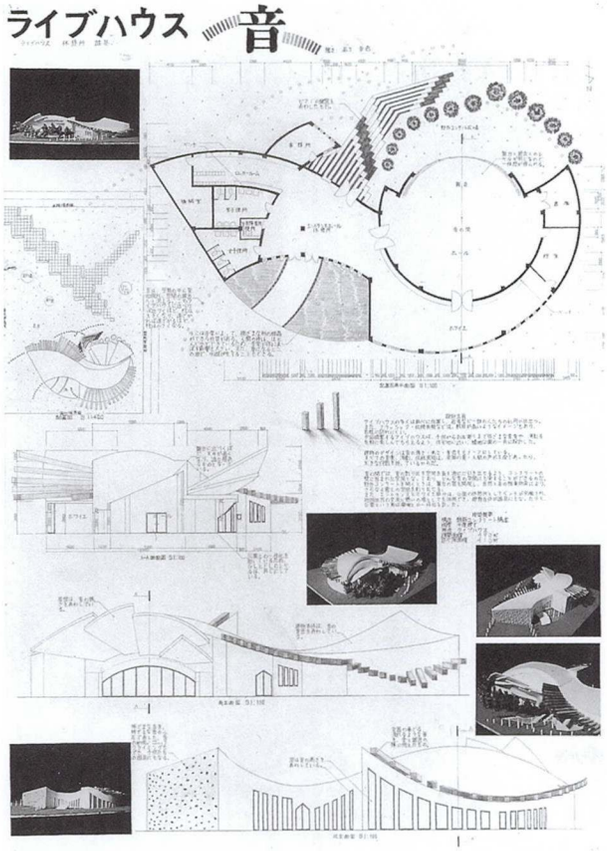


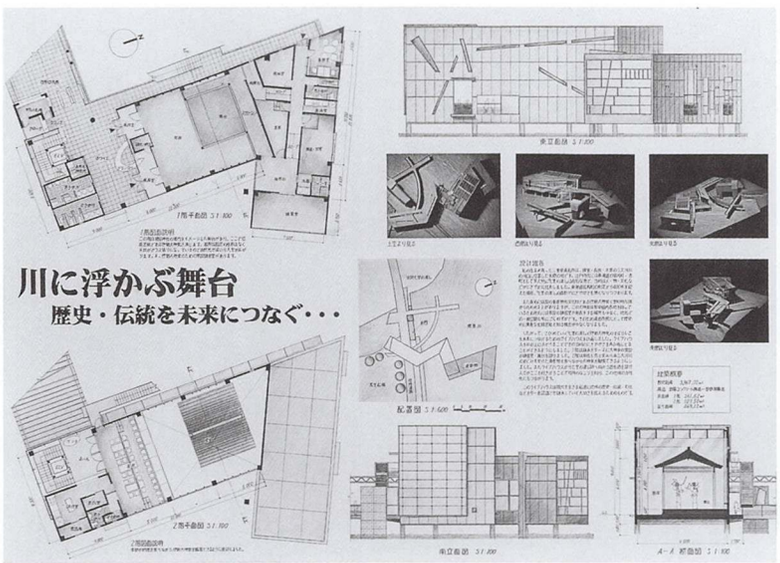
入選　最優秀賞　**川村　晃**
（三重県立四日市工業高等学校３年）

インターネットで四日市公害を調べているとき、被害者の声を見つけました。そこには「教科書でしか公害を知ることが出来なくなってしまった」とあり、このまま公害を過去の出来事にしてはいけないと思い設計を始めました。このライブハウスでは、コンビナートの中で光を受けながらライブをします。この「ライブナット」が公害の記憶になっていくと思います。
最優秀賞の知らせを聞いたとき、夏休み中、悩み抜き最後に満足いく図面を描き上げた成果だと思いました。応援して下さった先生、先輩方どうもありがとうございました。

入選　優秀賞　**牧　英梨奈**
（大阪市立工芸高等学校３年）

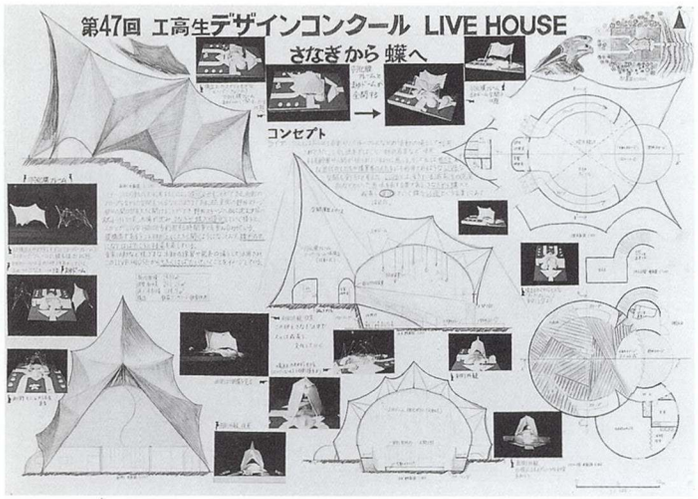
私は、“気軽に誰でも音楽を楽しめる”そんなライブハウスにしたくて、公園という身近な場所での立地を考え、子供たちからお年寄りまで地域住民に親しまれるように、ただ音を聞くための器としての機能だけでなく、交流・憩いの場、遊具としての機能など、フレキシブルで遊び心のある建築物を目指しました。
この入選は、私を支え励ましてくれた先生方、友達、家族のおかげです。これからも今の自分の現状に満足せず、更に良い作品がつくれるよう努力したいと思います。





入選　優秀賞　**田中弘晃**（私立名古屋工業高等学校３年）

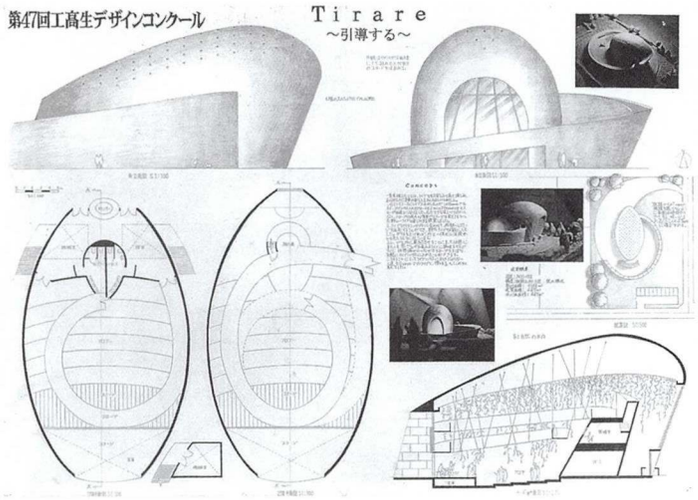
私の生まれ育った桑名市は、東海道伝馬制の制定から400年を迎えました。しかし、長い歳月で桑名の「七里の渡し」や重要無形文化財の「伊勢大神楽」もさびれ、地元の人もこれを知る機会が少なくなりました。そこで、このライブハウスを地域の歴史・伝統・文化を再認識させ、継承していく大切さを伝える場としました。また、「七里の渡し」の近くに建つことで、この地域が活性化することを願って設計しました。
私がすばらしい賞を受賞できたのは、ご指導下さった先生方、つらいとき支えてくれた友人、家族のおかげだと感謝しています。



入選　**山口玲子**（大阪市立工芸高等学校３年）

LIVE HOUSEの“LIVE”という言葉の中に、生きている、成長、生の、などといった意味を表現したかった。さなぎから蝶へと成長し、変化していく生きものを“LIVE”という言葉にあてはめ、現代人が年齢や立場に関係なく成長し、生きているということを実感してほしいと思い、このライブハウスを設計しました。

担任の先生がわざわざ電話をかけて下さって入選を知り、指導して下さった先生方に感謝の気持ちでいっぱいになりました。この入選で、自分に自信をつけることが出来て、本当に感謝しています。ありがとうございました。



入選　**橘　麻保**（大阪市立工芸高等学校３年）

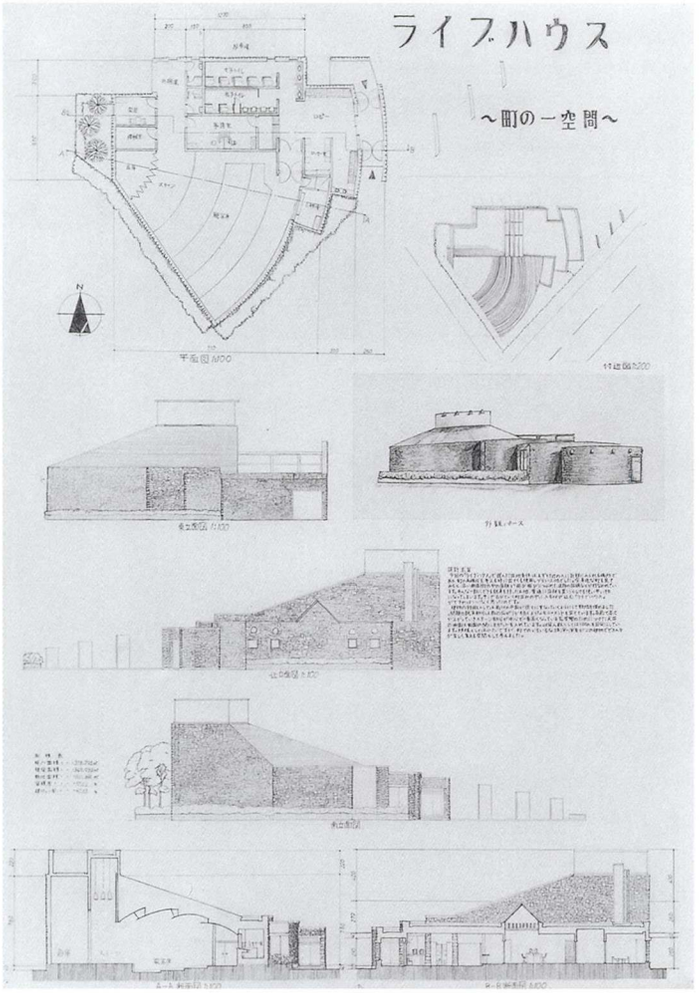
演奏者や見る側の気持ちになって考え、いかに互いが楽しい空間で過ごせるか、そして、その場にどれだけのアイデアを詰められるのかという点を重視して制作しました。無駄な部分はすべて省き、シンプルに、かつスロープのダイナミックさを生かして出来上がったのがこの作品です。

入選通知を受けたとき「本当に最後までやり遂げてよかった」と、心から実感しました。これからも作品を制作するに当たって、今回の経験を生かし、さらに最高のものがつくれるように頑張っていきたいと思います。

入選
共同制作
深町昌広
（大分県立日田林工高等学校２年）

このライブハウスというテーマは、僕らにとって身近に感じられ、親しみやすく面白そうだったので取り組むことにしました。敷地を有効に使ってライブハウスをつくるよう考えました。

調査したことや時間をかけて制作したことが報われ、嬉しく思います。



入選
共同制作
橋本潤也
（大分県立日田林工高等学校２年）

僕はよく友達とバンドを組みライブをしていましたが、なかなかみんなに演奏を聴いてもらえる場所がない。だから、そんな場所が身近に出来るのを望んで、この作品に取り組みました。自分の設計したところで、自分の歌を歌えたら本当に幸せに思います。

■課題の趣旨

洋の東西を問わず、音楽は人々の生活の中に浸透し、クラシックや軽快なワルツの調べに人々は心を癒される。また、自己表現の手段として音楽を追求する人も多い。

現代では、様々なハイテク機器を用いたロックなどの音楽が若者に浸透する一方で、様々なパフォーマンスや伝統芸能も近年見直され、新しい分野を開きつつある。

しかし、その練習や発表の場が少ないことも現実であろう。また、路上ライブのように、聴衆との一体感が得られることができる場が求められている。

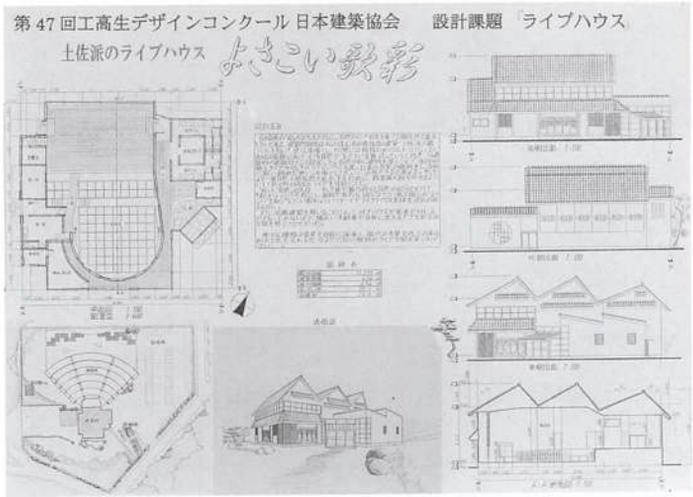
本課題では、様々な世代の人たちの発表や創作の場としての「ライブハウス」の提案を求めるものである。

■設計条件

1．敷地／敷地の大きさ、形状ともに自由。
2．規模／200～500㎡
3．所要室／使用方法を想定し、必要と思われるスペースを適宜設ける。

■所要図面

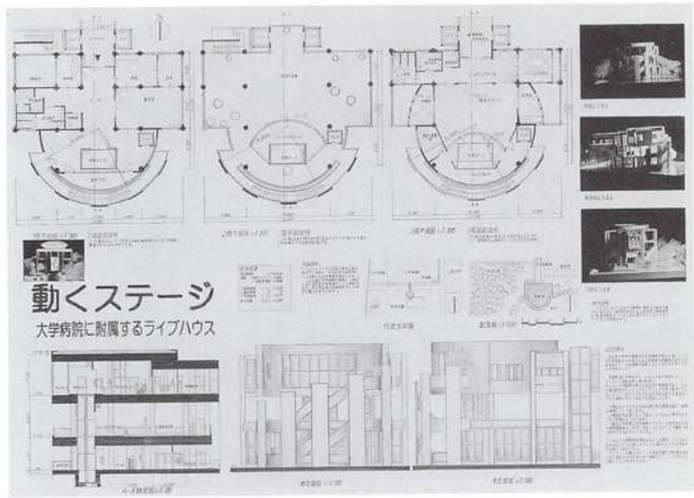
1．配置図／縮尺自由
2．各階平面図／縮尺１：100
3．立面図／縮尺１：100（２面以上）
4．断面図／縮尺１：100（１面以上）
5．透視図／設計意図が最も反映するところ（アイソメも可）。着彩仕上げ。模型写真に替えてもよい。
6．設計説明／設計趣旨（立地・周囲の状況などについての説明を含む）および建築概要（敷地面積、建築物の構造・階数および床面積など）を示す。
設計意図を表すサブタイトルをつけるのが望ましい。
7．その他／平面図・断面図には、室名・寸法を記入する。その他必要と思われる図面を加えてもよい。



入選　**石原令子**（高知県立高知工業高等学校３年）

21世紀の建築に必要なものは「自然と人の共生」とともに「和風文化の再生」であると思い、この作品を制作しました。「和風建築」を用いることにより、心から安らぎを感じリラックスしながらライブが行える。また、若者にとっては、新たな音楽環境のもとで今までと違った音楽発想も出来るかも知れません。「和風文化」の良さを取り入れ、自然に囲まれたオープンなライブを楽しめるようにと、この『ライブハウス』を考えました。

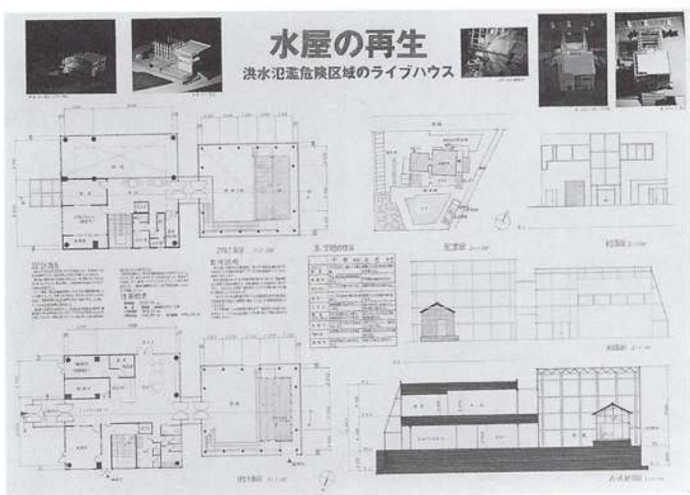
とても名誉ある賞を頂いて大変嬉しく思います。夜遅くまでかかったりしましたが、一生懸命制作して本当によかったと思います。



入選　**井上喜雅**（私立名古屋工業高等学校３年）

“ライブ”で人に何ができるだろうかと考え、そして音楽を通して人の心を癒すライブハウスを思いつきました。次に音楽療法というものを知り、これを学校の近くにある大学病院に連結させ、病院の向かい側にある総合公園内に立地させました。このライブハウスは、音楽を使って医療に役立てることを願い設計しました。

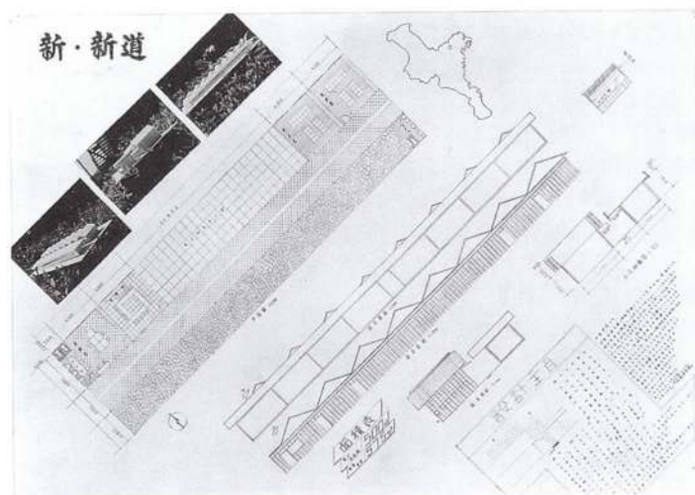
生まれて初めて設計した作品がこのような評価を受けて、とてもうれしいです。ご指導下さった先生や協力してくれた友達に感謝しつつ、これからも建築の勉強に励みたいと思います。



入選　**城戸貴則**（私立名古屋工業高等学校３年）

一昨年９月の豪雨で、僕の住む東海地方は大きな被害を受け、水害の恐ろしさを知りました。この体験から、水害から身を守れる場所が必要だと思い、水害について調べ、水害の危険の高い桑名郡長島町に、昔よくあった“水屋”という建物の存在を知りました。この地の“水屋”は、水害が起きたときに使う避難のための建物で、この水屋の機能を生かしたライブハウスを計画しました。

このコンペに参加して、高校生活で一生懸命になれることを見つけることができ、とても嬉しく思います。



入選　**永戸清之**（三重県立伊勢工業高等学校３年）

寂れた商店街（新道）に少しでも人を呼び戻したいと、クルマの走る県道側からも商店街が見通せるように県道側を全面ガラスとしました。商店街は伊勢地方特有の“妻入り”（切妻の町並み）とし、降った雨が商店街通りの中央に敷き詰められた玉砂利に落ちるように考えました。『旅人が屋根からの雨の滴に濡れない為の妻入り』、人に優しく雨の日も楽しめる情緒のある“新道”です。図面はあまり上手くありませんが、それを補うために模型を制作しました。まさかの入選でとても嬉しいです。ありがとうございました。

入選者の感想文は誌面の関係上、委員会にて要約の上、掲載しました
文責・山岡　徹／教育委員会

BOX ART KYUSHU開催

竹中工務店九州支店設計部員が30㎡の中に込めた『ものづくり』のこころが、7回目を迎える『BOX ART KYUSHU』で披歴される。

会　期　2002年1月30日(水)～2月1日(金)
10：00～19：00（2／1は17：00まで）
会　場　福岡赤煉瓦文化館・2階第3会議室
福岡市中央区天神1-15-30
テーマ　「宙」――往古来今、過去現世未来の三世を通じる時間の窮まりない流転。転じて上下四方の義とし、天地間の称である「宙」。―そら―

問い合わせは、竹中工務店九州支店設計部（TEL 092-711-1211）内BOX ART KYUSHU実行委員会へ。

「建築100人×100冊展」Vol.2開催

2001年12月10日締め切りで、あらゆる分野の人々にめくって読む・見る「本」の提案を募集したArchi-space 2002実行委員会＋AD&Aは、応募作品の展覧会と、トークセッションを開く。

■建築100人×100冊展Vol. 2
会期　2002年2月18日(月)～3月1日(金)
11：00～19：00（最終日18：00まで）日曜休廊
会場　AD&A gallery　TEL 06-6445-7733
大阪市西区京町堀1-6-12

■2002トークセッション
日時　2002年2月23日(土)　15：00～17：00
会場　AD&A gallery
出席　東　孝光（大阪大学名誉教授）、井上正信（プランニングサポート）、弘本由香里（大阪ガスエネルギー・文化研究所）、村田　譲（学芸出版社）、花田佳明（神戸芸術工科大学）―司会―

JAM：Tokyo－London展

音楽の“ジャム・セッション”にヒントを得て、異なるメディアが一堂に会する展覧会「JAM：Tokyo－London」を、今回は東京で開催する。

ロンドンのバービカン・アートギャラリーで昨年5月～7月に開かれた展覧会を継承するもので、今回は、東京とロンドンのファッション、フォトグラフィ、ミュージックなどより幅広いデザインジャンルを網羅したストリート・カルチャーシーンを対比させたものになっている。

参加するロンドンアーティストは、AZUMI、エアサイド、スティーヴン・ゴンタルスキら21ユニット、東京アーティストは、奈良美智／吉本ばなな、ホンマタカシ、宇川直宏ら20ユニット。

会　期　2002年2月8日（金）～5月6日（月・祝）
会　場　東京オペラシティアートギャラリー
東京都新宿区西新宿3-20-2
TEL 03-5353-0447
入場料　一般1000円、大高生800円、中小生600円

「アール・デコ展－ソナベンド・コレクション」

ニューヨークの著名な美術コレクター、ソナベンド夫妻が収集したコレクションの中から、アール・デコの真髄ともいえる逸品約160点がサントリーミュージアム［天保山］で展観される。

イレアナとマイケルのソナベンド夫妻が1960年代パリ在住の折に収集したコレクションには、リュルマン、ブランツなどの家具、ピュイフォルカの銀器、ラリックやドームのガラス工芸、デプレによるアクセサリーなどが含まれ、家具16点、金属工芸32点、ガラス工芸75点、銀細工・アクセサリーなど37点が今回の展覧会を構成する。会場構成は、建築家・安藤忠雄氏。

会　期　2002年2月7日(木)～3月31日(日)
10：30～19：30　月曜日休館（ただし、2月11日、3月25日は開館）
会　場　サントリーミュージアム［天保山］
大阪市港区海岸通1-5-10　TEL 06-6577-0001
入場料　大人1000円、高大生700円、小中生400円



ルネ・ラリック／香水瓶《りんごの花の蕾》1919年
©ADAGP, Paris & JVACS, Tokyo, 2001

www.glass-fiber.net/

硝子繊維協会（東京都港区西新橋1-17-15）は、住宅用断熱材として高いシェアを占めるグラスウールに関するホームページを立ち上げた。

住宅施工関係者、施主、ユーザーそれぞれのレベルに合わせてホームページを作成。「what's New」は不定期ではあるが、新着情報を掲載している。

URLはhttp://www.glass-fiber.net/

建築業界初の環境仕様書策定

㈱エヌ・ティ・ティ　ファシリティーズは、建物の建設段階における環境負荷の低減をより効果的に推進するために環境仕様書を策定し、試行運用を始めた。

本仕様書では、環境に配慮すべき7つの項目を設定し、各項目ごとに建設段階において具体的にどのような配慮をしなければいけないのかを示している。

環境配慮型の建築を求める企業に対して、エヌ・ティ・ティ　ファシリティーズは積極的にこの「環境仕様書」を提案し、理解が得られたときに適用することとしている。



7つの環境配慮項目
1．建物の長寿命化
2．ハロン・フロンの使用抑制
3．有害物質の使用抑制・撤廃
4．省資源及び省エネルギー
5．廃棄物発生量の削減
6．再使用・再生利用の促進
7．地球環境への対応

プロポーザル・ガイドライン策定

近年、設計者の選定に多用されているプロポーザル方式は、①参加資格並びに募集方式が大手事務所中心の指名方式に偏っている②過去の実績が問われるため歴史の浅い事務所は不利になる③技術提案において図面的な表現が原則的に禁止されている、など多々の問題が指摘され始めている。

㈳日本医療福祉建築協会では、とくに図面的表現の禁止が、部門間、室間の機能的関連性の理解の提示が不可欠である医療・福祉施設にとって不都合な制約となっていることから、医療・福祉施設のための設計プロポーザル・ガイドラインを検討し、成案を得た。

医療福祉施設以外の分野にも通用する一つの考え方として、本ガイドラインをプロポーザル方式のベースにすることを、同協会では奨めている。

内容の問い合わせは、㈳日本医療福祉建築協会（TEL 03-3453-9904、FAX 03-3453-7573、E-mail：jiha@mars.dti.ne.jp）へ。

「フローリング騒音の解決法」刊行

マンション問題研究会・先田政弘代表が、昨年11月に冊子「フローリング騒音の解決法」を刊行した。

本書は、先田氏の豊富な実務経験に基づいて書かれた実践的なノウハウ書で、過去のフローリング騒音トラブルを検証し、騒音の発生状況を自分で確認し評価できる章も設けられている。

B5判、87頁、定価1300円（税込み、送料含む）

なお、購読希望者には直販しているので、マンション問題研究会（TEL 06-6202-7630、FAX 06-6202-7648）へFAXで申し込まれたい。

日本建築協会

月間の動き

【平成13年11月分】

21世紀の協会検討委員会

第５回　21世紀の協会検討委員会（全体会議）
27日　　３時～５時10分・於本会会議室
出席者　川口副会長ほか12名
議　題　「協会21世紀を考える委員会」答申の具体的実効策について

第４回「建築と社会に関する」分科会
19日　　３時30分～５時30分・於本会会議室
出席者　片倉委員長ほか３名
議　題　「協会21世紀を考える委員会」答申の具体的実効策について

常設委員会・委員長会議

19日　　１時30分～３時20分・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか５名
議　題　「協会21世紀を考える委員会」答申の具体的実効策について

編集委員会

第８回編集委員会
７日　　６時～８時・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか６名
議　事　（1）12月号「第48回青年技術者」特集・「ＮＨＫ大阪放送会館・大阪歴史博物館」特集経過報告
（2）14年１月号「国土交通省近畿地方整備局営繕部」特集経過報告
（3）14年２月号「再生・リサイクル…循環型社会をめざして」特集経過報告
（4）14年１月号～12月号表紙改定案検討
（5）新シリーズ頁検討
（6）会誌の将来について
（7）収支状況報告

第８回広告企画小委員会
７日　　４時～５時30分・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか10名
議　題　（1）12月号「ＮＨＫ大阪放送会館・大阪歴史博物館」特集経過報告
（2）１月号「国土交通省近畿地方整備局営繕部」特集経過報告
（3）作品作風関係報告
（4）独自特集企画
（5）収支状況報告

第２回計画分科会―インテリア・住宅系―
５日　　７時～９時・於本会会議室
出席者　西田幹事ほか３名
議　事　来年度特集案について検討

第８回設備分科会
６日　　６時～８時15分・於本会会議室
出席者　近藤国夫幹事ほか２名
議　事　（1）新シリーズ「研究最前線」の検討
（2）「設備の頁」の企画

第８回法令分科会
13日　　２時～４時・於本会会議室
出席者　中島幹事ほか２名
議　事（1）「法令コーナー」の企画
（2）来年の特集

第６回施工材料分科会
22日　　５時～６時30分・於本会会議室
出席者　太刀川幹事ほか４名
議　事　来年度特集について

第８回作品作風小委員会
22日　　７時～８時・於本会会議室
出席者　赤木副委員長ほか２名
議　事　（1）作品の選定
（2）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（3）「gallery」掲載報告・予定
（4）11月号会員特集号反省

第２回会員企画小委員会
28日　　７時～９時30分・於本会会議室
出席者　高岡副委員長ほか５名
議　事　今後の会員企画小委員会の活動方針

第１回計画分科会―計画系―
30日　　６時30分～９時・於本会会議室
出席者　吉村委員ほか７名
議　事　来年４月号計画特集の企画

事業委員会

第５回事業委員会
20日　　６時～７時30分・於本会会議室
出席者　川村委員長ほか10名
議　事　（1）各小委員会からの報告と検討
（2）今後の企画

第５回見学会小委員会
８日　　６時～７時15分・於本会会議室
出席者　福島副委員長ほか７名
議　事　実施報告と今後の予定について

第５回情報小委員会
14日　　６時～８時・於本会会議室
出席者　天野副委員長ほか７名
議　事　（1）実施報告と今後の予定について
（2）今後の企画候補について

第１回茶室見学分科会
28日　　３時～４時30分・於本会会議室
出席者　福家幹事ほか４名
議　事　（1）次回見学会について報告と検討
（2）来春の茶室講演会・見学会について検討

出版委員会

第７回出版委員会
15日　　６時～６時45分・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか７名
議　事　（1）＜プロのノウハウ＞と特装本の経過報告
（2）今後のテーマと執筆者選定

第５回結露のトラブルと解決策小委員会（仮称）
１日　　６時～８時30分・於本会会議室
出席者　中川主査ほか８名
議　事　（1）結露のトラブルと解決策に関して
（2）今後の作業予定等について

教育委員会

第47回工高生デザインコンクール表彰式
10日　　２時～４時・於本会会議室
出席者　吉羽審査委員長、阪田審査委員
片倉教育委員長ほか教育委員４名
入選者11名ほか引率者６名

見学会

第８回見学会・兵庫県立新美術館「芸術の館」
15日　　１時30分～４時30分　　参加者65名
まちなみ見学会（第６回）滋賀・五個荘町
17日　　１時30分～４時30分　　参加者21名

講演会

第32回話題建築を聞く
ＮＨＫ大阪新放送会館・大阪歴史博物館
21日　　６時30分～８時50分　　参加者28名
講　師　種村俊昭氏（日本設計プロジェクト部長）

建築クラブ

第354回朝食会
13日　　８時30分～10時・大阪全日空ホテル
演　題　「現代の芸術の周辺」
講　師　柴辻　政彦氏（美術工芸研究所主宰）
参加者　33名

第２回運営委員会
13日　　10時～10時45分・於大阪全日空ホテル
出席者　佐野代表ほか４名
議　事　（1）平成13年・上期収支状況について（報告）
（2）14年１月「新年宴会」について
（3）朝食会「講演講師」について
（4）２月例会の会場変更について

入会者(敬称略)

[個人会員２名]　今井　司（大阪市住宅局）　上田　信也（大建設計京都事務所）

◀会員の訃報
小西　裕一郎氏　平成13年８月ご逝去
西原　正輝氏　平成13年11月11日ご逝去

「建築と社会」読者アンケート

「建築と社会」では、読者の方々のご意見を参考に、充実した誌面づくりをめざしております。今月号で、とくによいと思われた作品、記事、その他についてのご意見をFAXでご送付下さい。
なお、このご意見は、読者と選ぶ第２回『建築と社会賞』の１次選考に反映されます。

2002年１月号

送付先：
㈱日本建築協会
「建築と社会」
FAX 06-6348-0634

□とくによいと思われた作品
よいと思われた理由

□とくによいと思われた記事
よいと思われた理由

お名前　　勤務先　　TEL

新年のご挨拶

平成14年元旦

浅海伸之

浅海電気株式会社 代表取締役社長

〒530-0047 大阪市北区西天満3丁目7番4号　電話06（6362）8711

木内啓介

西日本建設業保証株式会社　取締役社長

〒550-0012 大阪市西区立売堀2丁目1番2号 電話06（6543）2553

松原満佐子

有限会社　柳々堂　代表取締役

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-3　電話06（6443）0167～8
FAX 06（6443）1826

五十嵐定義

財団法人　日本建築総合試験所　理事長

〒565-0873　吹田市藤白台5丁目8番1号　電話06（6872）0391
http://www.gbrc.or.jp

取締役会長 橋本正章
取締役社長 此谷浩

株式会社 小西設計

〒550-0012 大阪市西区立売堀1丁目12－16　電話06（6532）4051

三栖邦博

日建設計　取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06（6203）2361

市川宏

株式会社　東畑建築事務所 取締役会長

〒541-0044　大阪市中央区伏見町4—4—10　電話06（6202）0391

名誉会長

佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役会長

〒540-0034 大阪市中央区島町2丁目4番7号 電話06（6943）1371代
〒662-0064 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798（72）1569

薬袋公明

日建設計　相談役 名誉会長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号 電話06（6203）2361

上西圭治

株式会社　大気社　相談役

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル
電話06（6448）3603

代表取締役会長 徳岡昌克
代表取締役社長 徳岡浩二

株式会社　徳岡昌克建築設計事務所
MASAKATSU TOKUOKA ARCHITECTS
〒530-0047　大阪市北区西天満6丁目3番11-205号
〒169-0072　東京都新宿区大久保1丁目9番21-302号
〒661-0965　尼崎市次屋3丁目6番60号
〒520-0501　滋賀県滋賀郡志賀町北小松1157番地
〒812-0007　福岡市博多区東比恵3丁目25番5号
somu@tokuoka-ao.co.jp
http://www.tokuoka-ao.co.jp/
TEL 06 (6499) 0701
FAX 06 (6499) 2223

村石全

株式会社クトクコーポレーション
ミユキ建設株式会社　代表取締役社長

〒556-0021 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号　電話06（6568）3671
〒596-0011 工場・岸和田市木材町9番地の3 電話0724（37）2524
〒649-7167 工場・和歌山県伊都郡かつらぎ町移430番地
電話0736（22）7880

植野知雄

株式会社　寿建築積算事務所　代表取締役

〒542-0083　大阪市中央区東心斎橋1丁目16-29　つるのすビル
電話06（6244）1561代

内藤正克

株式会社　内藤建築設計事務所　相談役会長

〒675-1379 兵庫県小野市上本町240 小野ビル　電話0794（62）4757代
〒675-1362 自宅・兵庫県小野市久保木町1063 電話0794（62）4668

山本貴士

朝陽電気株式会社　代表取締役

〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号　電話06（6385）1361代表
朝日ビルディング内
〒565-0873　自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号
電話06（6871）0851

恩庄治郎

大阪化工株式会社　代表取締役社長

〒565-0821　吹田市山田東1－12－12　電話06（6876）2334
〒565-0821　自宅・吹田市山田東1-12-12　電話06（6877）1406

真塚達夫

株式会社　東畑建築事務所　取締役社長

〒541-0044 大阪市中央区伏見町4—4—10
電話06（6202）0391

和中勝

株式会社　和中商店　取締役会長

〒531-0072　大阪市北区豊崎5丁目8番11号
電話06（6371）0731～5
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町11-5　電話03（3464）9723
〒453-0804 名古屋市中村区黄金通3丁目34番地 電話052（481）7338
〒662-0836 自宅・西宮市大畑町10-22　電話0798（67）0386

原田明治

財団法人　大阪住宅センター　理事長

〒542-0081 大阪市中央区南船場4丁目4番3号
御堂筋アーバンライフビル4F
電話06（6253）0071

設計事務所有志

株式会社 伊藤建築設計事務所

代表取締役会長　織　田　愈　史
代表取締役社長　森　口　雅　文

本　　社　〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目2番13号（名古屋センタービル）電話〈052〉222-8611
東京事務所　〒101-0021 東京都千代田区外神田三丁目5番12号（聖公会神田ビル）電話〈03〉5294-6211

URABESEKKEI 株式会社 浦辺設計

URBAN DESIGN & ARCHITECTURE FOR BEAUTIFUL ENVIRONMENT

代表取締役　松　村　慶　三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル　〒530-0001　電話 06 (6341) 1680
岡山事務所　岡山市問屋町26－103　〒700-0977　電話 086 (245) 0090
http : // homepage1. nifty. com / URABE /

株式会社 瀬戸本淳建築研究室

代表取締役　瀬　戸　本　淳

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目1－1神戸郵船ビル　TEL078-333-0138

株式会社 創美設計

代表取締役　中　原　英　雄

大阪市北区南森町1丁目2番25号 南森町iSビル 〒530-0054 TEL.(06)6312-3001代表

株式会社 大建設計

代表取締役社長　隅　谷　康　彦
常務取締役 大阪事務所長　島　幸一郎

大阪市西区京町堀1-13-20　電話06(6449)6800(代表)
東京·名古屋·福岡·札幌·仙台·横浜·長野·京都·広島·北九州

株式会社　東畑建築事務所

取締役会長　市　川　　宏
取締役社長　真　塚　達　夫

本社・大阪事務所　〒541-0044　大阪市中央区伏見町4-4-10　Tel (06) 6202-0391
http://www.tohata.co.jp
大阪・東京・名古屋・九州

建築・土木の設計監理

日建設計

取締役社長　三　栖　邦　博

大　　阪	541-8528	大阪市中央区高麗橋4丁目6－2	電話（06）6203-2361
東　　京	112-8565	東京都文京区後楽2丁目1－3	電話（03）3813-3361
名 古 屋	460-0008	名古屋市中区栄4丁目15－32	電話（052）261-6131
支所・その他	東北（仙台）・神奈川（横浜）・北陸（富山）・神戸・広島・九州（福岡） シンガポール・上海・台北・ソウル・クアラルンプール		

コストコンサルタント　建築積算・概算・VE　建築積算システム開発

株式会社 日積サーベイ

NISSEKI SURVEY

代表取締役　生　島　宣　幸

本　　社　〒540-0012 大阪市中央区谷町3丁目1番9号 MG大手前ビル
TEL 06-6944-2755　FAX 06-6944-2390
東京事務所　〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目6番9号 NH虎ノ門ビル
TEL 03-5157-5697　FAX 03-5157-5698
http://www.nisseki-survey.co.jp

株式会社 安井建築設計事務所

代表取締役社長　佐　野　吉　彦

本　　社　〒540－0034　大阪市中央区島町2－4－7　☎（06）6943−1371（代表）
支　　社　大阪・東京・名古屋・神戸・広島・福岡

建設業有志

人・都市・自然のシンフォニー

Asanuma

株式会社 浅沼組

取締役社長　浅　沼　健　一

本社・大阪本店　大阪市天王寺区東高津町12番6号　電話06(6768)5222
東京本店　東京都新宿区荒木町5番地　電話03(5269)3111
名古屋支店　名古屋市中村区名駅南三丁目3番44号　電話052(571)5571
支　　店　北海道・東北・横浜・神戸・広島・九州



株式会社 大林組

取締役会長　大林芳郎
取締役社長　向笠慎二

東京本社　東京都港区港南２－１５－２　電話　03(5769)1111
本　　店　大阪市中央区北浜東４－３３　電話　06(6946)4400
支　　店　札幌・東北・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州



株式会社 奥村組

取締役社長　奥村太加典

本　　社　〒545-8555 大阪市阿倍野区松崎町二丁目2番2号　電話 大阪(06)6621-1101(代表)
東京本社　〒108-8381 東京都港区芝五丁目６番１号　電話 東京(03)3454-8111(代表)

100年をつくる会社

鹿島
KAJIMA CORPORATION

代表取締役社長　梅田貞夫
専務取締役関西支店長　井保武寿

本　　社　東京都港区元赤坂１－２－７　電話 03(3404)3311(大代)
関西支店　大阪市西区阿波座１－３－１５　電話 06(6536)3311(大代)



株式会社 熊谷組 関西支社

取締役副社長
支社長　山口啓二

本　　社　東京都新宿区津久戸町２番１　電話03 (3260) 2111番(大代表)
関西支社　大阪市都島区東野田町1丁目5番14号　電話06 (6352) 1151番



公成建設

代表取締役社長　絹川治

本　　社　〒600-8322　京都市下京区五条通西洞院西入　☎075-365-8300
大阪支店　〒531-0072　大阪市北区豊崎２丁目４番３号　☎06-6375-1121
名古屋営業所　〒453-0023　名古屋市中村区若宮町３丁目４８　☎052-471-1223

人がつくる、人の場所。

SHIMIZU CORPORATION

清水建設

取締役社長　野村哲也
専務執行役員関西事業本部長　増島修二

本　　社　東京都港区芝浦１－２－３　電話 03(5441)1111
関西事業本部　大阪市中央区本町３－５－７　電話 06(6263)2800

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長　錢高一善

本　社　大阪市西区西本町2丁目2番11号
なにわ筋ツインズ　ウエスト
大阪(06)6531－6431
東京本社　東京都千代田区一番町31番地
東京(03)3265－4611
支社・支店　大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州
URL　http:// www. zenitaka. co. jp/

TAISEI

大成建設株式会社

社長　葉山莞児
常務 関西支店長　氏原完典

本　社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル　TEL03(3348)1111大代表
関西支店　大阪市中央区南船場1丁目14番10号　TEL06(6265)4504
ホームページ　http : // www. taisei. co. jp

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541-0053　大阪市中央区本町4丁目1－13　電話 大阪 (6252) 1201番(代表)

戸田建設株式会社

代表取締役社長　戸田守二
取締役大阪支店長　浜辺鶴志

本　社　〒104-8388　東京都中央区京橋1丁目7番1号　TEL 東京03(3535)1354
大阪支店　〒550-0005　大阪市西区西本町1丁目13番47号　TEL 大阪06(6531)6095
支　店　東京・千葉・関東・横浜・神戸・北陸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

不動建設株式会社

取締役社長　福田誠

大阪本社　大阪市中央区平野町4丁目2番16号　電話06（6201）9203番
東京本社　東京都台東区台東1丁目2番1号　電話03（3837）6009番
支　店　北海道・東北・千葉・横浜・北関東・名古屋・神戸・広島・四国・南四国・九州・北九州

FUJIKI

株式会社 藤木工務店

取締役社長　大森周

本　社　〒540-0028 大阪市中央区常盤町1-3-8　☎06-6966-0400(代)
東京本社　〒160-0008 東京都新宿区三栄町23-4　☎03-3357-1600(代)
本支店　大阪・東京・横浜・京都・倉敷・四国・福岡

豊國建設株式会社

代表取締役社長　藤田正昭

本　社　〒530-0042 大阪市北区天満橋2丁目3番1号 ☎06(6353)1001(代)
支　店　東京・東北　FAX 06(6353)1091
営業所　北上・新井・福井・京都・舞鶴・加古川・益田・福岡

団体・報道・建材・設備工事有志

社団法人 日本建築協会京都支部

支部長　望月秀祐

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入 京都建設会館別館 電話075(211)2857·2877

社団法人 日本建築協会中国支部

支部長　古林敏郎

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1丁目8－4日興ビル内 TEL 082(244)2111

社団法人 日本建築協会東海支部

支部長　小宮三辰

〒460-0008 名古屋市中区栄4丁目3－26(昭和ビル5階) 電話 052(261)1451

社団法人 日本建築協会和歌山支部

支部長　東野信義

〒640-8045 和歌山市ト半町38番地 建築士会館内 電話 073(423)2562

社団法人 **日本建築材料協会**

会長 柴田藤祐

〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目3番13号辰巳ビル9階 電話06(6443)0345 FAX06(6443)0348
http://www.kenzai.or.jp/

OCT

学校法人 福田学園
大阪工業技術専門学校

建築 インテリア 大工 設備 土木 機械 CAD

〒530-0043 大阪市北区天満1－9－27 ☎06(6352)0091 FAX06(6352)2861
URL http://www.oct.ac.jp/ e-mail octinfo@fukuda.ac.jp 0120-0910-19

〈併設校〉大阪リハビリテーション専門学校（理学療法・作業療法・言語聴覚）

1955年創業 日報

建設業界でもっとも信頼読まれている日刊情報紙

株式会社 **建設日報社**

代表取締役社長 重村 一

本社 〒550-0006 大阪市西区江之子島1－7－3 TEL 06(6444)2405－9
別館 〒550-0006 大阪市西区江之子島1－6－2 TEL 06(6444)6431－4

TOF（フッ素樹脂積層被覆鋼板）、COM（耐酸被覆鋼板）製造及び責任施工
金属製屋根、外装、換気装置工事業

OSHIMA OHYO

代表取締役社長 貞利政和

本社／大阪本店 大阪市旭区太子橋1－15－22 TEL 06－6954－6521
支店、営業所 東京・名古屋・新居浜・四日市・岡山・広島・宇部・福岡
工場 新居浜・寝屋川
大島応用化学工業株式会社

YAMAMOTO YOGYO

山本窯業化工株式会社

代表取締役社長 山本泰通

本社 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町41-20 TEL(06)6338-8601 FAX(06)6338-8606
大阪営業部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町 8 - 7 TEL(06)6338-8701 FAX(06)6384-0557
支店・営業所 東京・北関東・名古屋・静岡・広島・福岡・仙台／福崎工場

ITEMS
●建物用ドアハンドル
●レバーハンドル
●ケアシステム―ハンドバー
●クロセット+ユニフリード
●ドアストップ―エッセ
●フロアシステム
●消火器収納ケース―アルジャン
●サインシステム―ピクト
●都市景観― ヒューランドスケープ
●キャスタル+メタルアート
●アーキパーツ


大阪ショールーム（アトリエユニオン/大阪）

建設環境金属製品の
UNION 株式会社ユニオン http://www.artunion.co.jp/
UNION CORPORATION

代表取締役 社長 立野純三

■本社 …… 大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ☎06(6532)3188 FAX06(6533)3747
■大阪支店 …… 大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ☎06(6532)3731 FAX06(6533)2293
■東京支店 …… 東京都江東区白河2-9-5 〒135-0021 ☎03(3630)2811 FAX03(3630)2816
■名古屋営業所 …… 名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454-0805 ☎052(363)5221 FAX052(363)5255
■ショールーム
アトリエユニオン/東京 …… 東京都港区虎ノ門2-3-22 〒105-0001 ☎03(3506)1717 FAX03(3506)1718
アトリエユニオン/大阪 …… 大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ☎06(6532)8920 FAX06(6533)0224
アトリエユニオン/名古屋 … 名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454-0805 ☎052(363)5221 FAX052(363)5255

特集
国土交通省近畿地方整備局営繕部

協賛

建築・設備事務所・建設コンサルタント

株式会社潮設備コンサルタント　大阪市西区京町堀1-4-4　TEL06-6441-0439

株式会社エヌ・ティ・ティファシリティーズ関西事業本部　大阪市中央区博労町2-1-13　TEL06-6267-7077

川鉄エンジニアリング株式会社大阪事務所　大阪市北区神山町8-1 梅田辰巳ビル8F　TEL06-6315-4705

株式会社上坂設計　大阪市北区西天満4-4-12　TEL06-6367-1113

株式会社桜井システム大阪事務所　大阪市北区天満1-7-21 第三・八光ビル　TEL06-6356-2111

株式会社佐藤総合計画関西事務所　大阪市中央区北久宝寺町2-2-13　TEL06-6263-3889

株式会社昭和設計　大阪市港区弁天1-2-1-800　TEL06-6575-5555

株式会社東畑建築事務所　大阪市中央区伏見町4-4-10　TEL06-6202-0391

株式会社徳岡昌克建築設計事務所　大阪市北区西天満6-3-11-205　TEL06-6499-0701

株式会社浪速設計　大阪市西成区天下茶屋3-28-23　TEL06-6656-7900

株式会社日建設計　大阪市中央区高麗橋4-6-2　TEL06-6203-2361

建設業

株式会社淺沼組　大阪市天王寺区東高津町12-6　TEL06-6768-5222

株式会社旭工務店　大阪府泉南市岡田6-31-22　TEL0724-82-1231

安藤建設株式会社大阪支店　大阪市福島区福島6-3-21　TEL06-6453-2190

株式会社大林組　大阪市中央区北浜東4-33　TEL06-6946-4578

鹿島建設株式会社関西支店　大阪市西区阿波座1-3-15　TEL06-6536-3311

株式会社熊谷組関西支社　大阪市都島区東野田町1-5-14　TEL06-6353-2516

コーナン建設株式会社　大阪市北区大淀南1-9-10　TEL06-6456-4311

公成建設株式会社　京都市下京区五条通西洞院西入小柳町518　TEL075-365-8300

佐藤工業株式会社大阪支店　大阪市中央区北浜1-1-6　TEL06-6203-7221

志眞建設株式会社　大阪府泉南郡岬町淡輪5746-27　TEL0724-92-0315

清水建設株式会社関西事業本部　大阪市中央区本町3-5-7　TEL06-6263-2800

株式会社ソネック　兵庫県高砂市曽根町2257-1　TEL0794-47-1551

大成建設株式会社関西支店　大阪市中央区南船場1-14-10　TEL06-6268-8500

株式会社竹中工務店　大阪市中央区本町4-1-13　TEL06-6252-1201

但南建設株式会社　兵庫県朝来郡山東町滝田148-1　TEL0796-76-3121

鉄建建設株式会社大阪支店　大阪市中央区瓦町3-3-7　TEL06-6201-1881

中村建設株式会社　奈良市三条大路1-1-48　TEL0742-33-1001

西松建設株式会社関西支店　大阪市中央区釣鐘町2-4-7　TEL06-6942-1131

日立プラント建設株式会社関西支店　大阪市中央区本町1-8-12 日本生命堺筋本町ビル　TEL06-6266-1931

不動建設株式会社　大阪市中央区平野町4-2-16　TEL06-6201-1121

前田建設工業株式会社関西支店　大阪市西区江戸堀1-3-15　TEL06-6446-9511

三井建設株式会社大阪支店　大阪市中央区本町4-4-25　TEL06-6243-3411

三菱建設株式会社大阪支店　大阪市北区天満橋1-8-30　TEL06-6881-1134

村本建設株式会社　奈良県北葛城郡広陵町大字平尾11-1　TEL0745-55-1151

寄神建設株式会社　神戸市兵庫区七宮町2-1-1　TEL078-681-6662

特集
国土交通省近畿地方整備局営繕部

協賛

空調・衛生・電気・各種工事業

川北電気工業株式会社大阪支社　大阪市西区京町堀1-7-11　TEL06-6441-3905

株式会社関西電業社　京都市中京区三条通西大路西入三条坊町13　TEL075-802-7321

株式会社キンコー　大阪市天王寺区北河堀町3-5　TEL06-6771-2345

協和建設工業株式会社大阪支店　大阪市北区天神橋2-3-9 第一ビル　TEL06-6351-9701

株式会社クリハラント　大阪市北区豊崎3-19-3 ピアスタワー8F　TEL06-6377-5310

株式会社三晃空調大阪本店　大阪市北区西天満3-13-20　TEL06-6363-1371

住友電設株式会社　大阪市西区阿波座2-1-4　TEL06-6357-3400

株式会社精研　大阪市中央区瓦屋町2-11-16　TEL06-6768-5031

ダイダン株式会社　大阪市西区江戸堀1-9-25　TEL06-6441-8231

第一工業株式会社大阪支店　大阪市北区西天満3-6-14　TEL06-6364-6661

株式会社大気社大阪支社　大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル7F　TEL06-6448-5851

千歳電気工業株式会社関西支店　大阪市北区本庄西2-21-4　TEL06-6372-7331

東邦電気産業株式会社　京都市中京区壬生御所ノ内町32　TEL075-811-7131

日本管工業株式会社　京都市南区西九条豊田町20　TEL075-681-5101

日本電設工業株式会社　大阪市北区豊崎3-17-15　TEL06-6372-3533

藤井電機株式会社　兵庫県朝来郡山東町末歳705-1　TEL0796-76-2068

美樹工業株式会社　兵庫県姫路市東延末2-50　TEL0792-81-5151

株式会社菱熱大阪営業所　大阪市北区天神橋2-3-9 第一ビル6F　TEL06-6355-7111

建材・設備メーカーその他

アイカ工業株式会社　大阪市西区靱本町2-3-2　TEL06-6447-7620

株式会社アトラス　大阪市天王寺区東高津町11-9 日生上本町ビル7F　TEL06-6765-2360

大阪瓦斯株式会社都市圏営業部　大阪市中央区平野町4-1-2　TEL06-6205-4672

大島応用化学工業株式会社　大阪市旭区太子橋1-15-22　TEL06-6954-6521

大塚オーミ陶業株式会社　大阪市中央区大手通3-2-21　TEL06-6943-6695

川崎製鉄株式会社　大阪市北区堂島1-6-20　TEL06-6342-0751

株式会社川島織物販売　大阪府吹田市広芝町8-26　TEL06-6369-6239

関西ペイント株式会社　大阪市中央区伏見町4-3-6　TEL06-6203-5012

小松ウォール工業株式会社　大阪市中央区西心斎橋1-1-13　TEL06-6241-8416

新幸商事株式会社　大阪市北区天神西町5-17 アクティ南森町　TEL06-6311-1871

大日本塗料株式会社　大阪市此花区西九条6-1-124　TEL06-6466-6653

東リ株式会社　大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル　TEL06-6943-1292

ナブコドア株式会社　大阪市西区西本町1-12-22 http://www.nabco-door.co.jp　TEL06-6532-7341

株式会社ニチベイ　大阪市中央区北浜東1-8 北浜東森田ビル7F　TEL06-6949-2806

株式会社前田鉄工所　大阪市北区東天満2-9-4 千代田ビル東館　TEL06-6358-2321

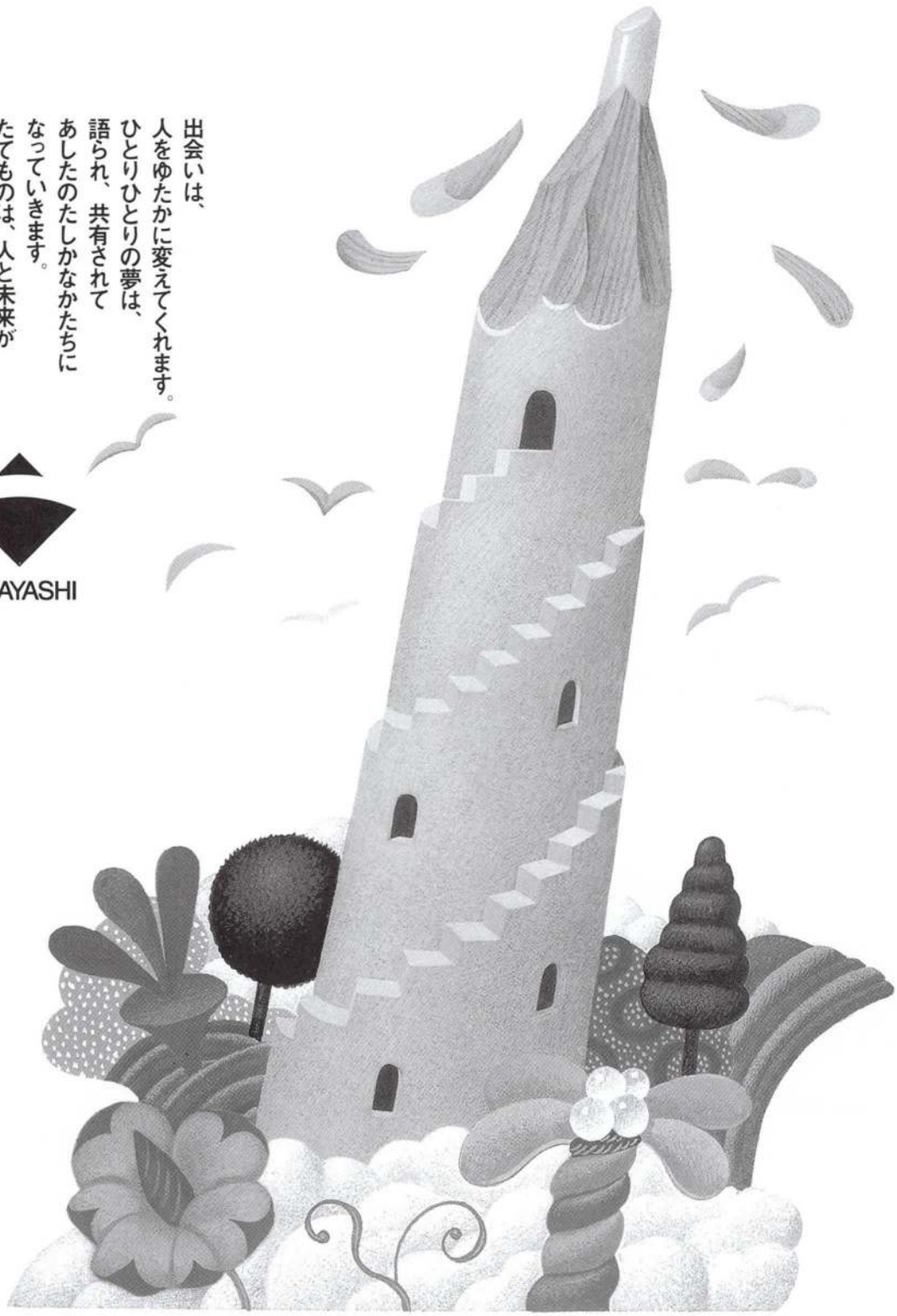
松尾橋梁株式会社　大阪市西区西本町3-1-43　TEL06-6533-8555

松下電工株式会社開発営業部　大阪府門真市大字門真1048　TEL06-6900-0509

ヨーコン株式会社　大阪市北区大淀中1-7-19　TEL06-6458-5761

あしたのものがたり

出会いは、
人をゆたかに変えてくれます。
ひとりひとりの夢は、
語られ、共有されて
あしたのたしかなかたちに
なっていきます。
たてものは、人と未来が
出会う場所なのです。



OBAYASHI

大林組
http://www.obayashi.co.jp/

千年都市を語りたい。



都市を規模や密度で語るのではなく、時間という尺度で測ってみる。
すると、“らしさ”という遺伝子が見え隠れしてきます。一分、一年、百年、千年という時間の中に浮遊する都市のDNA。
新しい千年紀に向けて、鹿島は都市の未来を語ります。

100年をつくる会社
鹿島

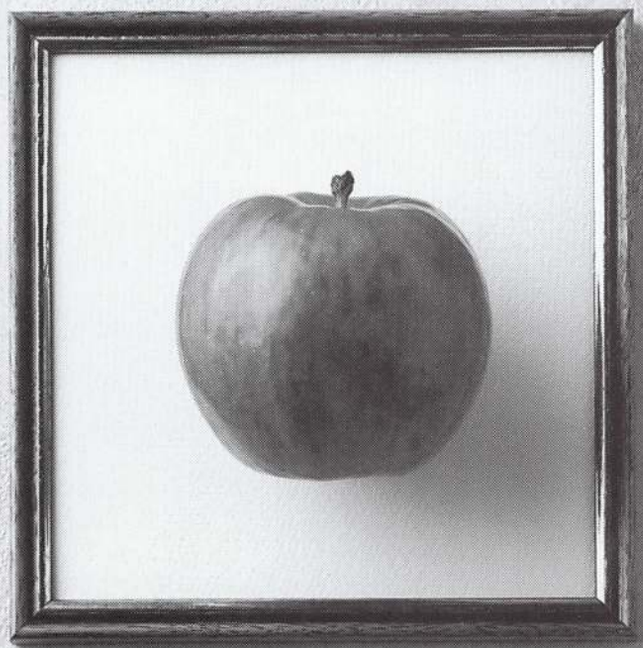
本社：東京都港区元赤坂1-2-7 〒107-8388
ホームページ http://www.kajima.co.jp/

鹿島建設は、『2001年 アーバン・オデッセイ』をテーマに、インパクに出展しています。
「デザインフォーラム時間都市」を、ぜひご覧ください。
http:// inpaku.kajima.co.jp/

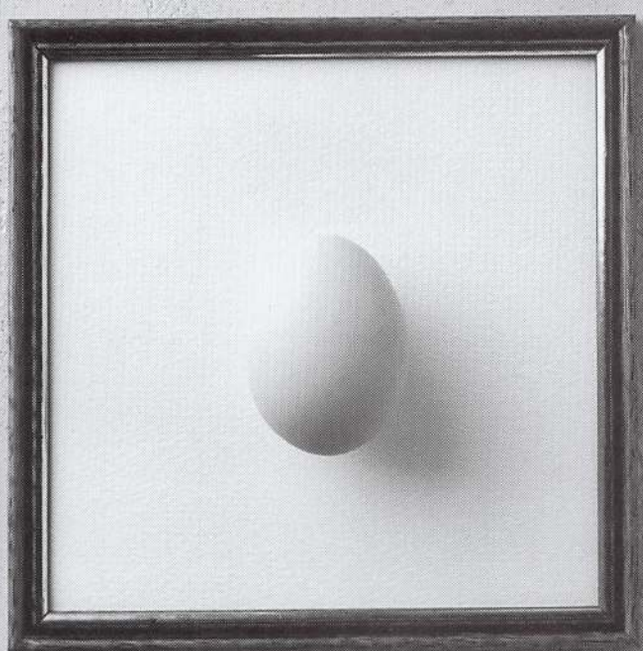
SHIMZ

広い視野、豊かな発想。

ニュートンの視点。コロンブスの着眼点。
いろいろな角度から、明日を見つめる清水建設です。



Newton's Apple



Columbus' Egg

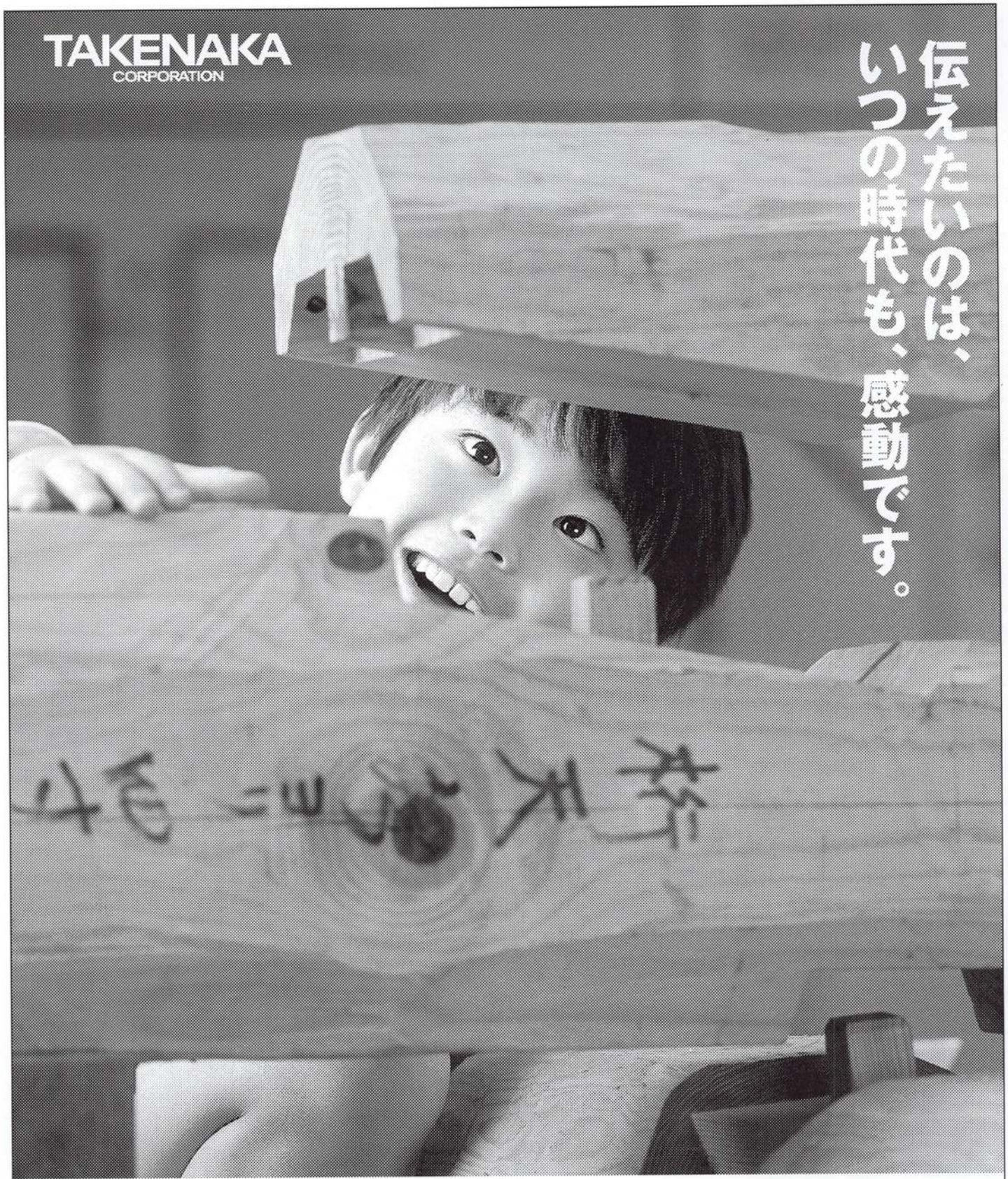
人がつくる、人の場所。
SHIMIZU CORPORATION
清水建設
http://www.shimz.co.jp/

大成建設

私たちのいちばんの技術は、
お客様の思いを読み取る技術です。

ひとつの建物、ひとつの施設が生まれるまでには、
数えきれぬほど多くの技術が投入されます。
個々の技術はもちろんですが、何よりも大成建設が胸をはって誇りたいのが
お客様の思いを読み取る技術です。
私たちはご利用いただく方の率直な声から引き出された
真のニーズをしっかりと把握し、すべてのプロセスに反映させながら、
大きな満足を創造します。





幼い心が受けとった、匠たちの技への驚き。
あのとき芽生えたモノづくりへの憧れは、
いくつになっても、いつの時代も、不変です。
新しい世紀を迎えたいま、
私たちが、都市を見つめるとき、プランを思い描くとき、
そして、それらをカタチにしようとするとき、
よみがえるのは、あのときの、あの感動です。

「感動」を「かたち」に

創業1610年
竹中工務店

お問い合わせは ―――― 本社／広報へ
〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-13 Tel.06(6263)5605
〒104-8182 東京都中央区銀座8丁目21-1 Tel.03(3542)7451
http://www.takenaka.co.jp/

ほら、ビルに、地球に、役立つ空調、あります。

Day by Day——きっといい明日
大阪ガス



天然ガスのよさを上手にいかして、「ビルと地球に役立つ空調」とは？

役立つポイント①「小電力」
都市ガスを主燃料としているので電力をほとんど消費しません。
OA化が加速するビルでも、余裕をもって空調が使用できます。

役立つポイント②「低ランニングコスト」
一般のガス料金と比べてとてもお得な「空調用ガス料金」がご利用いただけます。（一部適用されない場合もあります。）

役立つポイント③「環境にやさしい」
主燃料である「天然ガス」は、化石燃料の中で、燃焼時に排出するCO_2、NOxが最も少ないクリーンエネルギーです。

答えはガス空調

◎「ガス空調」に関するお問い合わせは、大阪ガス(株)エネルギー開発部 エネルギー営業チーム　TEL.06−6205−4670まで

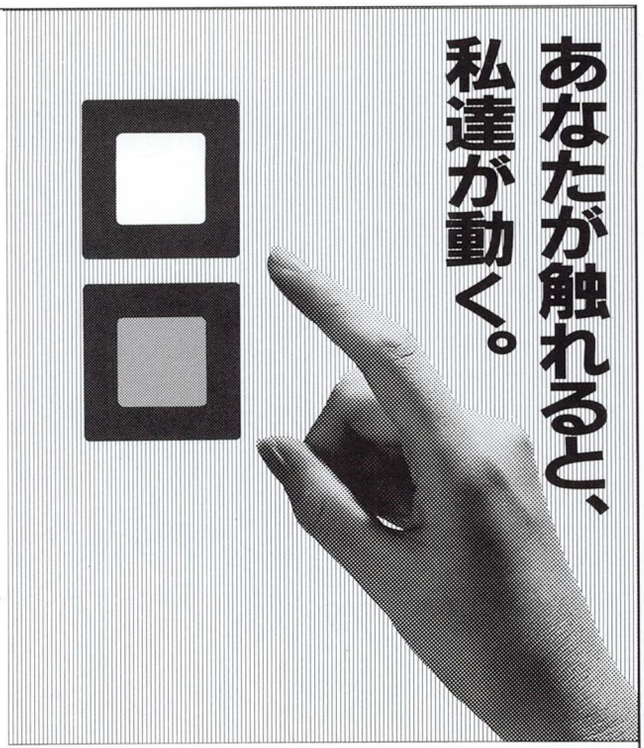
Engineering and Service



人類はグローバル・パワーで
環境破壊を懸命に
くい止めようと努力している
星を汚した現代人……
次代人にきれいな星を渡したい。

空気調和・衛生設備・設計施工
株式会社 三晃空調

本　社
大阪本店　大阪市北区西天満3-13-20　電話（06）6363-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　電話（03）3344-7911
支　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡



**私達はより快適な
人間環境を追求します。**

スイッチＯＮ。私達の技術がフル回転をはじめます。あなたの身のまわりの、なんの変哲もないスイッチひとつの裏側に、私達のノウハウがいっぱいつめこまれています。あなたはただ触れるだけ、私達の出番です。あなたが普段、なにげなく使っている設備、なにげなく過している環境に、より快適であるよう生命を与えつづけること…これが私達の仕事です。

いろんな快適、笑顔でつなぐ。 住友電設

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備/給排水衛生設備/塗装プラント
公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル　☎03-3344-1851(代)
大阪本社・大阪支社　大阪市北区中之島3-2-18
住友中之島ビル　☎06-6448-5851(代)
http : //www.taikisha.co.jp/



あなたの、
いちばん心地良い場所はどこですか。
きっと、多くの方が、
大自然の中をイメージされることでしょう。
私たちは、そんな快適さを
あらゆる建物の内に
創造していきたいと考えています。
もっとナチュラルに、
いつもあなたのそばに、ダイダンです。

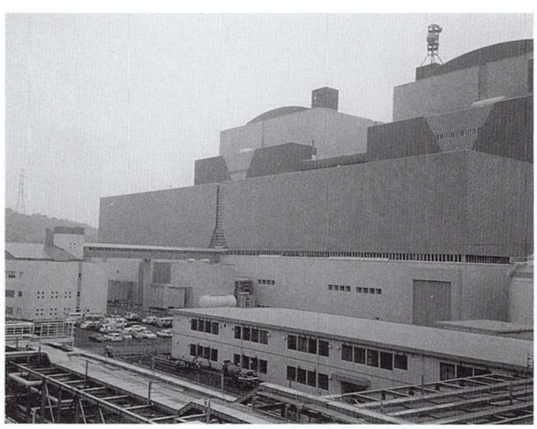
Always With You.

―光と空気と水を生かす―
ダイダン

OSHIMA OHYO

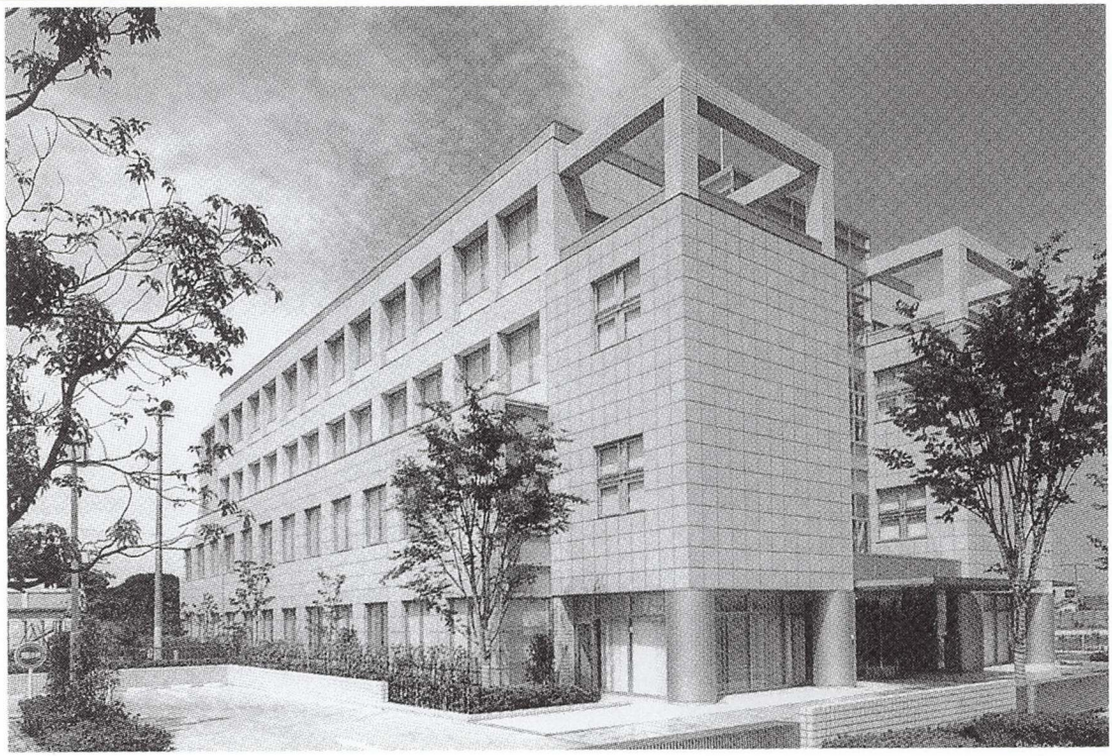
耐酸被覆鋼板のパイオニアとして半世紀の経験で培われた製品群はJIS表示許可工場（愛媛工場）で厳正な品質管理を行って皆様のニーズにお答えします。

■フッ素樹脂積層被覆鋼板
TOF（タフフロール）不燃(個)第11586号
■耐酸被覆鋼板
COM（ケミカラーオーシマメタル）不燃(個)第1326号
RMB（ルーフメタルB）不燃屋根用(個)第1006号
■長尺屋根外装材、換気装置
金属製折板屋根構成材（JIS A6514）
ベンチレーター
エアムーバー、モニター


電源開発(株)橘湾火力発電所1．2号本館

大島応用化学工業株式会社
本社　〒535-0001　大阪市旭区太子橋1-15-22
TEL.06(6954)6521　FAX.06(6954)6480
http://www.oshima-ohyo.co.jp

支　店／東　京　TEL.03(3580)6061
名古屋　TEL.052(241)8588
新居浜　TEL.0897(46)2300
営業所／四日市，岡山，広島，宇部，福岡



大型陶板

大塚オーミ陶業

●OTセラミック　●テラコッタ　●美術陶板

東 京｜〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-6 TEL03(5295)3555 FAX03(5295)3556　大 阪｜〒540-0021 大阪市中央区大手通3-2-21 TEL06(6943)6695 FAX06(6943)6487

ALESCO

www.kansai.co.jp

優れた機能で室内汚染をシャットアウト！

あなたと、あなたの大切な人を室内汚染から護ります。



高級水性反応硬化多機能塗料　内装用ハイテク塗料

コスモクリーンⅢ

優れた5つの機能

1.抗菌性（黄色ブドウ球菌、大腸菌ほか）

2.室内空気清浄性（ホルムアルデヒド除去効果）

3.消臭効果（アンモニア〈尿臭〉、硫化水素〈排便臭〉ほか）

4.有害物放散抑制効果（TCEP放散抑制効果）

5.汚れ除去性（優れたクリーニング性）

「微臭性」「ヤニ止め性」「防藻性」も抜群です。

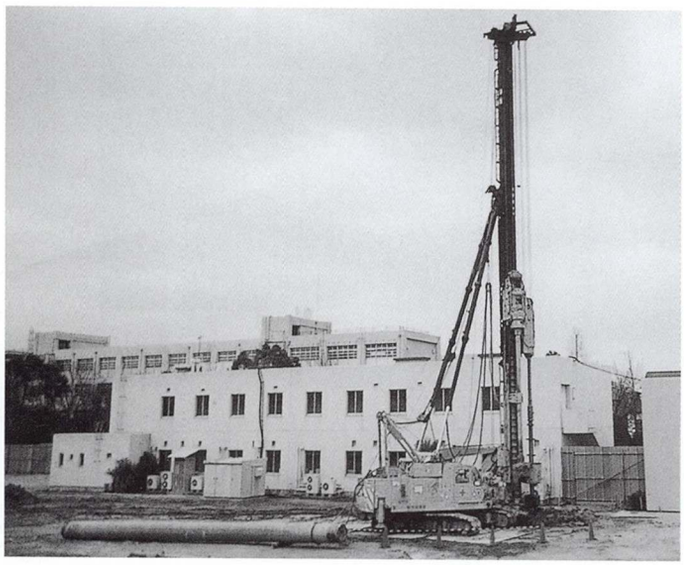
資料のご請求、お問い合わせは

関西ペイント株式会社

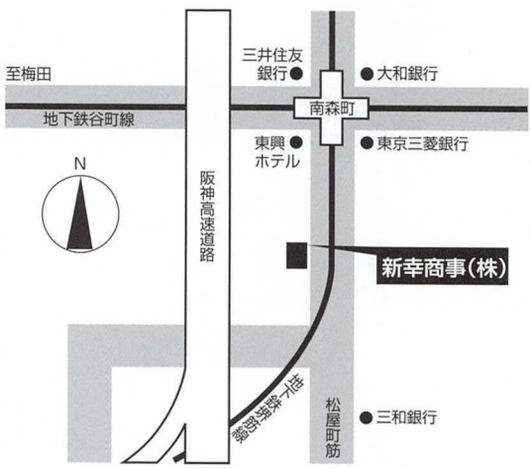
建築塗料本部　東 京／〒140-8520 東京都品川区東大井5丁目24-15 TEL. 03-3472-3111　大 阪／〒541-8523 大阪市中央区伏見町4丁目3番6号　TEL. 06-6203-5012

安全と技術

PHCパイル打設工事
場所打杭工事
連壁工事



SHINKO
新幸商事株式会社
〒530-0045 大阪市北区天神西町5番17号
アクティ南森町403号
●TEL (06) 6311-1871㈹ ●FAX (06) 6311-1870

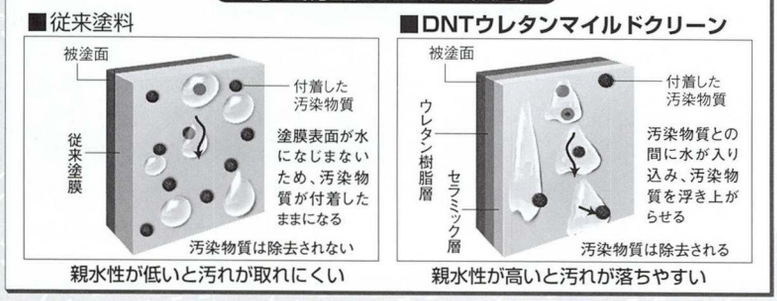




鉄部、コンクリート
モルタル、各種ボード等の
新設・塗り替え

低汚染形セラミック変性NADウレタン樹脂塗料
DNTウレタンマイルドクリーン

汚れ防止のメカニズム



彩りに優しさをそえて
DNT 大日本塗料
お問い合わせは
●大 阪 ☎06-6466-6618
●東 京 ☎03-5710-4501
●名古屋 ☎052-332-1701
http://www.dnt.co.jp/
塗料相談室 フリーコール 0088-22-1641(いろよい)



グラフィックタイルカーペット

GXシリーズ

高いデザイン性と、豊富なバリエーション。
オフィスはもちろん、宿泊施設や商業施設にも彩りを添えます。

バリエーションは、グラーバ(GRAVA)、ルシェロ(RUSCELLO)、ブレッザ(BREZZA)、デセルト(DESERTO)、グラウィス(GRAVIS)、モデルノ(MODERNO)の6種類。
その他に空間構成にかかせない無地タイプ12色のカラーパレットGX200もあります。

防炎 制電 防汚糸加工 業務4

品名	価格(円/m²) 材料価格 税抜き価格	組成 パイル	規格 パイル長	全厚(mm)	アイテム
グラーバ	8,900	BCFナイロン100% (原糸ナイロンDupontアントロンルーミナ®)	H5mm/L3mm マルチレベルループパイル	8	10
ルシェロ※	8,900	BCFナイロン100% (原糸ナイロンDupontアントロンルーミナ®及びスペースダイ糸)	H4.5mm/L3mm テクスチャードループパイル	7.5	10
ブレッザ※	9,800	BCFナイロン100% (原糸ナイロンDupontアントロンルーミナ®)	H4.5mm/L3.5mm テクスチャードループパイル (チップシェア仕上げ)	8	8
デセルト※	9,800	BCFナイロン100% (原糸ナイロンDupontアントロンルーミナ®)	H4.5mm/L3mm テクスチャードループパイル	7.5	4
グラウィス※	11,500	BCFナイロン100% (原糸ナイロンDupontアントロンルーミナ®及びスペースダイ糸)	H5.5mm/M4mm/L3mm テクスチャードループパイル	9	12
モデルノ※	11,000	BCFナイロン100% (原糸ナイロンDupontアントロンルーミナ®)	H5.5mm/L3mm カット&ループパイル	8.5	4
GX-200※	8,500	BCFナイロン100%	6mm カットパイル	9	12

※の商品は4m²からの受注生産品が含まれています。

東リ タイルカーペットマテリアルリサイクルシステム 稼動開始

当社工場内にリサイクル設備が完成しました。(特許出願中)
新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)による産業技術実用化開発助成事業として国からも認められています。第一段階として工場内の廃材処理からスタートします。

TOLI

■西日本営業開発部 〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル TEL.06(6943)1645
■大阪ショールーム 〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル TEL.06(6943)1649

〔URL〕http://www.toli.co.jp

東リ株式会社



サークルスター［暁海アイランド トリトンスクエア］

回転ドアにも、自動引き戸にも切換えのできる1台2役。
サークルスターデュオ

軽量ドアから、重量ドアまで快適な通行を提供します。
DSシリーズ(引き戸)

人と列車の接触アクシデントを防止します。
プラットホームドアシステム

ナブコの自動ドアは、オフィスビルや店舗などの他、駅のプラットホームドアから産業用ドアまで、幅広いフィールドで活かされています。ナブコは常に最先端の技術で、時代を先取りした自動ドアシステムの開発に力を注いでいます。私たちはこれからも斬新なアイデアで、新しい発想の自動ドア商品を提供し続けてまいります。

2001年、建築未来の可能性を拡げます

ナブコ自動ドア

NABCO 株式会社 ナブコ 建築事業部

東京営業 東京都港区海岸1-9-18(国際浜松町ビル9F) 〒105-0022 TEL.(03)5470-2415
神戸営業 神戸市中央区磯上通6-1-9(神戸MKビル7F) 〒651-0086 TEL.(078)251-8072
URL http://www2.nabco.co.jp/

西日本地区販売会社
ナブコドア株式会社

本 社 大阪市西区西本町1-12-22 〒550-0005 TEL.(06)6532-5841
URL http://www.nabco-door.co.jp/

省エネルギー・
省資源化を志向する。



地球環境保護と
エネルギー問題を考える時代に立ち、
豊富な経験と実績を活かし、
お役に立ちます。

MAEDA

ボイラ・熱交換器・炭酸風呂など
熱関連総合機器メーカー

株式会社 **前田鉄工所**

本　　社 〒382-8555
長野県須坂市大字豊丘1385-1
Tel 026-246-7301(代)
営業本部 〒103-0012
東京都中央区日本橋堀留町1-3-21
サンヨー堂日本橋ビル
Tel 03-3639-3537(代)
産業営業部 Tel 03-3639-3531(代)
東京営業部 Tel 03-3639-3531(代)
札幌営業所 Tel 011-261-2428(代)
仙台営業所 Tel 022-261-7381(代)
盛岡出張所 Tel 019-643-6651
長野営業所 Tel 026-243-3443(代)
名古屋営業所 Tel 052-961-1891(代)
金沢出張所 Tel 076-223-2846
大阪営業所 Tel 06-6358-2321(代)
テクノ関東営業所 Tel 03-3879-4381(代)
長野工場 Tel 026-246-7303(ダイヤルイン)

http://www.maedatekkou.co.jp

National 松下電工

オフィスの状況変化に対応する。これからの照明省エネです。

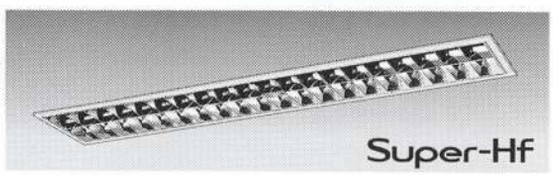


オフィスのまるごと省エネ におすすめ。

センサ機能付照明器具 **マルチセルコン**

60%※ 省エネ

※試算条件/当社ラピッドタイプ(85W×66台×3000時間×23円/kWh÷1000)とマルチセルコン(90W×42台×3000時間×(0.9×0.85×0.77)[外光利用による省エネ10%、初期照度補正による省エネ15%、不在時調光と消灯による省エネ23%]×23円/kWh÷1000)との比較。器具配置の机上面平均照度は750lx。ランプ・照明器具の汚れの清掃間隔1年。



フリー F4259HEY

○資料のご請求は、〒571-8686 松下電工(株) 照明分社 マーケティングG(住所不要) TEL.06-6908-1131(大代表)まで。

あかりと電気設備ホームページ http://www.mew.co.jp/Ebox

Smart Solutions by **NAiS**

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社 ☎06—6448—5851(代)　名古屋支店 ☎052—211—1535(代)　中国支店 ☎082—247—5541
九州支店 ☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

より快適な水環境をめざして
給排水衛生設備，冷暖房設備，消火設備の設計，施工

株式会社 西原衛生工業所 大阪本店

大阪本店　〒531-0071 大阪市北区中津六丁目8番4号
TEL 06-6458-3628(代表)
本　　社　〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目6番18号
TEL 03-3452-7441(代)
支　　店　札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋・九州

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　宅　清光
常務取締役関西支店長　本木　満

関西支店　大阪市淀川区宮原3-4-30 ニッセイ新大阪ビル　電話 06(6350)8100
本　　社　東京都千代田区有楽町1—4—1　電話 03(3502)6103
支　　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装

●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング

●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電

まちと暮らしにあふれるクリエイティブカンパニーをめざす
住友電設株式会社　大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

CHOYO

人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。

電気設備設計施工
朝陽電気株式会社

代表取締役　山本貴士

本　　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社

取締役支社長　伊藤義信

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪(6202)0325～9番
本　　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪 (06) 6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪 (06) 6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話 (03) 5689—2351代表

電気設備設計施工

株式会社 三興社

代表取締役社長　上田正雄

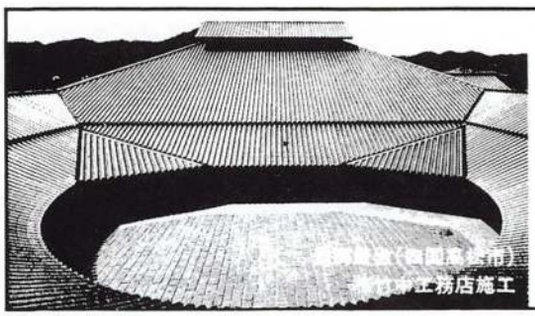
本　　社　大阪市中央区北浜3—6—13（日土地淀屋橋ビル）
電　話　06（6205）3671（代）
支　　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03（3666）1478（代）
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

OKUJU
スペース クリエイター
建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」
内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー
本 社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530—0047
TEL(06)6312—4131 FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・南九州・京都

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒 板・掲示板・家 具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3—4—5
TEL06(6792)5858 FAX06(6792)2810

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本 社 大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06—6532—0641(代表)
FAX.06—6535—5181
天理営業所 天理市丹波市新町49

●情報処理●企画・制作●編集●画像処理●印刷・製本
人と技術をクリエイティヴで結びます
日本データネット株式会社
本 社 〒530-0043 大阪市北区天満1-1-10 TEL.06-6352-7502 FAX.06-6355-2714
制作部 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19 TEL.06-6352-0943 FAX.06-6355-5533
印刷工場 〒530-0043 大阪市北区天満2-5-15 TEL./FAX.06-6352-1551


〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、
ファックス 六五六一～七四五四
☎ 六五六一～七四一六

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,
代表取締役社長 依藤孝行
青葉印刷株式会社
〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材） コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材） 鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント） コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材） 地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材） コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000

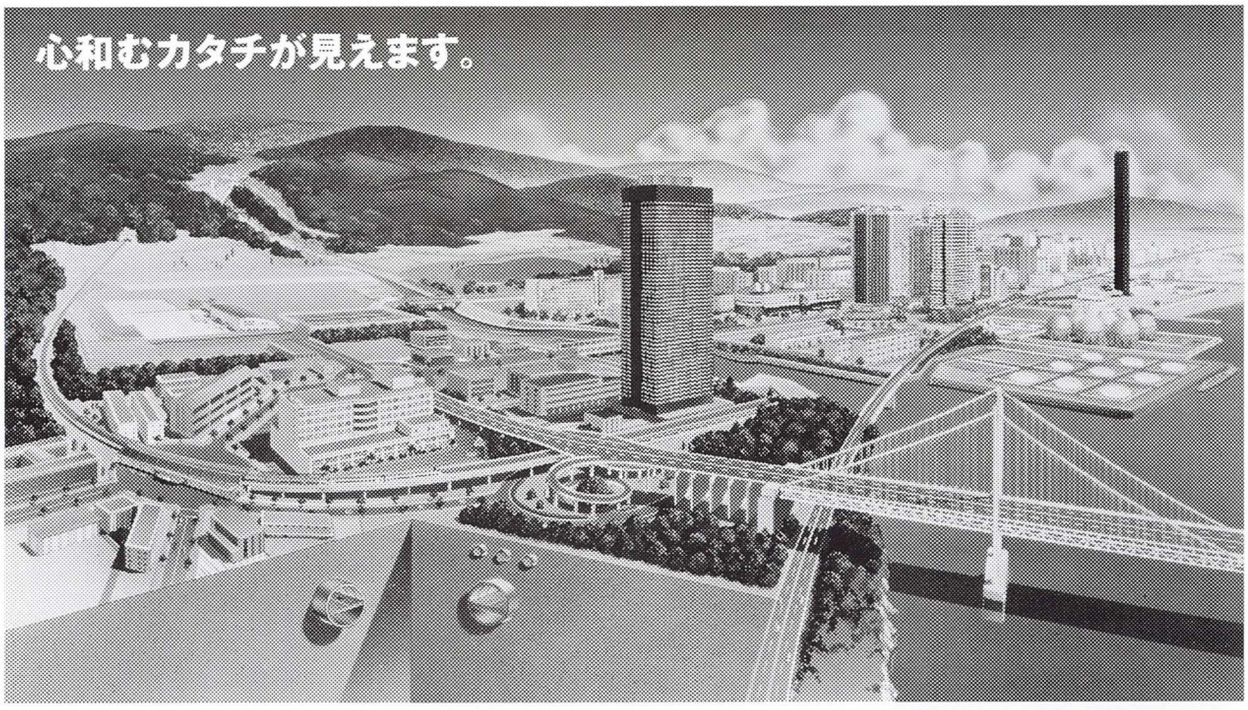
東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581



「建設業は“モノ造り”こそが基本」という原点に立ち返り、
鉄建は、現場主義を徹底し、効率的な生産システムを構築いたします。
21世紀にその存在を主張できる企業をめざし、自らの企業体質を変革してまいります。
多様化する“お客さまニーズ”に応え、お客さまにとっての新しい価値を創造するため、
俊敏かつ柔軟な“手造り”の現場ワークを大切にしてまいります。

ご期待ください、新生・鉄建の企業力。

TEKKEN
信用と技術の
鉄　建
http://www.tekken.co.jp/



私たちが目指すのは、“環境との調和”です。

いろんなカタチが、いろんな空間と融合し、さらなる自然環境を創り出します。
輝ける21世紀の日本を築くために三井建設は、より快適な、より心地よい“環境との調和”を図りながら社会資本の充実に貢献してまいります。

三井建設

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-36-5
TEL（03）5614-9826（広報室）
http://www.mcc.co.jp/

21世紀の快適空間をサポート！

小松ウォール

豊かなバリアフリー社会をめざして

人と環境に優しい製品、それが私たちのモットーです。

人々の生活空間ですべての人
に障壁がないことそれがバリアフリーの
原点です。
小松ウォールは各種間仕切、建具を通じて人
に優しい環境を具現化する製品開発を
進めています。

ドアの概念を変える・・・

カムフォートドア

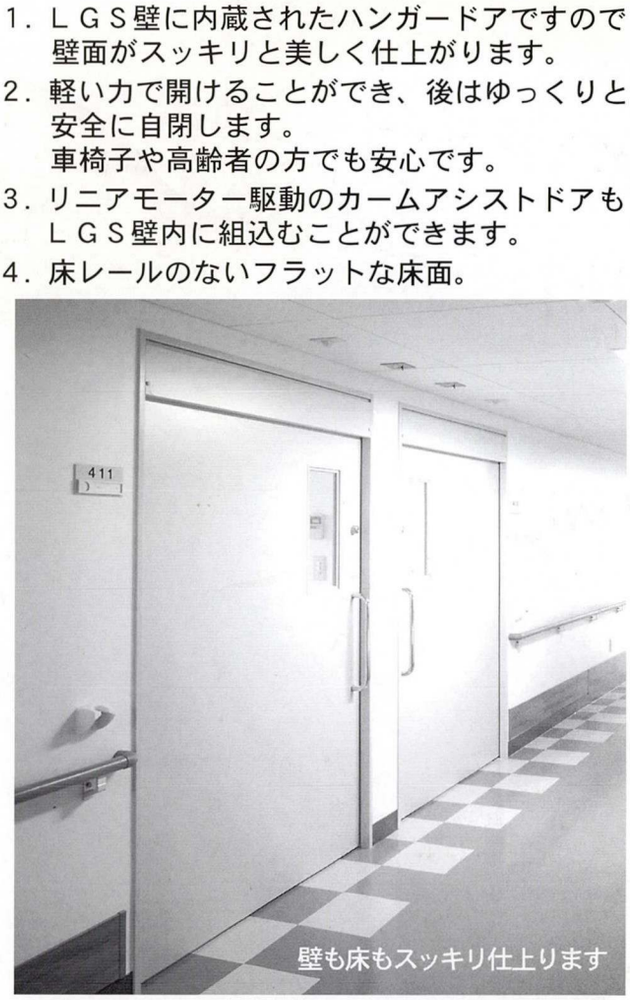
1．省スペース、戸袋スペースが不要です。
2．車椅子でもほとんど体の向きを変える
　ことなくスムーズ開閉できます。
3．床レールがありません。
4．自閉装置対応可能です。
5．非常時に楽にドアを取り外せます。
6．安全・軽量・静音設計。



壁面スッキリ・・・ハンガードア

LGS内蔵カームドア

1．ＬＧＳ壁に内蔵されたハンガードアですので
　壁面がスッキリと美しく仕上がります。
2．軽い力で開けることができ、後はゆっくりと
　安全に自閉します。
　車椅子や高齢者の方でも安心です。
3．リニアモーター駆動のカームアシストドアも
　ＬＧＳ壁内に組込むことができます。
4．床レールのないフラットな床面。



ISO 9001／14001
JQA-3152　JQA-EM1362

より良い地球環境・福祉環境の
創造をめざして

小松ウォール工業株式会社

本　　社／石川県小松市工業団地１丁目72番地　☎(0761)21-3131（代）
大阪市場開発部／大阪府大阪市中央区西心斎橋1-1-13　☎(06)6241-8416（代）
URL　http://www.komatsuwall.co.jp

Vol.53 通巻558号　2002年1月1日発行（毎月1回1日発行）　昭和24年3月1日第3種郵便物認可　ISSN 0372-8182
社団法人 日本道路協会　〒102-0093 東京都千代田区平河町2-5-8 道路会館　TEL(03)3264-4301(代)　FAX(03)3222-1065　振替口座00160-2-18076
定価1,200円（●本体1,143円●消費税57円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収